

V シラバス(2年)

V シラバス(2年)

文部科学省大学設置基準（令和4年9月30日一部改正）によると、「1単位にはおおむね45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする」とされており、授業時間以外に自己学修時間も含まれている。1又は2単位あたりに必要な学修時間は下表の通りである。

単位あたりの学修時間

授業形式	単位数 (学修時間数)	授業回数 (コマ数)	授業時間数	自己学習時間数	
				合計	1コマあたり (事前+事後)
講義	1単位 (45時間)	8	16(15)時間	30時間	4時間
	2単位 (90時間)	15	30時間	60時間	4時間
演習	1単位 (45時間)	15	30時間	15時間	1時間
	2単位 (90時間)	30	60時間	30時間	1時間

出典：大学設置基準第二十一条

V シラバス(2年)

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態		講義	
授業科目(英文)	コミュニケーション理論と実際 (Introduction to Theor and Practice to Communication)					ナンバリング	N-CO94	科目分類		基礎分野	
担 当 教 員	小野坂益成					1 科目当たりの合計自己学習時間			60時間		
履 修 条 件	前提科目	なし									
	その他	なし									
授業概要： 看護実践で必要とされる基本的なコミュニケーション能力の修得を目的とする。参加・体験型の授業形態を通じ、コミュニケーション理論ならびにコミュニケーションスキルについて学修する。また、ロールプレイやグループでの話し合いを通して、他者の考え方や自分の中に起こってくる感情や反応を知り、ヒューマンケアを実践する看護専門職者としての言動、傾聴、態度について考察する。											
授業目標： 1. コミュニケーションとは何か、その意味や必要性、重要性について考えることができる。 2. コミュニケーションという日常生活を送る上で必ず行われる事柄を意識し、自己や他者に関心をもち関わるることができる。 3. コミュニケーションの基本的な知識や技術を学び、看護専門職者に必要な基本的な態度について説明できる。											
授業計画、事前学習・事後学習、形式											
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）		事前・事後学習（学習課題）				授業形態		担 当		
1	ガイダンス コミュニケーションとは何か		事前：シラバスを確認する。 事後：課題レポート作成				講義		小野坂益成		
2	コミュニケーションの種類 一言語的コミュニケーション		事前：言語的コミュニケーションについて説明できるように準備する。 事後：課題レポート作成				講義 グループワーク		小野坂益成		
3	コミュニケーションの種類 一言語的コミュニケーション		事前：非言語的コミュニケーションについて説明できるように準備する。 事後：課題レポート作成				講義・グループワーク・ コミュニケーション ゲーム		小野坂益成		
4	コミュニケーションに影響するもの 自己理解		事前：自己理解について説明できるように準備する。 事後：課題レポート作成				講義 グループワーク		小野坂益成		
5	コミュニケーションに影響するもの 他者理解		事前：他者理解について説明できるように準備する。 事後：課題レポート作成				講義・グループワーク・ コミュニケーション ゲーム		小野坂益成		
6	グループでのコミュニケーション リーダーシップとメンバーシップ		事前：司会とファシリテーターについて説明できるように準備する。 事後：理解確認小テストに向けた準備				講義 グループワーク		小野坂益成		
7	グループでのコミュニケーション グループ間の交流 グループダイナミクスについて		事前：グループダイナミクスについて説明できるように準備する。 事後：課題レポート作成				講義・グループワーク・ コミュニケーション ゲーム		小野坂益成		
8	看護におけるコミュニケーション		事前：看護におけるコミュニケーションとは？を考え授業に臨む。 事後：課題レポート作成				講義 グループワーク		小野坂益成		
9	積極的傾聴と共感		事前：傾聴と共感について説明できるように準備する。 事後：課題レポート作成				講義 ロールプレイ		小野坂益成		
10	良好なコミュニケーションに必要な技法 質問技法		事前：良好な質問について考え、授業に臨む。 事後：課題レポート作成				講義 ロールプレイ		小野坂益成		
11	良好なコミュニケーションに必要な技法 関係構築の技法		事前：良好な関係性について考え、授業に臨む。 事後：課題レポート作成				講義 ロールプレイ		小野坂益成		
12	否定的なコミュニケーション 自己と他者		事前：否定的なコミュニケーションをされたらどのように対応するか考え、授業に臨む。 事後：課題レポート作成				講義 グループワーク		小野坂益成		
13	看護面接のプロセスと動機付け		事前：看護面接について説明できるように準備する。 事後：課題レポート作成				講義 グループワーク		小野坂益成		
14	多職種連携・患者家族とのコミュニケーション		事前：良好な家族とのコミュニケーションについて、説明できるように準備する。 事後：理解確認小テストに向けた準備				講義 グループワーク		小野坂益成		
15	まとめ		事前：これまでの講義資料を精読し、コミュニケーションについて説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：これまでの講義資料、小テストの見直し				講義		小野坂益成		
教本： なし 適宜、資料を配布する。											
参考文献： 1. 篠崎恵美子、藤井徹也 看護コミュニケーション 医学書院 2. 川野雅資 看護師のコミュニケーション技術 中央法規											
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (60%) 等で評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目 (レポート等) についてもすべて評価しない。											
学生へのアドバイス： コミュニケーションは、看護にかかわらず生活していく上で必ず生まれるものです。日常生活をよりよく生きるために良好な人間関係を構築し、また今後の看護師としてのコミュニケーションスキルを、授業を通して学びましょう。											

開講年次	2年次 前期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	看護のための経済学 (Economics)					ナンバリング	N-EC23	科目分類	基礎分野
担当教員	宮崎 隆					1科目当たりの合計自己学習時間		60時間	
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>私たちは誰もが日々経済活動をしています。ATMで現金を引き落としモノを買い、消費すること。会社に行って仕事をする。CO₂の減少に貢献するために再生可能エネルギーによる電力を使ったり、その電力でスマホに充電したりすること。これらはすべて経済行為です。経済学はこうした経済行為を一消費者や生産者、あるいは企業・産業、国単位、世界、環境、福祉、エネルギーなどの観点で表現したものです。本講義では主に日常にある経済問題を取り扱います。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>まず、専門用語と数字になれて下さい。次に経済の関連性についてイメージを作って下さい。たとえば、所得と税金、消費と価格、環境保全と電気自動車、為替レートと輸入・輸出などです。</p>									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担当
1	ガイダンス：授業の進め方と取り扱う問題の範囲の説明。基本的な経済用語と数値の解説。情報収集の方法等。					事前：経済問題をメモ。 事後：経済用語表を作成。		講義	宮崎 隆
2	世界の中の日本：日本はどのように成長・発展してきたか。世界の中で日本はどのようなポジションにあるかを解説。					事前：資料を読む。 事後：講義内容の要約		講義	宮崎 隆
3	日本経済のしくみ その(1)：企業・産業 わが国にはどのような企業と産業があり、世界的にみて特徴はあるのか。					事前：資料を読む。 事後：講義内容の要約		講義	宮崎 隆
4	日本経済のしくみ その(2)：政治と行政、経済 行政省庁と民間経済の関係。国と地方の関係性。経済政策の基礎を解説。					事前：資料を読む。 事後：講義内容の要約		講義	宮崎 隆
5	日本経済のしくみ その(3)：人口問題 一極集中と過疎化、少子高齢化社会の実態、コロナ禍で地方移住は進むか。					事前：資料を読む。 事後：講義内容の要約		講義	宮崎 隆
6	日本経済のしくみ その(4)：私たちの暮らしと税金 いわゆる「日本の借金問題」について。税金の基礎。					事前：資料を読む。 事後：講義内容の要約		講義	宮崎 隆
7	日本経済のしくみ その(5)：デジタル経済論 アナログとデジタル、ネットワーク、デジタル産業について。					事前：資料を読む。 事後：講義内容の要約		講義	宮崎 隆
8	エネルギー経済：電力 直流と交流、発電と送電、再生可能エネルギーとは。今後の電力政策。近未来の電力システム等					事前：資料を読む。 事後：講義内容の要約		講義	宮崎 隆
9	環境経済について：IPCCと地球温暖化問題 IPCC「報告書」の概要。地球温暖化の実態、環境政策の概要。					事前：資料を読む。 事後：講義内容の要約		講義	宮崎 隆
10	交通経済学：電気自動車 なぜ電気自動車か。電気自動車社会になると私たちの暮らしはどう変わるのか。					事前：資料を読む。 事後：講義内容の要約		講義	宮崎 隆
11	商業経済：流通と物流、マーケティング 私たちの日常の経済生活を支える裏側を見る。成功した戦略と失敗した戦略。					事前：資料を読む。 事後：講義内容の要約		講義	宮崎 隆
12	貨幣的経済学：銀行システムと為替レート 日本銀行と民間銀行。金融政策の基礎。為替レートはなぜ変動するのか。					事前：資料を読む。 事後：講義内容の要約		講義	宮崎 隆
13	福祉と経済：幸せを考える 厚生経済学の歴史。介護問題の基礎。経済学は人を幸せにするか。					事前：資料を読む。 事後：講義内容の要約		講義	宮崎 隆
14	医療の経済学1：医療政策 わが国の行政と医療。新型コロナ禍にみる政策の展開。					事前：資料を読む。 事後：講義内容の要約		講義	宮崎 隆
15	医療の経済学2：医療資源（人的資源、医療施設・医療機器・医薬品など）と今後の動向。					事前：資料を読む。 事後：講義内容の要約		講義	宮崎 隆
教本：なし。（適宜、資料を配布します。）					参考文献：なし。（関連情報源を随時提示します。）				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>小テスト・レポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。なお、指定のレポートの他に追加の自主レポートの提出を認め、成績に加算します。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>経済学の対象は多種多様ですが、皆さんが関係する問題、関心をもっている問題を取り上げます。</p>									

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	人間と環境 (Human and Environment)					ナンバリング	N-LI93	科目分類	基礎分野	
担 当 教 員	藤井智恵子					1科目当たりの合計自己学習時間			60時間	
履 修 条 件	前提科目	なし								
	そ の 他	なし								
授業概要： 人間の健康にとって必要な環境条件ならびに直面する環境問題について、文献ならびに保健統計をもとに考察する。その上で、看護・医療・福祉の現場における生活環境や環境衛生について理解を深める。具体的には、地球温暖化現象、オゾン層破壊、酸性雨、砂漠化現象、公害、廃棄物処理、食品安全、水の安全性、感染症、アレルギーなどについて概説するとともに、看護と生活環境の課題について明らかにする。また、物理的・化学的環境のみならず、心理的・社会的環境のあり方についても言及し、ストレス社会における調整についても学習する。										
授業目標： 1. フロレンス・ナイチンゲールの「看護覚え書」の中で特に人間と環境の関係について述べることができる。 2. 人間の生活環境としての快適環境条件、不適環境条件ならびに環境保全、環境衛生の必要性について述べるができる。 3. 地域環境汚染と公害、地球環境汚染と地球温暖化並びにその他の各種地球環境問題について説明できる。 4. 環境汚染物質の取り込み、代謝、排せつ、並びにその毒性と健康被害について説明できる。 5. 大気環境、水環境、土壌環境の健康影響、関連する感染症、水の安全性、毒性物質の体内蓄積について説明できる。 6. 生物学的環境と病原微生物、食品安全のための食中毒、寄生虫、衛生害虫、アレルギー等について説明できる。 7. 現代社会におけるストレスに起因する心の病について述べるができる。 8. 廃棄物処理、医療廃棄物の処理及び移動について説明できる。										
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)			授業形態	担 当
1	フロレンス・ナイチンゲールの「看護覚え書」から人間と環境について考える					事前：シラバスの内容理解 事後：「看護覚え書」の熟読			講義	藤井
2	環境省の発足から環境基本法～東日本大震災にかかる環境省の対応					事前：第1章「環境問題のあゆみ」の熟読 事後：生活環境についてまとめる			講義	藤井
3	公害健康被害 (大気汚染系疾病、水俣病、イタイイタイ病、重金属被害など)					事前：第2章「環境保健の動向」の熟読 事後：公害問題についてまとめる			講義	藤井
4	一般環境における化学物質ばく露の把握 ダイオキシン対策とPCB対策					事前：第3章「化学物質対策」の熟読 事後：ダイオキシンについてまとめる			講義	藤井
5	大気汚染対策の動向					事前：第4章「環境保全対策」の熟読 事後：大気汚染についてまとめる			講義	藤井
6	水質汚濁対策の動向					事前：第4章「環境保全対策」の熟読 事後：水質汚濁についてまとめる			講義	藤井
7	騒音・振動・悪臭対策の動向					事前：第4章「環境保全対策」の熟読 事後：騒音についてまとめる			講義	藤井
8	地球環境 地球温暖化対策、オゾン層保護対策、酸性雨対策					事前：第4章「環境保全対策」の熟読 事後：地球環境についてまとめる			講義	藤井
9	廃棄物対策の動向 廃棄物対策のあゆみ					事前：第5章「廃棄物対策の動向」の熟読 事後：廃棄物対策のあゆみをまとめる			講義	藤井
10	廃棄物対策の動向 一般廃棄物、医療廃棄物					事前：第5章「廃棄物対策の動向」の熟読 事後：一般廃棄物についてまとめる			講義	藤井
11	廃棄物対策の動向 災害廃棄物					事前：第5章「廃棄物対策の動向」の熟読 事後：災害廃棄物についてまとめる			講義	藤井
12	石綿健康被害					事前：第6章「環境要因による健康影響に関する取り組み」の熟読 事後：石綿健康被害についてまとめる			講義	藤井
13	生活環境施設の動向 食品安全行政の動向					事前：第7編第1章「生活環境施設の動向」第2章「食品安全衛生行政の動向」の熟読 事後：食品の安全対策についてまとめる			講義	藤井
14	化学物質の安全対策の動向					事前：第7編第3章「化学物質の安全対策の動向」の熟読 事後：家庭用品中の化学物質についてまとめる			講義	藤井
15	森永ひ素ミルク中毒のDVDを視聴して食品衛生について考える					事前：第7編、第9編の振り返り 事後：授業のまとめ			講義	藤井
教本： 国民衛生の動向 2023/2024 厚生労働統計協会					参考文献： フローレンス・ナイチンゲール「看護覚え書」小玉香都子・尾田葉子訳 日本看護協会出版会、2015					
成績評価の方法、評価基準： 授業参加態度等 (20%)、レポート (40%)、最終レポート (40%) 等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目 (レポート等) についてもすべて評価しない。 まとめノートを使用して、予習、復習を行い授業に臨むこと。										
学生へのアドバイス： この授業を通して、フロレンス・ナイチンゲールの「看護覚え書」に書かれている人間と環境の関りの大切さを学んでください。参考図書をたくさん読んで、積極的に授業内容を理解するように努めてください。										

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	マルチメディア表現 (Multimedia)					ナンバリング	N-IN23	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	鈴木 秀顯					1 科目当たりの合計自己学習時間		60時間	
履 修 条 件	前提科目	情報基礎							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>本講義は、社会とりわけ情報社会を理解した上で、コミュニケーション技術の基礎とそれに関わる社会現象上の諸問題を、多角的に理解する。また、企業、個人、地域社会、自治体、マスコミ、それぞれの立場に立った上でのコミュニケーションについて、議論により理解を深める。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>現代社会のコミュニケーションについて、コミュニケーション技術の基礎を理解し、自分自身がその情報コミュニケーション能力を身につける。</p>									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	ガイダンス（産業社会とメディアの変容）					事前：なし 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
2	「対人コミュニケーションの不確定性」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（115-124） 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
3	「選択される情報と現実」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（125-137） 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
4	「技術の進歩と社会の適応問題」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（138-147） 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
5	「情報の格差問題」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（148-158） 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
6	「生活世界と情報モラル」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（159-168） 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
7	「ネット世界の人間関係」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（169-180） 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
8	「情報社会のなかの人間」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（181-190） 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
9	「非認知能力1」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：配布資料予習 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
10	「非認知能力2」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：配布資料予習 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
11	「非認知能力3」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：配布資料予習 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
12	「技術からの価値の獲得」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：配布資料予習 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
13	「デザインのプロセス」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：配布資料予習 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
14	「アバター」について学習した内容をもとに、制作し発表する。					事前：配布資料予習、準備 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
15	「メタバース」について学習した内容をもとに、メタバース内イベントを制作し、発表する。					事前：配布資料予習、準備 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
<p>教本：</p> <p>『情報社会とコミュニケーション技術』（明石書店） ほか随時資料を配布</p>					<p>参考文献：</p> <p>『非認知能力』（北大路書房） 『実践デザインマネジメント』（東京電機大学出版局）</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>各回のディカッションはテキスト内の考えてみようをテーマに行います。必ず事前にテキストを精読の上、各自考えた上で参加するようにしてください。</p>									

開講年次	2年次 前期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	看護英語B (看護原書講読) (Nursing English B)					ナンバリング	N-LG13	科目分類	基礎分野
担当教員	垣内 史堂					1科目当たりの合計自己学習時間		60時間	
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>F・ナイチンゲールの原書を読むことにより、人間の理解、環境の整備の必要性、看護とは何かについての基本を捉えると共に、原著文献の読み方を学修する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 原著文献の読み方に親しみ、日本語訳を作ることができる。</p> <p>2. 日本語訳を作成する過程で、授業概要のいくつかの要因に触れつつ、履修者それぞれの目標を達成するための足がかりとなることができる。</p>									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	担当
1	Introductory (1) (p1) を精読する。					事前：該当部分を読んでおく 事後：再度精読と文法事項の確認		講義	垣内史堂
2	Introductory (2) (p2) を精読する。					事前：原書精読 事後：再度精読と文法事項の確認		講義	
3	Introductory (3) (p3) を精読する。					事前：原書精読 事後：再度精読と文法事項の確認		講義	
4	Introductory (4) (p4, 5) を精読する。					事前：原書精読 事後：再度精読と文法事項の確認		講義	
5	Heath of Houses (1) (p21, 22) を精読する。					事前：原書精読 事後：再度精読と文法事項の確認		講義	
6	Heath of Houses (1) (p23) を精読する。					事前：原書精読 事後：再度精読と文法事項の確認		講義	
7	Heath of Houses (1) (p24) を精読する。					事前：原書精読 事後：再度精読と文法事項の確認		講義	
8	Heath of Houses (1) (p25) を精読する。					事前：原書精読 事後：再度精読と文法事項の確認		講義	
9	Heath of Houses (1) (p26) を精読する。					事前：原書精読 事後：再度精読と文法事項の確認		講義	
10	Heath of Houses (1)(p27) を精読する。					事前：原書精読 事後：再度精読と文法事項の確認		講義	
11	Heath of Houses (1) (p28, 29) を精読する。					事前：原書精読 事後：再度精読と文法事項の確認		講義	
12	Heath of Houses (1) (p30) を精読する。					事前：原書精読 事後：再度精読と文法事項の確認		講義	
13	Heath of Houses (1) (p31) を精読する。					事前：原書精読 事後：再度精読と文法事項の確認		講義	
14	Heath of Houses (1) (p32) を精読する。					事前：原書精読 事後：再度精読と文法事項の確認		講義	
15	Supplementary Chapter (p131-) を精読する。					事前：原書精読 事後：再度精読と文法事項の確認		講義	
<p>教本：</p> <p>Nightingale, <i>NOTES ON NURSING</i> 現代社。 ¥1,650</p>					<p>参考文献：</p> <p>その他は随時提示する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等・小テスト・レポート等 (40%)、定期試験 (60%) 等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>原書を丁寧に読むようにしてください。</p>									
2020、2021年度入学者科目名称			看護英語A (看護原書講読)						

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	保健医療福祉行政と政策 (Health and Welfare Administrations, and its' Policies in Japan)					ナンバリング	N-LA63	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	渡邊 良久					1 科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 保健医療福祉の衛生行政と社会保障について学修し、看護のコーディネーション能力を開発、強化することを目的とする。総論として、保健医療福祉行政制度の変遷、国・都道府県・市区町村による保健医療福祉行政の仕組みと役割などについて学修する。各論として、健康増進・公衆衛生・医事行政、母子保健福祉行政、老人保健福祉行政、障害者保健福祉行政、産業保健福祉行政、日本の社会保障制度とその仕組み・問題点などについて学修する。									
授業目標： 1. 日本の社会福祉・社会保険制度について説明できる。 2. 看護職として地域の社会福祉機能の関わり方について説明できる。 3. 今後必要な社会福祉のあり方について述べるができる。 4. 保健医療福祉分野における各種の制度や関係法令が説明できる。 5. 保健医療福祉行政とその中における看護職の位置づけが説明できる。 6. 今後の保健医療福祉の制度改革の方向性を述べるができる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	社会保障制度と社会福祉に関する法や施策					事前：シラバス熟読 事後：社会保障制度と社会福祉に関する法律についてまとめる		講義	渡邊良久
2	社会保障制度の基本（小テスト） 医療保険制度					事前：テキスト「医療保障」を熟読 事後：医療保険制度についてまとめる		講義	渡邊良久
3	所得保障と公的扶助（小テスト） 労働保険、年金、生活保護					事前：テキスト「所得保障」を熟読 事後：労働保険、年金、生活保護についてまとめる		講義	渡邊良久
4	社会福祉の分野とサービス（小テスト） 障害者福祉、母子福祉					事前：テキスト「社会福祉の分野とサービス」を熟読 事後：障害者福祉、母子福祉についてまとめる		講義	渡邊良久
5	介護保険制度、高齢者に関する法律（小テスト）					事前：テキスト「介護保障」、「福祉法」を熟読 事後：介護保険制度、高齢者に関する法律をまとめる		講義	渡邊良久
6	社会福祉の展望 社会福祉の歴史と今後の方向性					事前：テキスト「社会福祉の展望」を熟読 事後：社会福祉の歴史と今後の方向性についてまとめる		講義	渡邊良久
7	疾病予防に関連する法律（小テスト） 地域保健法、健康増進法、感染症に関する法律					事前：テキスト「保健衛生法」を熟読 事後：地域保健法、健康増進法、感染症に関する法律をまとめる		講義	渡邊良久
8	学校保健や労働に関する法律（小テスト）					事前：テキスト「労働法と社会保障基盤整備」を熟読 事後：学校保健や労働に関する法律をまとめる		講義	渡邊良久
教本： 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③ 看護関係法令④ 医学書院					参考文献： 随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト（60%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 看護職として活動する際、保健医療福祉行政との関わりが不可欠です。特に人口の高齢化に伴い、保健医療福祉を取り巻く環境は激変しているため、高齢者福祉の制度や関連する様々な法制度が頻繁に改定されています。法制度やしくみを理解し、地域や患者家族と適切に関わる看護師となることを目指しましょう。									

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	医療と経済 (Introduction to Health Economics)					ナンバリング	N-EC53	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	松浦 広明					1 科目当たりの合計自己学習時間		30時間	
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要 医療経済学は、医療や医療制度、そして人々の健康に関する様々な事象を扱う経済学の一分野です。ヨーロッパにおいては、医学の分野から、医療技術や診療行為の経済的評価を中心に発達し、アメリカでは、経済学の一分野として、医療制度の経済分析と言う形で大きく発展してきました。本講義では、わが国の医療制度について、特に経済学的側面から考察する。医療サービスの経済学的特殊性、医療保険の理論と実際、医療・看護サービスの経済評価など、医療制度の様々な側面を経済学的手法を用いて検討していきます。									
授業目標： 1. 経済学の基本的な考え方を理解する。 2. 健康の決定要因としての医療の役割を理解する。 3. 医療費の高騰とその原因を理解する。 4. 医療費の高騰を抑えるための政策オプションについて理解する。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	医療経済学とは何か？					事前：なし 事後：講義の復習		講義	松浦広明
2	健康への需要 v. 医療への需要					事前：1 章 1 事後：講義の復習		講義	松浦広明
3	健康の決定要因としての医療の役割					事前：7 章 事後：講義の復習		講義	松浦広明
4	医療の供給					事前：なし 事後：レポート 1（翌週提出）		講義	松浦広明
5	医療のファイナンス					事前：1 章4-6, 9-11 事後：講義の復習		講義	松浦広明
6	医療経済評価Ⅰ：費用対効果分析					事前：4 章（2 章の内容もカバーします） 事後：		講義	松浦広明
7	医療経済評価Ⅱ：効率性と公平性					事前：なし 事後：講義の復習		講義	松浦広明
8	まとめ					事前：なし 事後：レポート 2（翌週提出）		講義	松浦広明
教本： 津川 友介 (2020) 「世界一わかりやすい「医療政策」の教科書」			参考文献： 1 松浦広明(2023)「健康の公平性、正義、権利」井深陽子・後藤勲・泉田信行編『健康経済学講義 ヒューマン・ケアのための理論と実証』東京大学出版会 2 マーク・ロバーツ、ウィリアム・シャオ、ピーター・パーマン、マイケル・ライシュ(2010)「実践ガイド 医療改革をどう実現すべきか」日本経済新聞出版社 3 WHO (2000) The World Health Report 2000 – health systems: improving performance, Geneva: World Health Organization 4 Drummond MF. (2005) Methods for the economic evaluation of health care programmes. 3rd ed. New York: Oxford University Press 5 Cookson, R., Griffin, S., Norheim, O. F., & Culyer, A. J. (Eds.). (2020). Distributional Cost-Effectiveness Analysis: Quantifying Health Equity Impacts and Trade-Offs. Oxford: Oxford University Press その他は随時提示する。						
成績評価の方法、評価基準： 2 回のレポート（各50%）で評価する。									
学生へのアドバイス： 全ての重要な連絡はメールでします。大学のメールの使えない方は、初日までに使えるようにしておいてください。									

開講年次	2年次 前期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	健康障害C (Health Disorders C)					ナンバリング	N-MS23	科目分類	専門基礎分野
担当教員	成尾宗浩・中 正剛・別所文雄・関口 剛					1科目当たりの合計自己学習時間			15時間
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 1. 運動器系の病態の特性：①骨の構造と機能、②腱・筋肉の構造と機能、③関節靭帯の構造と機能を学修し、運動器が人間の日常生活（QOL）に強く影響していることを理解し、さらに運動器疾患の各病態メカニズム、検査、症状および治療について学修をする。また、回復期におけるリハビリテーションの実際について、その適応や実技、装具などについても学ぶ。 2. 小児の健康障害：人間の成長と発達より、乳児期、幼児期、学童期、思春期各期の身体的・精神的発達について理解し、小児期特有の症状（発熱、脱水、呼吸困難、けいれん、嘔吐、下痢、湿疹、食欲不振など）や疾患のメカニズム、検査、治療について学修する。また、小児疾患の疾病の定義、病態、診断、症状、検査、治療について、事例などを紹介しながら学修する。また、救急救命の必要な事故・外傷、虐待、ハイリスク新生児、先天性疾患、心身障害のある小児の治療などについても学ぶ。小児の慢性期および終末期の治療についても学修する。 3. 精神・心理の健康障害：精神の構造と機能を理解し、それぞれの健康レベルと障害との関連、精神の不健康状態について理解するための知識を学び、今日の精神医学の知識を学修する。									
授業目標： 1. すでに学んだ人体の構造と機能（運動器系）を想起できる。 2. 各ライフステージによる運動器系の疾病の特徴を説明できる。 3. 運動器の症状とその病態について説明できる。 4. 運動器の検査及び診断について説明できる。 5. 運動器の治療の特徴を踏まえ、治療の説明ができる。 6. リハビリテーションの実際についてその適応や実技について説明ができる。 7. 小児疾患全般についての知識を獲得する。 8. 小児看護の果たすべき役割を学習する。 9. 精神症状の理解 10. 主に統合失調症、気分障害の理解 11. 主に薬物療法の理解									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担当
1～5	精神症状論と状態像 統合失調症 気分障害 神経症その他 精神治療学					事前：テキストを読んでおく 事後：ノートの記録をしながら本日の講義内容を確認する		講義	関口
6～10	運動器の構造と機能 骨折・脱臼・捻挫 骨の腫瘍 廃用症候群 変形性関節症 筋ジストロフィー、重症筋無力症 骨粗鬆症 腰痛症（椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症）					事前：本日の講義範囲の教本を読む 事後：ノートの記録をしながら本日の講義内容を確認する		講義	成尾中
11	先天異常、染色体異常、新生児疾患（胎内感染、発生異常を含む） 代謝性疾患（先天性代謝異常スクリーニングを含む：糖尿病は内分泌疾患で）					事前：講義範囲の教本を読む 事後：ノートの記録をしながら本日の講義内容を確認する		講義	別所
12	内分泌疾患（糖尿病、成長・発育を含む）、感染症								
13	免疫疾患（免疫不全、アレルギー・リュウマチ性疾患など）、呼吸器疾患、循環器疾患（先天性心疾患、川崎病など）								
14	消化器疾患、血液疾患、悪性新生物、腎泌尿器疾患（水・電解質異常などを含む）								
15	神経疾患（発達を含む）、運動器疾患（骨疾患、筋疾患など）、精神疾患（発達障害を含む）								
教本： 1 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学10「運動器」医学書院 2 系統別看護学講座 「小児臨床看護各論」医学書院 3 系統別看護学講座 精神看護の基礎 「精神看護学①」医学書院					参考文献： 1 新体系 看護学全書 成人看護学11「運動器」メジカルフレンド社 2016年度版 2 ナーシング・グラフィカ健康の回復と看護⑤ 「運動機能障害」MCメディカ出版 2016年度版 その他は随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（100%）を原則とし、出席状況等を加味して判断する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
学生へのアドバイス： 身体の構造・機能の運動器や神経系及び血管系の復習を十分してから、この授業に参加することで、よりいっそうの学習成果を得ることができます。									

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	薬物や放射線による人間の反応 (Human Response to Drugs and Radioactive Substances)					ナンバリング	N-MS33	科目分類	専門基礎分野
担 当 教 員	垣内史堂・吉井信哉					1 科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>多くの疾患において治療の中心となるのは薬剤である。この授業では、薬理学総論として薬物の基本的な知識・法・規則などを概略的に学習する。(具体的な作用・副作用など各論的な部分は健康障害A、Bで学ぶ。)</p> <p>また、現代の医療では、腫瘍に対する放射線治療だけでなく、放射線を使った検査機器の発展とともに放射線の医療に果たす役割はますます大きくなっている。この学科目では放射線の医療利用(放射線診断、放射線治療、輸血用の血液に対する放射線照射等)、人間への放射線の作用と健康への影響・リスク、放射線利用の際の医療者の被ばく防護対策を学ぶ。</p> <p>授業目標：</p> <p>(薬物による人間の反応)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物の作用点(受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター)を説明できる。 2. 薬理作用を規定する要因(用量と反応、親和性等)や薬物動態(吸収、分布、代謝、排せつ)を説明できる。 3. 薬物の蓄積、耐性、依存、習慣性や嗜癖を説明できる。 4. 薬物相互作用とポリファーマシーについて概説できる。 5. 薬物の投与方法(経口、舌下、皮膚、粘膜、直腸、注射、吸入、点眼、点鼻等)の違いによる特徴を説明できる。 6. 薬物作用の個人差に関与する因子を説明できる。 <p>(放射線による人間の反応)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 放射線の種類、作用、単位を列挙し、説明できる。 2) 「放射線」と「放射能」の違いを説明できる。 3) 放射線被曝の種類を列挙し、説明できる。 4) 防護の三原則を説明できる。 5) 各種画像検査を列挙し、その特徴、必要な前・後処置、禁忌事項がある場合にはそれを説明できる。 6) 造影剤の使用意義と有害事象について説明できる。 7) 核医学検査の特徴および注意事項を説明できる。 8) 癌治療における三大治療方法を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。 9) 放射線治療の生物学的背景を説明できる。 10) 放射線治療の方法を列挙し、特徴を説明できる。 									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	担 当
1	薬物による病気の治療、薬物の作用するしくみ(薬物受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター)					事前学習：教本1. 1章、2章Aを読んで、疑問点を整理しておく 事後学習：プリントを見直して講義の復習、課題レポート提出		講義	垣内 史堂
2	薬物の体内動態(薬物の投与経路、吸収、分布、代謝と排泄、体内動態の指標)					事前学習：教本1. 2章Bを読んで、疑問点を整理しておく 事後学習：プリントを見直して講義の復習、課題レポート提出		講義	垣内 史堂
3	薬物の相互作用・ポリファーマシー、薬効の個人差に影響する因子(年齢、性、妊娠、遺伝子)					事前学習：教本1. 2章C、Dを読んで、疑問点を整理しておく 事後学習：プリントを見直して講義の復習、課題レポート提出		講義	垣内 史堂
4	薬物使用の有益性と危険性(用量による影響、副作用、薬物耐性・依存)、薬害エイズ、予防接種によるB型肝炎、薬と法律(医薬品に関する法律、新薬開発)					事前学習：教本1. 2章E、Fを読んで、疑問点を整理しておく 事後学習：プリントを見直して講義の復習、課題レポート提出		講義	垣内 史堂
5	放射線と医学、放射線防護と健康管理 医療における放射線医学の役割、歴史、放射線医学の総論的な知識を修得する。また、放射線障害や放射線防護を学ぶ。					事前学習：教本を読んでおく 事後学習：プリントを見直して講義の復習		講義	吉井 信哉
6	X線・CT・MRI・超音波 X線CTを含めたX線診断の特徴ならび、MRIと超音波検査の特徴を学び、画像のなりたちを理解し、実際のCT・MRI・超音波検査に役立つ知識を身に付ける					事前学習：教本を読んでおく 事後学習：プリントを見直して講義の復習		講義	吉井 信哉
7	核医学・IVR血管造影 核医学検査や血管造影の特徴を学び、画像のなりたちを理解し、血管造影の診断技術を応用した治療手技IVRの必要性と手技を理解し、実際の検査に役立つ知識を身に付ける					事前学習：教本を読んでおく 事後学習：プリントを見直して講義の復習		講義	吉井 信哉
8	放射線治療 放射線治療の原理や基礎、照射法の種類など総論的な事項を学び、急性有害反応など実際に役立つ知識を身に付ける					事前学習：教本を読んでおく 事後学習：プリントを見直して講義の復習		講義	吉井 信哉
<p>教本：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学(第1部総論部分)、吉岡充弘、泉剛、井関健、横式尚司、菅原満、医学書院 2. 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 					参考文献：				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>出席時間・授業参加状況等は定期試験受験のための必要条件とし、小テスト・レポート等(20%)、定期試験(80%)等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目(レポート等)についてもすべて評価しない。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>この授業科目の内容は、1年生で履修した健康障害A、Bの各疾患について診断や治療に用いる薬物や放射線をまとめて学びます。医療現場で薬物と放射線の使用はきわめて有効ですが、同時に副作用など悪影響も少なくありません。基本的な薬物や放射線のはたらくメカニズムを理解しておくことは重要です。教科書にあらかじめ目を通しておくなど、毎回予習復習をするように心がけ、授業内容の理解に努めて下さい。Web上でも有益な情報が多く得られますが、うまく理解できないところは積極的に質問し、理解しておくことが肝要です。</p>									

開 講 年 次	2年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	医療支援技術 (Medical and Nursing Technologies)					ナンバリング	N-BN43	科目分類	専門科目
担 当 教 員	牛島典子・奈良かな子・勅使河原俊子・西 法子					1科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履 修 条 件	前提科目	生活援助技術演習Ⅰ・Ⅱ、フィジカルアセスメント演習、看護方法論演習の単位取得済							
	その他	なし							
授業概要： 健康、疾患、障害に対する診療の補助技術について、安全・安楽に行動するための法と理論的根拠について理解をして実践できるように学習する。具体的には、与薬法、検査法等の技術について看護の視点を含め学ぶこととする。									
授業目標： 1. 診療の補助に伴う援助を実践するために必要な知識と方法を学ぶことができる。 2. 診療の補助に伴う援助を受ける対象者を理解し、対象者の立場に立った援助が考えられる。 3. 診療の補助に伴う援助技術の特徴を理解し、基礎的技術が確実に、安全に実施できる。 4. 看取りの援助技術を理解し、対象者と周囲の人々へのケアについて考えることができる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態	担 当	
1	医療支援技術授業の進め方 診療の補助と医行為 安全確保の技術			事前：シラバス、講義に関する教科書を読み、事前に学習内容を確認して講義に臨む。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。(次回、確認テストあり)			講義	牛島	
2・3	感染防止の技術① 無菌操作と滅菌物の取り扱い			事前：無菌操作・滅菌物の取り扱いについての演習課題を提出する。 1年生で学習した感染防止対策を復習して臨む。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。(次回、確認テストあり) 滅菌手袋の着脱の練習をする。			講義 演習	牛島 他	
4・5	創傷管理の技術 感染防止の技術② 技術試験：滅菌手袋の着脱			事前：創傷管理の技術についての演習課題を提出する。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。(次回、確認テストあり)			講義 演習	牛島 他	
6・7	呼吸・循環を整える技術① 酸素療法			事前：酸素療法についての演習課題を提出する。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。(次回、確認テストあり)			講義 演習	牛島 他	
8・9	呼吸・循環を整える技術② 吸引（口腔・気管内）			事前：吸引についての演習課題を提出する。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。(次回、確認テストあり)			講義 演習	牛島 他	
10・11	排泄援助技術① 膀胱留置カテーテル			事前：膀胱留置カテーテル挿入についての演習課題を提出する。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。(次回、確認テストあり)			講義 演習	勅使河原 他	
12・13	排泄援助技術② 浣腸			事前：浣腸についての演習課題の提出をする。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。(次回、確認テストあり)			講義 演習	勅使河原 他	
14・15	食事援助技術 非経口的栄養摂取の援助			事前：非経口的栄養摂取の援助についての演習課題を提出する。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。(次回、確認テストあり)			講義 演習	奈良 他	
16・17	与薬の技術① 与薬の基礎知識 経口与薬の援助 経皮・外用の援助 坐薬の援助			事前：与薬の技術に関する教科書を熟読し、授業に臨む。演習内容についての事前課題を提出する。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。(次回、確認テストあり)			講義 演習	牛島 奈良 勅使河原 西	
18・19	与薬の技術② 皮下注射			事前：皮下注射についての演習課題を提出する。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。(次回、確認テストあり)			講義 演習	牛島 他	
20・21	与薬の技術③ 筋肉内注射			事前：筋肉内注射についての演習課題を提出する。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。(次回、確認テストあり)			講義 演習	牛島 他	
22・23	検査・処置における技術① 血液検査（静脈血採血）			事前：静脈血採血についての演習課題を提出する。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。(次回、確認テストあり)			講義 演習	奈良 他	
24・25	与薬の技術④ 静脈内注射			事前：静脈内注射についての演習課題を提出する。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。(次回、確認テストあり)			講義 演習	奈良 他	
26・27	検査・処置における技術② 生体検査・検体検査			事前：生体検査・検体検査に関する教科書を熟読し、授業に臨む。 事後：授業の復習をする。(次回、確認テストあり)			講義	奈良	
28・29	医療支援技術のまとめ (選択演習)			事前：演習に関する演習課題の提出をする。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。			講義	牛島 奈良 勅使河原 西	
30	与薬の技術⑤ 輸血の管理 死の看取りの援助			事前：輸血管理、死の看取りの援助に関する教科書を熟読し、授業に臨む。 事後：科目全体の復習をする。			講義	牛島	

教本：

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ：医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ：医学書院

参考文献：

成績評価の方法、評価基準：

演習参加状況、技術試験、確認テスト、事前・事後学習等（40%）、定期試験（60%）等で総合評価する。
なお、課題の提出は期限厳守であり、提出が遅れた場合には減点の対象となる。

学生へのアドバイス：

- ①演習に向けて事前課題を提示するため、事前課題を行っていることが演習実施の前提とします。事前課題と講義内での知識を統合し、確実かつ安全な演習へとつなげてください。
- ②毎回、確認テストを実施します。授業後に復習をして、基本的な技術の修得をしてください。
- ③対象者の体験をすることで援助時の知識・技術・態度の重要性を理解することができます。グループ内で協力して演習に臨んでください。
- ④演習では怪我等の危険が伴うため、注意力が欠如せぬように体調を整え、真剣に慎重に演習に臨んでください。
体調が優れない場合には、演習を実践することができません。速やかに自ら申し出てください。また、教員が危険であると判断した場合には、演習を中断します。

開 講 年 次	2 年 次 前 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	90	授 業 形 態	実 習
授 業 科 目 (英 文)	基礎看護ケア実践Ⅱ (生活の援助) (Basic Nursing PracticumⅡ)					ナンバリング	N-NP13	科 目 分 類	専 門 分 野
担 当 教 員	藤井智恵子・冨田幸江・牛島典子・奈良かな子・勅使河原俊子・西 法子 他								
履 修 条 件	前提科目	基礎看護ケア実践Ⅰの単位取得済 医療支援技術の受験資格有							
	そ の 他	IGRA検査、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。							
授業概要： 看護の対象である患者に対して、既習の知識、技術、態度を実際に適用し実践することを通して、看護学について基本的に理解することを目的とする。特に対象理解に着目し、患者とのコミュニケーションおよび日常生活援助技術の一部を指導下において提供し、入院生活や病気がその人にどのような生活上の変化をもたらしているのか、またそれによって生じた基本的ニーズの未充足に対してケアすることによって、対象の生活行動が全人的に拡大していく過程について理解する。また、専門的援助過程、問題解決思考過程、看護技術の成立過程、チームとの連携についても考察し、学修を深める。この実習を通して個々の倫理的課題を明確にする。									
授業目標： 1. 入院患者の生活環境を知り、入院生活や病気がその人に、どのような生活上の変化をもたらしているかについて全人的に理解する。 2. 対象に行われている「日常生活の援助」が、看護過程に基づいて実施されていることを説明でき、対象に沿った看護過程が展開できる。 3. 看護の専門性の一つである日常生活の援助により、患者の自然治癒力が促進されることの意味を理解できる。 4. 対象に関わるヘルスケアチームと看護チームの連携のあり方を説明することができる。 5. 看護を学ぶものとして倫理的配慮のもとに、対象と関わるができる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			担 当
10日間	各自の実習指導者について実習を行う。 日程及び実習の展開は「基礎看護ケア実践Ⅱの要領」を参照すること (後日配布)。 第1日目：学内にて実習オリエンテーションと自己学習 第2日目～第4日目：受け持ち患者に対して情報収集とアセスメント、看護ケアの実施 第5日目：学内にて看護過程の展開と看護計画の立案 第6日目～第9日目：看護過程に基づいた受持ち患者への看護計画の実践、最終日に最終カンファレンスを行い、実習の学びを発表する。 第10日目：学内にてまとめと報告会、最終個人面接を行う。					「基礎看護ケア実践Ⅱの要領」参照 看護方法論演習、フィジカルアセスメント演習、日常生活援助技術演習 Ⅰ・Ⅱの復習			藤井 他
教本： 看護学原論、生活援助技術演習Ⅰ・Ⅱ、看護方法論演習、フィジカルアセスメント演習、医療支援技術で使用したテキスト						参考文献： 随時提示する。			
成績評価の方法、評価基準： 実習態度、記録物等、別途定める実習評価基準に準ずる。 ●実習の前提として実習オリエンテーションへの出席も含むので、必ず出席すること。									
学生へのアドバイス： これまでの基礎看護学で学習した内容を基に実習を行いますので、実習前に復習をしておくこと。特に技術は繰り返し練習を行うこと。 体調を整えて実習に臨むこと。									

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	看護と倫理 (Nursing Ethics)					ナンバリング	N-N113	科目分類	専門分野
担 当 教 員	大橋優美子					1 科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 今日、医療がますます高度化、専門化している現場で、科学的な医学知識と技術を疾病治療に応用する中、治療、回復過程自体に心身の苦痛を伴うことが余儀なくされていることがある。そうした場合、患者が求めるケアとの間に倫理的問題意識が発生する。現代医療倫理の歴史と背景、患者の権利と責務、インフォームド・コンセント、専門職業人としての看護師の倫理観、価値観、責任のあり方、ケアの倫理及び事例等をもとに学習する。									
授業目標： 1. 倫理思想の要点を説明できる。 2. 生命倫理の諸問題を看護師の立場で適切に理解し、説明できるようにする。 3. 人間に対する理解を深め、自分の考えを話すことができる。 4. すでに学んだ主要な看護関係法規の知識を把握した上で、看護師の職務を法的な側面から説明できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	1. なぜ倫理を学ぶのか 2. 他者理解と対話のための理論 ・ナラティブとは、医療現場でのナラティブ 3. 生命倫理とは何か。					予習：P1～P22テキストを読む 復習：本日の内容を理解する		講義	大橋
2	1. 生命倫理の理論 2. 生命倫理と看護職の責務（インフォームド・コンセント、守秘義務と個人情報保護）					予習：P24～P40テキストを読む 復習：本日の内容を理解する		講義	大橋
3	1. 性と生殖の生命倫理 2. 死の生命倫理（死と医療、死についての生命倫理課題） 3. 先端医療と制度の生命倫理					予習：P42～P92テキストを読む 復習：本日の内容を理解する		講義	大橋
4	1. 看護倫理 1) 看護倫理の原則、2) 看護実践上の倫理概念、 3) 看護実践と倫理 2. 専門職の倫理 ①社会から見た看護、②専門職に求められる倫理、 ③専門職の倫理綱領、④看護業務基準と倫理実践、 ⑤保健師助産師看護師法と倫理					予習：P96～P136テキストを読む 復習：本日の内容を理解する		講義	大橋
5	1. 倫理問題へのアプローチ ①看護実践における倫理問題の特徴、 ②倫理問題へのアプローチ法 2. 看護研究の倫理					予習：P164～P180テキストを読む 復習：本日の内容を理解する		講義	大橋
6	事例分析 ケース1					予習：P190～P196テキストを読む 復習：自己の看護倫理をまとめる		グループ討議	大橋
7	事例分析 ケース2					予習：P202～P206テキストを読む 復習：自己の看護倫理をまとめる		グループ討議	大橋
8	事例分析 ケース3					予習：P207～P213テキストを読む 復習：自己の看護倫理をまとめる		グループ討議	大橋
教本： 「看護倫理」宮坂道夫 医学書院					参考文献： 1. 「看護倫理1・2・3」坂川雅子訳 いすず書房 2. 「ケアの倫理」ナースング・サブリエ編集委員会編 メディカ出版 3. 「看護倫理学」松本光子編集 スーパルヒロカワ その他は随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10%）、課題レポート等（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 倫理に関する諸問題の多くは、明解な答えがでることはほとんど期待できず、極めて厄介なものです。看護職者になる人にはぜひ、関心を持ち学んでほしいものです。医療が人々の生命・健康に直接関わるものだけに、医療職にかかわる法制度は複雑で多岐にわたり、看護師の職務遂行においても多くの問題に直面します。それゆえに法の制定されている趣旨を学ぶことにより理解を深めることができます。講義に参加し自らの今後の倫理的糧にしてください。 欠席者は、欠席当日自宅での自己学修をした内容確認のため、課題を出すことがあります。（翌週の授業開始前に教員に提出する。）									

開 講 年 次	2 年次 前期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	リプロダクティブ・ヘルス援助論 (Reproductive health Nursing theory)					ナンバリング	N-DN13	科 目 分 類	専 門 分 野
担 当 教 員	和田 佳子					1 科目当たりの合計自己学習時間			60時間
履 修 条 件	前提科目	身体の構造と機能 A・B の科目を修得していること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 生殖及び周産期の援助の基本となるリプロダクティブヘルス・ライツの概念と共に、生殖にかかわる生理機能や性・生殖に関する心理・社会的な基礎知識を学修する。また、発達段階で起こりやすい生殖にかかわる健康問題を理解し、健康的な生活への支援の基礎を学修する。									
授業目標： 1. 性及び生殖に関する概念について説明できる。 2. 母子保健に関わる法律・制度・施策について説明できる。 3. 性及び生殖に関する形態と機能について説明できる。 4. 女性の各ライフステージにおける身体的、心理・社会的特徴および健康課題について説明できる。 5. 性及び生殖に関わる看護における倫理について考えを述べることができる。 6. 性及び生殖に関する看護の展開方法について説明できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	担 当
1・2	ガイダンス 授業の目的、方法、評価について 母性看護の基盤となる概念 母性看護の中心概念、母性看護実践を支える概念 リプロダクティブ・ヘルスに関する概念					事前：第1章を読む 事後：授業内容の振り返り		講義	和田
3・4	性及び生殖に関わる動向、法律、制度、施策 母性看護の変遷、母子保健の動向、母子保健統計 法律、制度、施策					事前：第2章を読む 事後：授業内容の振り返り		講義	和田
5	性及び生殖に関する生理 生殖器の形態、生殖器の機能					事前：第3章を読む 事後：授業内容の振り返り		講義	和田
6	女性のライフステージにおける健康と看護 思春期・成熟期の健康課題と看護					事前：第5・6章を読む 事後：授業内容の振り返り		講義	和田
7・8	思春期・成熟期の健康課題と看護					事前：第5・6章を読む 事後：授業内容の振り返り		講義	和田
9・10	更年期・老年期の健康課題と看護					事前：第5章を読む 事後：授業内容の振り返り		講義	和田
11	性及び生殖における倫理的・社会的課題 自己決定権、人工妊娠中絶、生殖補助医療					事前：第1・6章を読む 事後：授業内容の振り返り		講義	和田
12	リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する倫理的課題					事前：事前課題 事後：授業内容の振り返り		講義 演習	和田
13	母性看護における看護過程（ウェルネス志向型）					事前：第4章を読む 事後：演習課題		講義 演習	和田
14	ウェルネス志向型の看護過程演習					事前：演習課題 事後：演習課題		講義 演習	和田
15	ウェルネス志向型の看護過程演習 まとめ					事前：演習課題 事後：授業内容の振り返り		講義	和田
教本： 森恵美他編 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学1 医学書院 2024					参考文献： 随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト（10%）、レポート（20%）、定期試験（70%）で総合的に評価する。									
学生へのアドバイス： 生涯を通じたリプロダクティブ・ヘルスの理念を基盤として、性と生殖に関する看護必要な知識と技術を学びます。積極的な姿勢で授業に取り組みましょう。									

開 講 年 次	2年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	老年期の発達援助演習 (Gerontological Nursing Care: Assessment & Skills)					ナンバリング	N-DN53	科目分類	専門分野
担 当 教 員	草地潤子・阿部ケエ子・深田雅美 他					1科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履 修 条 件	前提科目	老年発達援助論の単位を修得していること。							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>高齢者の健康障害に伴う生活機能のアセスメントとケアの技法を学習し、根拠に基づいた看護実践上の問題解決能力を習得する。</p> <p>既習の知識と技術を、実際の高齢者ケアの具体的な場面で個性に応じて活用できるように、高齢者に対するコミュニケーションの技法（認知症高齢者、非言語的方法）、健康障害に伴うアセスメント技法（嚥下障害、低栄養・脱水、褥瘡、転倒・骨折、感染症など）、根拠に基づいた問題解決技法などについて学び、演習を通して、安全・安楽な柔軟性のあるケアの習得ができるようにする。</p> <p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特性に応じたコミュニケーションの技法を用いて、健康の課題についてアセスメントできる。 2. 高齢者の健康障害に伴う生活機能の変化をアセスメントし、ケアの技法が行える。 3. 高齢者とその家族への実践とケアの技法から問題解決能力を習得する。 <p>授業計画、事前学習・事後学習、形式</p>									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1・2	科目ガイダンス 評価基準説明 老年看護学におけるヘルスアセスメント CGA、FIM、フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニア 高齢者の生活機能を整える看護 1) 生活リズムを整える看護					事前：シラバスの内容を確認する 事後：テキスト 高齢者のヘルスアセスメント、高齢者の生活機能を整える看護「生活リズム」を熟読する		講義 演習	草地
3・4	高齢者の生活機能を整える看護 1) 基本動作と環境のアセスメント 2) 転倒のアセスメントと看護 3) 廃用症候群のアセスメントと看護 4) 高齢者とのコミュニケーションと関わり方の原則 5) コミュニケーション障害を持つ高齢者の看護					事前：テキスト 高齢者の生活機能を整える看護「日常生活を支える基本的活動」を熟読する 事後：講義内容をテキスト・講義資料にて学修する		講義 演習	深田
5・6	検査・治療を受ける高齢者への看護 1) 検査を受ける高齢者の看護 2) 薬物療法を受ける高齢者の看護 3) リハビリテーションを受ける高齢者の看護					事前：テキスト「検査・治療を受ける高齢者への看護」を熟読する 事後：講義内容をテキスト・講義資料にて学修する		講義 演習	深田
7・8	高齢者の生活機能を整える看護 1) 高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題 2) 清潔のアセスメント 3) 清潔の援助 生活・療養の場における看護 1) 介護保険施設における看護 2) 地域密着型サービスにおける看護					事前：テキスト高齢者の生活機能を整える看護「清潔」「生活・療養の場における看護」「保健医療福祉施設および居住施設における看護」を熟読する 事後：講義内容をテキスト・講義資料にて学修する		講義 演習	草地
9・10	高齢者の生活機能を整える看護 1) 高齢者における食生活の意義 2) 高齢者に特徴的な食生活の変調 3) 食生活のアセスメント 4) 食生活の支援					事前：テキスト高齢者の生活機能を整える看護「食事・食生活」を熟読する 事後：講義内容をテキスト・講義資料にて学修する		講義 演習	草地
11・12	老年期患者の看護過程の展開 看護過程の展開および事例の理解、アセスメント					事前：テキスト 看護過程の展開および事例について熟読する 事後：事例に基づきアセスメントの課題を学習する		講義 演習	阿部 他
13・14	咀嚼・嚥下障害がある高齢者へのケア実践					事前：咀嚼・嚥下障害がある高齢者へのケアの事前課題を学習する 事後：咀嚼・嚥下障害がある高齢者へのケアについて演習課題を記載し学修する		演習	草地 他
15・16	老年期患者の看護過程の展開 全体像					事前：事例に基づき全体像の課題を学習する 事後：講義内容を講義資料にて学修する		講義 演習	阿部 他
17・18	老年期患者の看護過程の展開 看護問題・優先順位、看護計画					事前：事例に基づき看護問題・優先順位、看護計画の課題を学習する 事後：講義内容を講義資料にて学修する		講義 演習	阿部 他
19・20	老年期患者の看護過程の展開 看護計画 発表 まとめ					事前：事例に基づき看護計画の課題を学習する 事後：講義・演習内容を講義資料にて学修する		講義 演習	阿部 他

21・22	高齢者の生活機能を整える看護 1) 高齢者の排泄ケアの基本 2) 高齢者の排尿障害のアセスメントとケア 3) 高齢者の排便障害のアセスメントとケア	事前：テキスト 高齢者の生活機能を整える看護「排泄」を熟読する 事後：講義内容をテキスト・講義資料にて学修する	講義 演習	草地
23・24	健康逸脱からの回復を促す看護 1) 褥瘡のなりたちと臨床的特徴 2) 褥瘡の予防と看護 3) スキン-テアのなりたちと臨床的特徴 4) スキン-テアの予防と看護 5) 脱水のなりたちと臨床的特徴 6) 脱水の予防と看護	事前：テキスト 健康逸脱からの回復を促す看護「褥瘡・スキン-テア」「脱水」を熟読する 事後：講義内容をテキスト・講義資料にて学修する	講義 演習	草地
25・26	排泄障害がある高齢者へのケア実践 皮膚障害がある高齢者へのケア実践	事前：排泄障害がある高齢者へのケア、皮膚障害がある高齢者へのケアの事前課題を学習する 事後：排泄障害がある高齢者へのケア、皮膚障害がある高齢者へのケアについて演習課題を記載し学修する	演習	草地 他
27・28	認知機能障害のある高齢者の看護 1) 認知症の看護の原則 2) 認知症高齢者とのコミュニケーション 3) 認知症高齢者の環境調整 4) 認知症高齢者と家族へのサポート	事前：テキスト 認知機能障害のある高齢者の看護「認知症」を熟読する 事後：講義内容をテキスト・講義資料にて学修する	講義 演習	草地
29・30	高齢者のリスクマネジメント 1) 高齢者と医療安全 2) 高齢者と救命救急 3) 高齢者と災害看護	事前：テキスト 高齢者のリスクマネジメントを熟読する 事後：講義内容をテキスト・講義資料にて学修する	講義 演習	草地
教本： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院		参考文献： 根拠と事故防止からみた老年看護技術 医学書院		
成績評価の方法、評価基準： 課題提出状況（10%）、老年看護過程（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。				
学生へのアドバイス： 老年発達援助演習では、さまざまな知識を統合し更に演習を通して学習します。ここでの学習は健康段階の高齢者看護に役立ちます。予習・復習を行いノートを整理し、これからの実習にむけて備えましょう。				

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	家族看護学 (Introduction to Family Health Nursing)					ナンバリング	N-CN23	科目分類	専門分野
担 当 教 員	渡部月子・大脇淳子・和田佳子・望月麻衣					1科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 看護の対象として、地域で生活している家族を1つの単位として捉え、家族がセルフケア能力を高めることの重要性を理解し、援助方法を学ぶ。そして、家族自らが健康問題を解決し、より健康な生活を実践できるよう、事例を通して家族の役割・看護の役割を学修する。									
授業目標： 1. 家族の対象としての特徴を理解する。 2. 家族看護理解のための諸理論がわかる。 3. 家族看護における看護者の役割を学ぶ 4. 在宅療養者と家族の事例を通して、家族看護の実際を理解する。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	家族の対象としての特徴① 家族の概念 日本の家族の動向 家族の構造と機能					事前：シラバス内容を確認する STEP1「家族ってなんだろう」を熟読する 事後：家族の構造と機能を復習する		講義	大脇淳子
2	家族の対象としての特徴② 定位家族から生殖家族の発達・機能					事前：母性看護学概論「家族」を熟読する 事後：授業の内容を復習する		講義	和田佳子
3	家族の対象としての特徴③ 小児期の家族の機能					事前：小児看護学概論「家族の特徴とアセスメント」を熟読する 事後：授業の内容を復習する		講義	大脇淳子
4	家族を看護するための基本姿勢					事前：STEP2「家族を看護するための基本姿勢を学ぼう」を熟読する 事後：看護者の役割を復習する		講義	渡部月子
5	家族看護理解のための諸理論 家族発達理論 家族システム理論 家族ストレス対処理論 等					事前：STEP3「家族看護の実践に役立つ理論を知ろう」を熟読する 事後：家族看護学の理論を復習する		講義	和田佳子
6	家族の全体像の把握 ジェノグラム・エコマップ					事前：自分の家族構成を書く 事後：自分の家族のジェノグラムを修正する		講義	渡部月子
7	家族看護における看護者の役割① 家族の情報整理					事前：面接場面の準備をする 事後：面接場面を振り返る		講義	渡部月子
8	家族間後における看護者の役割② －在宅療養者と家族の事例を通して－					事前：既習内容を確認する 事後：事例を振り返る		講義	渡部月子
教本： 1 森恵美他編 母性看護学概論<1>、医学書院 2 丸光恵著、奈良間美保編、小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院					参考文献： 中野綾未・瓜生浩子 家族看護学 家族のエンパワーメントを支えるケア MCメディア出版 随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況（GW含む）等（10%）、レポート等（20%）、定期試験（70%）等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
学生へのアドバイス： 家族とは何か 少子高齢化や夫婦共働きや核家族に伴い、家族の存在は大きな変容を迎えました。在宅療養を継続している家族に、私たち看護者は何ができるのか、何をしなければいけないのか、一緒に考えていきましょう。									

開 講 年 次	2年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	在宅看護援助論 (Introduction to Home Care Nursing)					ナンバリング	N-CN23	科目分類	専門分野
担 当 教 員	渡部 月子					1科目当たりの合計自己学習時間			60時間
履 修 条 件	前提科目	看護学原論を修得していること							
	その他	なし							
授業概要： 在宅看護における対象と概念、訪問看護制度とその法的な枠組みや、訪問看護サービスの仕組みと訪問看護師の役割について学ぶ。地域で生活する在宅療養者とその家族の健康課題や、行われる支援について理解する。また地域包括ケアシステムにおける在宅看護の位置づけ、療養の場の移行に伴う継続看護の必要性、および地域包括ケアとして実践される多職種連携やケアマネジメントについて学ぶ。									
授業目標： 1. 在宅看護の理念・目的や特徴を学び、在宅看護の概要を把握できる。 2. 在宅看護が発展してきた必然性や社会的背景を知ることができる。 3. 社会から求められる在宅看護に関わる看護職の役割を理解できる。 4. 在宅看護における環境や生活の重要性を考慮することができる。 5. 地域包括ケアシステムの中の在宅看護の位置づけと働きを理解できる。 6. 多職種との連携・協働や継続看護の必要性について知り、地域で活躍する看護職としての資質を養うことができる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）					授業形態	担 当	
1	ガイダンス 在宅看護の概念、歴史と変遷 在宅看護の目的と特徴	事前：シラバスの確認、在宅看護に関する身近な事例を考える 事後：配布資料精読					講義	渡部	
2	在宅看護をめぐる社会文化的背景	事前：日本社会の現状について予習 事後：配布資料精読					講義	渡部	
3	在宅看護の対象としての療養者・権利・安全の保証	事前：訪問看護の対象に関する項目の熟読、家族看護について予習 事後：配布資料精読					講義	渡部	
4	在宅看護の法的基盤とシステム 介護保険制度・医療保険	事前：介護保険制度、医療保険制度に関する事項の熟読 事後：配布資料精読・介護保険制度・医療保険制度に関する課題					講義	渡部	
5	訪問看護制度の法的枠組み 訪問看護制度の理解	事前：訪問看護の制度に関する項目の熟読 事後：配布資料精読・訪問看護制度に関する課題					講義	渡部	
6	訪問看護ステーションの運営	事前：訪問看護の制度に関する事項の熟読 事後：配布資料精読					講義	渡部	
7	在宅看護と他職種の連携	事前：関係職種の連携に関する事項の熟読 事後：配布資料精読					講義	渡部	
8	在宅看護における連携 退院支援	事前：実習で得た医療施設での看護と在宅での看護について予習 事後：配布資料精読					講義	渡部	
9	在宅医療	事前：今までの実習で得た医療施設と在宅医療の連携について予習 事後：配布資料精読					講義	外部講師	
10	地域包括ケアシステムにおける連携	事前：地域包括ケアシステムに関する事項の熟読 事後：配布資料精読					講義	渡部	
11	訪問看護師の役割と活動①	事前：今まで学んできた中から訪問看護師の活動について予習 事後：配布資料精読					講義	渡部	
12	訪問看護師の役割と活動②	事前：今まで学んできた中から訪問看護師の活動の実際について予習 事後：配布資料精読					講義	外部講師	
13	社会資源と福祉用具の活用	事前：社会資源に関する事項の熟読 事後：配布資料精読・社会資源に関する課題					講義	渡部	
14	在宅看護における看護過程	事前：多様な場で生活する人の生活史をアセスメントする意義について予習 事後：配布資料精読					講義	渡部	
15	在宅看護における倫理的課題	事前：在宅看護における倫理に関する事項の熟読 事後：配布資料精読					講義	渡部	
教本： 地域・在宅看護論Ⅰ総論、 地域・在宅看護論Ⅱ支援論 南江堂					参考文献： 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 その他は随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（70%）等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
学生へのアドバイス： 在宅看護について学び人々の地域における療養生活を深く理解することは、将来どのような看護の現場に就職しても必ず役に立つと考えています。本科目は、現代社会に求められている在宅看護の全体像を知り、看護職としてのひとつの基盤を構築するためのものです。予習・復習をしっかりとって積極的に参加することを期待します。									

開 講 年 次	2 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	感情と行動 (Emotion and Human Behavior)					ナンバリング	N-PS34	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	菅沼 憲治					1科目当たりの合計自己学習時間		60時間	
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 医療・福祉・教育といった対人援助の領域では、サービスの対象者の心のケアが重要である。この講義では、人間の心と感情を理解するために、思考・感情・行動に関する心理学的基礎を学ぶとともに、サービス業の感情労働についても触れ、他者理解と自己理解を深め、人々とよりよいコミュニケーションを築くための考え方や方法について学習する。									
授業目標： 1. 感情について理解を深める。 2. 感情と行動の関係を理解することにより、対人援助職で起こりうる課題に適応できる能力を身につける。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当	
1	内的感情を示す様々なことば				事前：シラバスの確認 事後：指定資料の復習		講義	菅沼 憲治	
2	感情の生理学的基礎				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	菅沼 憲治	
3	感情概念と認知モデルの構造				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	菅沼 憲治	
4	認知的感情理論				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	菅沼 憲治	
5	感情の測定尺度				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	菅沼 憲治	
6	感情と記憶				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	菅沼 憲治	
7	感情経験の源と対人行動				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	菅沼 憲治	
8	ポジティブな感情と社会的行動				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	菅沼 憲治	
9	感情表出とコミュニケーション				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	菅沼 憲治	
10	共感と援助行動				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	菅沼 憲治	
11	感情の制御、開示と適応				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	菅沼 憲治	
12	パーソナリティ特性と個人差				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	菅沼 憲治	
13	感情労働の概念				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	菅沼 憲治	
14	感情労働による課題－ケーススタディから学ぶ－				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	菅沼 憲治	
15	まとめ				事前：指定資料の予習 事後：なし		講義	菅沼 憲治	
教本： 1. セルフ・アサーション・トレーニング〈増補改訂〉東京図書					参考文献： 1. 感情と行動・認知・生理－感情の社会心理学（対人行動学研究シリーズ）土田昭司、竹村和久（編著）誠信書房 2. 感情心理学・入門（有斐閣アルマ）大平英樹（編著）有斐閣アルマ 3. 感情と心理学－発達・生理・認知・社会・臨床の接点と新展開 高橋雅延、谷口高士 北大路書房 4. 管理される心－感情が商品になるとき A.R.ホックシールド(著)、石川准、室伏亜希 世界思想社 その他は随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
学生へのアドバイス： 心の理解と共有（1年次必修）を復習した上で履修することをすすめる。事前に指定資料を予習し、講義を受けることを前提としている。									

開講年次	2年次 後期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	看護のための教育学 (Pedagogy for Nursing)					ナンバリング	N-ED14	科目分類	基礎分野
担当教員	大沢 裕					1科目当たりの合計自己学習時間		30時間	
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>「人生をいかに生きるべきか」を考え、主張し、行動することは、グローバル化の進展しつつある今日、ますます重要になっている。この講義では、以上のことを念頭に置きながら、看護と教育の関係、教育の意義、思想、内容、方法、制度等について、看護師として必要な教育学の基礎的、基本的な概念等を学習する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>教育の意義、理念について理解し、教育の思想と歴史の変遷について学び、教育の基礎的理論を理解する。教育の制度・法規について理解する。教育実践の様々なあり方を知る。生涯学習社会の教育の現状と課題について認識する。</p>									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態	担当	
1	看護と教育			事前：教育記事を読み、800字でまとめる 事後：看護と教育についてまとめ、次回提出			講義90分	大沢 裕	
2	家庭教育（家族の教育）			事前：家庭教育を調べ、800字でまとめる 事後：家庭教育のありかたをまとめ、次回提出			講義90分	大沢 裕	
3	学校教育			事前：学校の特徴を調べ、800字でまとめる 事後：学校教育の特徴についてまとめ、次回提出			VTR試聴45分・ グループ討論45分	大沢 裕	
4	諸外国の教育思想と歴史			事前：世界史を復習し、800字でまとめる 事後：授業終了時に示す課題をまとめ、次回提出			講義90分	大沢 裕	
5	教師論—看護師との比較			事前：教師に関する記事を調べ、800字でまとめる 事後：授業終了時に示す課題をまとめ、次回提出			講義90分	大沢 裕	
6	教育における遺伝（素質）と環境の問題			事前：遺伝について調べ、800字でまとめる 事後：遺伝(素質)についての課題をまとめ、次回提出			講義90分	大沢 裕	
7	現代の教育問題—虐待、いじめ、体罰等			事前：虐待等の記事を調べ、800字でまとめる 事後：授業終了時に示す課題をまとめ、次回提出			講義90分	大沢 裕	
8	生涯学習と今後の教育課題（AI時代と教育）			事前：生涯と学びについて、800字でまとめる 事後：全授業を振り返り、今後の教育課題についてまとめておく			講義90分	大沢 裕	
<p>教本：</p> <p>『教育の知恵60』（大沢裕編著、一藝社） ¥1,870</p>				<p>参考文献：</p> <p>適宜、授業時に掲示する。</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>到達目標が達成できたかを評価する。教育に関わる基礎的事項が理解でき、教育的なもの見方・考え方が身についているかを、複数回提出させるレポートの内容によって総合的に評価する。</p> <p>評価の配分基準：（各授業時の小レポート内容 40%）、（期末のレポート内容 60%）</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>絶えず教育の時事的問題に関心を持ち、新聞記事を読んだり、インターネットで調べてみたりする習慣を身につけること。</p>									
2020、2021年度入学者科目名称			教育学						

開講年次	2年次 後期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	看護関係法令 (Nursing Legislation and Regulation)					ナンバリング	N-LA64	科目分類	基礎分野
担当教員	渡部月子・望月麻衣					1科目当たりの合計自己学習時間		30時間	
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>保健師助産師看護師法の成立過程とその変遷について詳しく概説することにより、法における職業の権限と役割、責務について看護の視点から考察する。また、看護関係法規は医師法、薬剤師法、医療法などとともに医療における社会システムとして機能している。その仕組みを知ることにより、看護に課せられた社会的役割について考え、他の専門職との協働について考える機会とする。</p>									
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法 の概念と衛生法 の概念について学び、その重要性を説明できる 2. 医事法として、「看護の基盤となる法」「医療的提供体制の基本となる法」「医療関係資格と保健福祉資格法」について理解できる 3. 薬務法について理解できる 4. 母子、障害者、高齢者に関する保健衛生法、社会保険法、福祉法が理解できる。 5. 労働法について理解できる 									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担当
1	法 の概念・衛生法 の概念 (法 の概念、衛生法)					事前：該当講義部分の教本を精読 事後：配付資料を精読し、まとめ		講義	望月
2	【医事法①】 看護職の基盤となる法 (保健師助産師看護師法、看護師の人材確保に関する法律など)					事前：該当講義部分の教本を精読 事後：配付資料を精読し、まとめ		講義	望月
3	【医事法②】 医療提供体制の基本となる法 (医療法・臓器の移植に関する法律など)					事前：該当講義部分の教本を精読 事後：配付資料を精読し、まとめ		講義	望月
4	【医事法③】 医療関係資格法と保健福祉資格法 (医師法、薬剤師法など)					事前：該当講義部分の教本を精読 事後：配付資料を精読し、まとめ		講義	望月
5	【薬務法】 薬剤に関する法 (医薬品医療機器等法など)					事前：該当講義部分の教本を精読 事後：配付資料を精読し、まとめ		講義	望月
6	【保健衛生法・福祉法】 母子・障害者に関する法律 (母子保健法・障害者総合支援法など)					事前：該当講義部分の教本を精読 事後：配付資料を精読し、まとめ		講義	望月
7	【保健衛生法・社会保険法・福祉法】 高齢者に関する法律（介護保険法、老人福祉法など）					事前：該当講義部分の教本を精読 事後：配付資料を精読し、まとめ		講義	望月
8	【労働法】 看護師を取り巻く労働に関する法 (労働基準法など)					事前：該当講義部分の教本を精読 事後：配付資料を精読し、まとめ		講義	望月
<p>教本：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 健康支援助と社会保障制度④ 看護関係法令、医学書院 					<p>参考文献：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「看護六法」 2. 「国民衛生の動向」 <p>その他は随時提示する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等（10%）、小テスト（10%）、定期試験（80%）等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（小テスト等）についてもすべて評価しない。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>看護関係法規は理解が困難な科目であるが、看護師の業務にとっては非常に重要なものであるため、指定した教科書の内容は必ず事前に読んでおいてください。そして、医療・看護にかかわるニュースやトピックスについて、日頃から気にしてみてください。</p>									

開 講 年 次	2 年次 後期	選択・必修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	世界の医療保健制度 (Comparative Health Systems: A Global Perspective)					ナンバリング	N-LA64	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	松浦 広明					1 科目当たりの合計自己学習時間		30時間	
履 修 条 件	前提科目	医療と経済							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>我が国における保健医療福祉制度の概念、理念について学習し、我が国と海外との保健福祉の概念、歴史、理念及び現状を踏まえて、その制度について比較し、人々の健康生活を保障するための保健福祉に関する法的根拠と実践システムについて理解をする。海外の状況を具体的に教授し、今後、我が国のよりよい実践システム構想についての施策を考える学習をする。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 諸外国の医療福祉制度の事情とその違いについて学習する。 2. 自身で、各国の医療制度を調査・分析し、それを文章として書き、他者に対してプレゼンし、それをもとに議論する能力を身に付ける。</p>									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当	
1	医療制度評価の基礎・OECD Health Statistics				事前：医療経済の授業の復習 事後：OECD(2020)を使ったエクセサイズ		講義	松浦	
2	アメリカの医療制度				事前：分担当所について調べてくる事 事後：なし		講義	松浦	
3	イギリスの医療制度						講義	松浦	
4	旧ソビエト連邦諸国の医療制度（ロシアの例を中心に）						講義	松浦	
5	フランスの医療制度				事前：プレゼンテーションの準備 事後：フィードバックを受けて反映させる事		講義	松浦	
6	ドイツの医療制度						講義	松浦	
7	メディカルツーリズム				事前：プレゼンテーションの準備 事後：フィードバックを受けて反映させる事		講義	松浦	
8	まとめ／学生のプレゼンテーション						演習	松浦	
<p>教本： なし</p> <p>参考文献： 1. OECD (2017) 図表でみる世界の保健医療 OECDインディケータ (2015年版) 2. マーク・ロバーツ, ウィリアム・シャオ, ピーター・バーマン, マイケル・ライシュ(2010)「実践ガイド 医療改革をどう実現すべきか」日本経済新聞出版社 3. WHO (2000) The World Health Report 2000 - health systems: improving performance, Geneva: World Health Organization 明石書店 4. Cohen, G (2014) "Patients with Passports: Medical tourism, Law and Ethics" Oxford University Press その他は随時提示する。</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準： 授業における貢献度（50%）、プレゼンテーション（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： この授業では、様々な国の医療制度について学んでいきます。シラバスでは、アメリカ、イギリス、旧ソ連圏の国々、フランス、ドイツの医療制度となっていますが、履修者の要望に応じて、それ以外の国の医療制度を対象にするよう変更する事もできます。初回の授業時にご相談ください。</p>									

開 講 年 次	2 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	公衆衛生 (Introduction to Public Health)					ナンバリング	N-MS64	科目分類	専門基礎分野
担 当 教 員	渡部月子・望月麻衣					1科目当たりの合計自己学習時間			60時間
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 臨床では、目の前にいる患者をいかに治療すべきかを考えるが、より多くの人々を健康にするためには、一人ひとりの患者の治療だけでなく、まだ、健康な人達をもサポートする包括的な保健医療システムが必要になる。本講義では、集団（人口）レベルでの健康の増進と疾病予防のために必要な社会的、経済的、環境的要因について学修する。公衆衛生学は資源分配の学問でもある。国家として医療に使える資源は限られているため、その資源で誰を優先して救うのか、逆の言い方をすれば誰を見捨てるのかと言う非情な決断を避けて通る事はできない。本講義では、資源分配の学問としての公衆衛生学を学び、医療経済学の授業へのイントロとする。									
授業目標： 1. 公衆衛生の概念を理解する。 2. 公衆衛生の場での疫学について説明できる。 3. 集団（人口）レベルの健康の増進と疾病予防について説明できる。 4. 日本国内だけでなく、地球規模の保健医療政策について説明できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	公衆衛生の概念（公衆衛生を知る I） 公衆衛生の概念、公衆衛生の歴史					事前：シラバスの内容理解 事後：公衆衛生の概念と歴史の復習		講義	渡部
2	公衆衛生の概念（公衆衛生を知る II） 公衆衛生の活動対象、公衆衛生のしくみ					事前：「公衆衛生の活動対象」を熟読 事後：公衆衛生の仕組みの復習		講義	渡部
3	疫学 疫学の概念、疫学で用いる健康指標					事前：「疫学・保健統計」を熟読 事後：健康指標について復習		講義	渡部
4	疾病予防と疫学 公衆衛生の場での疫学—集団を捉える、原因を分析する					事前：「疫学・保健統計」を熟読 事後：疾病予防と疫学について復習		講義	渡部
5	感染予防 感染症とその予防、わが国の感染症予防対策、院内感染と予防					事前：「感染症とその予防対策」を熟読 事後：感染予防について復習		講義	渡部
6	母子保健 母子保健の水準、母子保健の課題、母子保健活動と行政					事前：「母子保健」を熟読 事後：母子保健について復習		講義	望月
7	成人保健 健康増進法、健康日本21					事前：「成人保健」を熟読 事後：成人保健について復習		講義	渡部
8	高齢者保健 高齢化の現状と対策、高齢者保健活動と行政					事前：「高齢者保健」を熟読 事後：高齢者保健について復習		講義	渡部
9	精神保健 精神保健の現状と対策、精神保健の活動理念					事前：「精神保健」を熟読 事後：精神保健について復習		講義	望月
10	歯科保健、障害者・難病保健 歯科保健、障害者・難病保健の現状と対策					事前：「歯科保健」を熟読 事後：歯科保健について復習		講義	渡部
11	生活環境 食品安全行政・生活衛生行政					事前：「環境と健康」を熟読 事後：食品・生活衛生行政について復習		講義	渡部
12	学校保健 学校における健康					事前：「学校と健康」を熟読 事後：学校保健について復習		講義	望月
13	産業保健 職場における健康					事前：「職場と健康」を熟読 事後：産業保健について復習		講義	望月
14	健康危機管理 健康危機管理の体制と実際					事前：「健康危機管理」を熟読 事後：健康危機管理について復習		講義	渡部
15	国際保健医療 経済格差と健康格差、開発途上国の健康問題					事前：経済格差と健康格差について予習 事後：国際保健医療について復習		講義	望月
教本： 系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度② 医学書院					参考文献： 国民衛生の動向 2023/2024 厚生労働統計協会				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10%）、定期試験（90%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： この授業を通して公衆衛生の大切さを学んでください。参考図書をたくさん読んで、積極的に授業内容を理解するように努めてください。									

開 講 年 次	2 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	小児発達援助論 (Introduction to Pediatric Nursing)					ナンバリング	N-DN24	科目分類	専門分野
担 当 教 員	大脇淳子・吉田裕子					1科目当たりの合計自己学習時間			60時間
履 修 条 件	前提科目	ライフステージと発達看護論、看護学原論、健康障害C							
	その他	なし							
授業概要： これからの社会を担う子どもたちが人格あるひとりの人間として尊重されるための子どもの権利擁護を基盤に、ライフサイクルにおける小児期の重要性を理解した上で、子ども固有の成長・発達の論理とともに、成育看護の観点から子どもの最善の利益を守るための小児看護の理念、倫理と役割、小児医療・保健・福祉・教育との連携や協働、子どもを取り巻く環境の重要性について講義する。									
授業目標： 1. 小児看護の対象と理念、子どもの誕生、小児医療・看護の変遷、小児を取り巻く社会（小児保健・医療の動向、法律と施策）を説明する。 2. 子どもの権利擁護と小児看護の倫理に基づく看護を説明する。 3. 小児固有の成長・発達の論理を基に、乳児～思春期の成長・発達の特徴と生活行動の自立を支援する看護を説明する。 4. 小児期の健康を保持・増進するための小児各期のヘルスプロモーションを説明する。 5. 配慮が必要な子どもと家族の理解と保健・福祉・教育との連携と協働における看護の役割を考える。 6. 子どもの健やかな成長・発達を支援する成育医療・成育看護の未来を展望する。 7. 子どもの健やかな成長・発達を守るために子どもと家族を取り巻く社会環境のあり方に関心をもつ。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	ガイダンス 小児看護の対象と社会 子どもの誕生、小児保健・医療と小児看護の変遷と現状					事前：小児看護の目指すところを一読 事後：講義内容の復習		講義	大脇
2	子どもの権利擁護と小児看護における倫理 (レポート課題の提示)					事前：小児看護における倫理を一読 事後：子どもの権利について復習する		講義	大脇
3	小児固有の成長・発達の論理(1) 子どもの成長・発達の概念と成長・発育の評価					事前：子どもの成長・発達を一読 事後：講義内容の復習		講義	大脇
4	小児固有の成長・発達の論理(2) 子どもの成長・発達の理論（アタッチメント理論、心理・社会的発達の理論、認知的発達理論）					事前：母子関係・自我同一性・認知的発達の理論を調べる 事後：講義内容の復習		講義	大脇
5	※家族に子どもが誕生する事例を通して、乳児期～思春期の看護を学ぶ 乳幼児期における成長・発達と発育促進の看護(1)					事前：乳児・幼児期の成長の特徴と養育及び看護を一読 事後：事例（乳児）の課題に取り組む		講義	大脇
6	乳幼児期における成長・発達と発育促進の看護(2)					事前：乳児・幼児期の発達の特徴と養育及び看護を一読 事後：課題1：乳児期の成長・発達の特徴		講義	大脇
7	乳幼児期における成長・発達の発育促進と看護(3)					事前：乳児・幼児期の発達の特徴と養育及び看護を一読 事後：課題2：幼児期の成長・発達の特徴		講義	大脇
8	子どもと家族のヘルスプロモーション(1) 小児の予防接種と健康教育					事前：予防接種と学校保健を一読 事後：講義内容の復習		講義	吉田
9	子どもと家族のヘルスプロモーション(2) 小児期の事故の特徴と予防、安全教育					事前：子どもの事故防止、事故・外傷と看護（※1） 事後：講義内容の復習		講義	吉田
10	学童期～思春期の成長・発達とヘルスプロモーション					事前：学童～思春期の成長・発達と養育及び看護を一読 事後：課題3：学童～思春期の特徴(自主)		講義	吉田
11	子どもをめぐる法律と政策、子どもと家族の諸統計					事前：子どもと家族を取り巻く社会を一読 事後：講義内容の復習		講義	大脇
12	配慮が必要な子どもと家族の理解と看護(1) 発達障害					事前：障害のある子どもと家族の看護を一読 事後：講義内容の復習		講義	大脇
13	配慮が必要な子どもと家族の理解と看護(1) 児童虐待					事前：子どもの虐待と看護を一読 事後：講義内容の復習		講義	大脇
14	子どもの死の理解とEnd Of Life care					事前：終末期にある子どもと家族の看護を一読 事後：講義内容の復習		講義	大脇
15	子どもの未来を支える成育医療・成育看護					事前：小児看護の課題を一読 事後：講義内容の復習		講義	大脇
教本： 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1「小児看護学概論・小児臨床看護総論」医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2「小児臨床看護各論」医学書院（※1） その他：「健康障害C」で使用したテキストおよび授業レジュメを持参する									
参考文献：									
成績評価の方法、評価基準： 課題とレポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 自身の小児期を想起し、身近な子どもと家族の様子や子どもと家族を取り巻く社会問題（新聞やニュース等）に関心を持ち、小児期の健やかな成長・発達に必要な環境の在り方を考えてみましょう。課題・レポート提出期限の遅れは、評価の対象となりませんのでご注意ください。健康障害Cで修得した小児期の生理・機能的知識を活用しますので、授業レジュメは持参してください。また、小児を看護するために、子どもの「モデル」としての態度を身に付けることを大事にしています。									

開講年次	2年次 後期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	成人期の発達援助演習Ⅰ(急性期・回復期) (Adult Health Nursing: Assessment & Skills I)					ナンバリング	N-NP44	科目分類	専門分野
担当教員	佐藤京子・川畑貴美子・下村見子・掛谷和美・川原理香・山本貴子					1科目当たりの合計自己学習時間		30時間	
履修条件	前提科目	2年次前期までの必修科目を修得していること							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>急激な健康破綻をきたした健康状態にある患者の身体面、心理面、社会面に及ぼす影響を理解し、生命の維持や健康の回復に必要な看護技術を学修する。学修内容は、周手術期やクリティカルな健康状況における看護援助の方法や健康回復を促すためのリハビリテーションに関する援助方法、そしてこのような健康状態にある患者と家族に対する精神的援助の意味と介入方法について学ぶ。</p> <p>重症・重篤な健康状態にある患者と家族を支援するにあたり、さまざまな職種との連携についてイメージでき、自分の考え方を整理することも学修のねらいとしている。</p> <p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期およびクリティカルな状況にある対象者への看護ケアを理解する。 2. 健康状態をアセスメントするための観察方法を理解する。 3. 患者と家族に対する精神面からの支援方法を理解する。 4. 健康の回復や合併症を予防するための援助方法を習得する。 5. 周手術期にある患者の看護過程を展開できる。 <p>授業計画、事前学習・事後学習、形式</p>									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担当
1	(総論) 急性期における患者および看護の特徴					事前：急性期看護と患者の特徴について、テキストを精読し、準備して臨む。 事後：救急DVD視聴		講義	川畑
2	生命の危機的状況にある患者の看護								
3	周手術期の看護①					事前：周手術期とは理解して説明できるように準備する。 事後：講義のまとめとDVD視聴		講義	佐藤
4	周手術期の看護②								
5	急激な機能・形態の変化を伴う患者の看護(運動器) 運動器にかかわる変化/事故・外傷を含む					事前：運動器の病態を理解して説明できるように準備する。 事後：講義のまとめ		講義	山本
6	急激な機能・形態の変化を伴う患者の看護 消化・吸収にかかわる変化(下部消化管)/小腸・大腸・直腸					事前：下部消化管の病態を理解して説明できるように準備する。 事後：事例②の説明		講義	川原
7	急激な機能・形態の変化を伴う患者の看護 消化・吸収にかかわる変化(上部消化管)/食道・胃					事前：上部消化管の病態を理解して説明できるように準備する。 事後：事例①の説明		講義	川原
8	看護問題解決のための看護過程：事例演習 事例：①胃がんの手術患者 ②大腸がんの手術患者					事前：事例①②患者の理解に必要な知識を理解して臨む。 事後：課題レポート提出		事例演習	全員
9	事例演習(1)(2)： 情報整理、分析、解釈、情報統合								
10	急激な機能・形態の変化を伴う患者の看護 消化・吸収にかかわる変化/肝臓・胆嚢・膵臓					事前：肝・胆・膵の病態を理解して説明できるように準備する。 事後：講義のまとめ		講義	川畑
11	泌尿器科疾患患者の周手術期看護(腎臓・膀胱疾患)					事前：クリニカルパスとは何か理解して説明できるように準備する。 事後：講義のまとめ		講義	佐藤
12	開心手術を受ける患者の看護 心疾患で手術を受ける患者の看護					事前：心疾患の手術に必要な病態を理解して説明できるように臨む。 事後：講義のまとめ		講義	川畑
13・14	看護問題解決のための看護過程 事例：①胃がんの手術患者 ②大腸がん手術患者 事例演習(3)(4)： 情報統合、アセスメント、全体像把握、関連図作成					事前：看護過程の展開のプロセスが理解できるように準備する。 事後：課題レポート提出		事例演習	全員
15	技術演習① 周手術期の看護 ・弾性ストッキング着用 ・術後ベッド作成(全麻下)					事前：手術前後の看護のワークブックを学習する。 事後：理解確認の小テスト		実技演習	全員
16									

17	開胸手術を受ける患者の看護 肺疾患／肺がん 甲状腺疾患で手術を受ける患者の看護 甲状腺腫瘍	事前：肺疾患の手術に必要な病態を理解して説明できるように臨む。 事後：講義のまとめ	講義	佐藤
18	脳神経疾患で開頭手術等を受ける患者の看護	事前：脳神経疾患で開頭術を受ける疾患の知識を確認して説明できるように準備する。 事後：講義のまとめ	講義	下村
19	がん患者の看護①	事前：がんに関する疫学とは何か理解して説明できるように準備して臨む。 がん疾患の症状や治療法などテキストを精読し知識を確認して臨む。 事後：講義のまとめ	講義	川畑
20	がん患者の看護②			
21	技術演習② ドレナージ・カテーテルの管理 ・各種ドレナージやカテーテルの取り扱い ・ドレナージ挿入時の観察と管理	事前：ドレナージ管理のワークブックを学習する。 事後：理解確認の小テスト	実技演習	全員
22				
23	急激な機能・形態の変化を伴う患者の看護 (生殖器・乳房・前立腺) セクシュアリティにかかわる変化	事前：セクシュアリティにかかわる臓器の病態を理解して説明できるように準備する。 事後：講義のまとめ	講義	川原
24	看護問題解決のための看護過程 事例：①胃がんの手術患者 ②大腸がん手術患者	事前：看護過程の展開のプロセスが理解できるように準備する。 事後：課題レポート提出	事例演習	全員
25	事例演習(5)(6)：全体像把握、関連図作成 提示された看護問題を含めて事例全体の関連図作成と看護計画立案			
26	・周術期にある患者と家族の援助 ・臓器移植と脳死、再生医療 ・成人発達援助演習Ⅰのまとめ	事前：手術を受ける患者の家族の特徴を説明できるように準備する。 臓器移植と脳死について、理解して説明できるように準備して授業に臨む。 事後：脳死による臓器移植に賛成か否か考える。	講義	川畑
27				
28	看護問題解決のための看護過程 事例：①胃がんで手術をうける患者 ②大腸がんで手術を受ける患者	事前：看護過程の展開のプロセスが理解できるように準備する。 事後：発表後の課題レポート提出	事例演習	全員
29	事例演習(7)：看護過程展開の確認と発表準備			
30	事例演習(8)(9)：発表、まとめ			
教本：		参考文献：		
1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2～11] (医学書院、東京)		1. 系統看護学講座 別巻、臨床外科看護総論・臨床外科看護各論 (医学書院、東京)		
2. 明石恵子ほか編集「経過別成人看護学② 周術期看護 第1版5刷」(メジカルフレンド社、東京)		2. 川本利恵子ほか監修 ナースのための術前・術後ケア (学研、東京)		
3. 池松裕子ほか編集「成人看護学 急性期看護論」(ヌーベルヒロカワ、東京)		3. しっかり身に付く看護過程改訂 第2版 照林社		
4. 小松浩子ほか著 がん看護学 系統看護学講座 別巻 (医学書院、東京)		他は随時提示する。		
5. NANDA 看護診断 定義と分類 医学書院 最新版				
成績評価の方法、評価基準：				
授業参加状況等 (10%)、小テスト・看護過程レポート (10%)、定期試験 (80%) 等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外のすべての項目 (レポート等) も評価しない。				
学生へのアドバイス：				
急性・回復期にある対象の援助を実践するには、人体の構造や機能、疾病の成り立ちと治療について理解していることが大前提である。「身体の構造と機能」、「健康障害」の学習内容を復習・整理しておくことが必要である。医療の高度化に伴って、周術期患者を看護する上で、ME機器を使用している患者の観察や機器の操作方法、感染対策など、患者や自分自身の安全や安楽を守る技術の習得は必修条件である。 看護過程演習や技術演習の事前課題を準備し、欠席しないようにする。終了後は小テストや課題レポートを整理することが必要である。				

開講年次	2年次 後期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	精神看護援助論 (Introduction to Mental Health Nursing)					ナンバリング	N-CN14	科目分類	専門分野
担当教員	丸山 昭子					1科目当たりの合計自己学習時間			60時間
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： さまざまな精神健康レベルにある個人、家族、グループを対象にした精神看護を実践するための基礎知識、技術、態度を、自己理解やコミュニケーション技術も含め、修得することを目的とする。同時に、環境、文化的要因、セクシュアリティ、発達の危機、偶発的危機などが精神健康に及ぼす影響も学ぶ。また、精神の病気をもつ個人が地域で共に生活することを支える保健・医療・看護・福祉のあり方や精神看護学の課題等について法的、倫理的観点から検討する。									
授業目標： 1. 精神保健学の枠組みと対象や理論について述べるができる。 2. 精神医療と看護の歴史の変遷および法律を学ぶことで、精神障害者の取り巻く環境を説明することができる。 3. メンタルヘルスの問題に目を向け、支援の方法を述べるができる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担当
1	ガイダンス・精神保健学の枠組み					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
2	心の健康の概念 ー精神の健康・精神障害のとらえ方ー					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
3	心の危機的状況／精神の健康のマネジメント ーストレスと健康の危機・心的外傷・レジリエンスー					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
4	災害時の医療と看護／精神的健康管理					事前：テキスト2：該当ページの精読 事後：復習課題の作成 小テスト①の準備		講義	丸山 昭子
5	小テスト① 心の機能と発達					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
6	ライフサイクル各期における発達課題					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
7・8	集団の場における精神保健上の問題への支援					事前：テキスト1：該当ページ（8回目）、 テキスト2：該当ページ（9回目）の精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
9・10	病を患う人の精神状態と看護 ーリエゾン精神看護／看護師のメンタルヘルスー					事前：テキスト2：該当ページの精読 事後：復習課題の作成 小テスト②の準備		講義	丸山 昭子
11	小テスト② 諸外国における精神保健医療福祉の変遷と看護					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
12	日本における精神保健医療福祉の変遷と看護					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
13	精神障害と文化および社会学					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
14	精神保健上の問題にかかわる法律の動向と対策					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成 小テスト③の準備		講義	丸山 昭子
15	小テスト③ まとめ					事前：これまでの授業資料の見直し 事後：定期試験に備える		講義	丸山 昭子
教本： 1. 系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院（テキスト1） 2. 系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院（テキスト2） *事前学習の該当ページについては、年度によりテキストの改訂が生じるため、その都度提示する。						参考文献： 参考文献は、講義初回ならびに随時提示する。			
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10%）、小テスト・復習課題等（20%）、定期試験（70%）で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
学生へのアドバイス： こころの健康について、幅広く学んでいきます。自分自身のこころを見つめ、こころの健康を保つために必要な援助を学ぶと共に、精神に問題を抱える人の保健・医療・社会の課題についても具体的な例を用いて学んでいきます。									

開講年次	2年次 後期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	アディクション看護論 (Addiction Nursing)					ナンバリング	N-CN34	科目分類	専門分野
担当教員	小野坂益成・丸山昭子					1科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： アディクション (addiction) とは、日本語で嗜癖のことをいい、医学モデルでは「依存症」という言葉を用い、コントロール障害を特徴とする「疾患」である。アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル依存、共依存など、さまざまな依存症の基礎知識の修得、さらに摂食障害、DV、児童虐待、暴力など、直接は依存症ではないと考えられているものも学び、アディクション看護の技術・態度を修得することを目的とする。また、依存症を持つ個人を取り巻く、家族・地域などのサポートについて幅広い知識を修得する。									
授業目標： 1. アディクションの基礎知識を理解し、述べることができる。 2. アディクションに関連した諸理論を説明できる。 3. アディクション看護の技術・態度を学び、自己の関わり等を考えることができる。 4. 地域で生活している依存症患者を取り巻く、家族・地域などのサポートについて説明できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)			事前・事後学習 (学習課題)			授業形態	担当	
1	オリエンテーション アディクションの文化的・社会的背景の理解			事前：アディクションの定義や種類について述べるように準備する。 事後：復習課題の作成			講義	小野坂 丸山	
2	嗜癖と健康との関連Ⅰ ー物質依存の定義および状態像ー			事前：物質依存の定義や種類について述べるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成			講義		
3	嗜癖と健康との関連Ⅱ ー行為・過程依存の定義および状態像ー			事前：行為・過程依存の定義や種類について述べるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成			講義		
4	嗜癖と健康との関連Ⅲ ー人間関係依存の定義および状態像ー			事前：人間関係依存の定義や種類について述べるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成・小テストの準備			講義		
5	小テスト コミュニケーションと支援における相互の関係性			事前：これまでの講義内容から、アディクションに対する自分の考えを述べるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成			講義・ グループワーク		
6	ケアの質の保証と安全性の管理 保健・医療・福祉チームにおける連携と協働			事前：依存症患者への看護について、自分の考えを述べるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成			講義		
7	地域ケアシステム ー個人と家族ー ー地域における支援ー			事前：依存症患者およびその家族への支援について、自分の考えを述べるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成			講義・ グループワーク		
8	社会におけるアディクションの課題と対策 まとめ			事前：これまでの授業資料を見直し、疑問点や不明な点を明確にして授業に臨む。 事後：定期試験に向けての準備をする。			グループワーク発表・ 講義		
教本： プリントを配布する。				参考文献： アディクション看護学 松下年子・日下修一 メガカルフレンド社					
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (10%)、復習課題・小テスト等 (20%)、定期試験 (70%) で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目 (レポート等) についてもすべて評価しない。									
学生へのアドバイス： アディクションは、スマホやゲームなど皆さんにとって身近なものも対象となります。依存がどうして起こるのか、依存による生活や健康への影響はどのようなものなのかを学び、あなた自身の生活を振り返るきっかけや、周りの方への支援の手掛かりが得られるように、授業を通して考えてみましょう。									

開講年次	2年次 後期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域看護論 (Introduction to Community Health Nursing)					ナンバリング	N-CN24	科目分類	専門分野
担当教員	望月麻衣・渡部月子					1科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履修条件	前提科目	在宅看護援助論を履修していること							
	その他	なし							
授業概要： 地域看護の理念、対象及び地域看護活動の理解に必要な理論と個人・集団・地域への支援のあり方を理解する。 事例を通して病院や施設から自宅に帰った時の社会資源や関係機関との連携を学修する。									
授業目標： 1. 地域看護の理念を理解し、地域看護活動の全体像を把握することができる。 2. 地域看護学に関わる諸理論を理解し、地域看護について体系的に考えることができる。 3. 地域看護がさまざまな領域で展開されていることを知り、その重要性・必要性を理解できる。 4. 事例を通して地域社会資源の考え方と選択・活用について学ぶ。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担当
1	地域看護の概念、定義、目的					事前：シラバスの内容確認 事後：授業の復習		講義	望月
2	地域看護活動の場の特徴と看護職の役割： 行政（保健所・保健センター等）					事前：課題に取り組む 事後：授業の復習		講義	外部講師 渡部
3	地域看護活動における個人・家族・コミュニティへの支援方法： 家庭訪問、健康相談、健康診査、健康教育、グループ支援等					事前：課題に取り組む 事後：授業の復習		講義	望月
4	地域看護活動に関連する諸理論：地域を捉える視点 プリシードプロシードモデル、コミュニティ・アズ・パートナーモデル					事前：課題に取り組む 事後：授業の復習		講義	渡部
5	事例を通して地域の特徴と社会資源の活用、他職種との連携を考える①②③ ・地域情報の収集、分析 ・社会資源の理解と選択・活用 ・地域保健医療福祉システム及び関連する他職種との連携					事前：授業資料の熟読 事後：事例に関連した情報の収集・分析		講義	望月 渡部
6									
7									
8	事例を通して地域の特徴と社会資源の活用、他職種との連携を考える④ ・事例の報告					事前：事例発表の準備 事後：レポートの提出		講義	望月 渡部
教本： 地域・在宅看護論Ⅰ総論、 地域・在宅看護論Ⅱ支援論 南江堂					参考文献： 国民衛生の動向 2024/2025 厚生労働統計協会 他随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況（GW含む）等（10%）、レポート等（20%）、定期試験（70%）等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
学生へのアドバイス： 自分の暮らしている地域に興味関心を持ってください。毎日生活している地域を見回してください。新たな気づきがたくさん出てくると思います。皆さんの暮らしているまちはすみやすいですか？住民が生き生きと暮らしていますか？ 今、自分が地域の中でできることは何か。一緒に考えてみましょう。毎回予習・復習をして授業に積極的に参加してください。									

開 講 年 次	2 年次 後期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	60	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	地域・在宅の看護援助演習 (Community and Home Care Nursing: Assessment & Skills)					ナンバリング	N-CN24	科目分類	専門分野
担 当 教 員	渡部月子・望月麻衣・高橋真由美・村井恵子					1科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履 修 条 件	前提科目	在宅看護援助論を修得していること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 在宅看護援助論で学んだ在宅看護の対象や介護保険法をはじめとする訪問看護に関する制度の知識を基に学修する。地域で療養しながら生活する人々と家族に対する在宅看護支援の実際を、講義・演習を通して知識と基礎的技術を修得する。また訪問看護ステーション・地域包括支援センター・訪問診療機関等の他職種との連携・協働について学ぶ。									
授業目標： 1. 生活援助を必要とする在宅療養者の特徴、観察方法、ヘルスアセスメント、看護技術に関連づけて学び、その一部を体験し、在宅看護における生活支援技術を体得する。 2. 社会資源の活用、ケアマネジメント、他職種連携や、在宅ケアチームにおける看護職の役割について学ぶ。 3. 病院と在宅における看護職の協働と退院支援、継続看護を理解する。 4. 疾患に特有な療養上の課題を抱えて生活する対象の特徴を理解し、観察方法、ヘルスアセスメント、看護技術及び倫理的課題について学び、要介護高齢者、認知症、がんの終末期支援について述べられる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	担 当
1～4	ガイダンス シラバスに沿って授業計画の説明を受ける 家庭訪問の技術（訪問マナー）①②③④ 1. 在宅療養における看護方法としての訪問看護の意義を学ぶ 2. 療養の場であり生活の場である在宅の特徴を学ぶ 3. 訪問看護を行う看護職の態度・マナーを学ぶ					事前：シラバスを読む 事後：配付資料の確認 事前：配布資料の学修 事後：課題学修		講義	渡部 望月 高橋 村井
5・6	さまざまな対象者への在宅看護① 疾病や障害を持つ小児への在宅看護 1. 在宅で療養する小児の特徴とケアについて学ぶ 2. 長期在宅生活を継続するために必要な家族への支援について学ぶ 3. 在宅で療養する小児の訪問看護の実際について学ぶ さまざまな対象者への在宅看護② 認知症高齢者への在宅看護 1. 在宅で療養する認知症高齢者の特徴について学ぶ 2. 認知症高齢者を在宅で介護する家族への支援について学ぶ 3. 認知症高齢者に安全と安心をもたらす看護について学ぶ					事前：教本を読む 事後：疾病や障害、家族看護について学んだことをまとめる 事前：教本を読む 在宅における認知症看護、家族看護について学んだことをまとめる		講義	高橋
7・8	さまざまな対象者への在宅看護③ 神経系難病の療養者への在宅看護 1. 難病対策について学ぶ 2. 神経系難病の療養者の身体的・精神的・社会的特徴を学ぶ 3. 家族介護者の現状を理解し看護支援について考える 4. 災害への平常時の備えと対応を学ぶ さまざまな対象者への在宅看護④ 精神疾患を持つ療養者への在宅看護 1. 病院における精神科看護と訪問看護の違いを知り、在宅で生活する精神疾患の療養者の状況がイメージできる 2. 精神疾患療養者への看護の視点を学ぶ					事前：教本を読む 事後：教本を読む 事前：教本を読む 事後：精神疾患療養者の状況を考えて看護をまとめる		講義	高橋 渡部
9・10	さまざまな対象者への在宅看護⑤ 回復期（リハビリテーション期）の療養者への在宅看護 1. 在宅におけるリハビリテーションの考え方を学ぶ 2. 生活機能・日常生活機能（ADL）のアセスメントを学ぶ 3. 状態に合わせた対応・調整について学ぶ 4. 合併症の予防と対応を学ぶ 在宅における看護過程の展開①					事前：教本を読む 事後：回復期のケアについて学んだことをまとめる 事前：教本を読む 事後：事前課題の学修		講義	渡部 望月
11・12	さまざまな対象者への在宅看護⑥ 終末期の在宅看護 1. 終末期の療養者の身体的・心理的特徴と経過を学ぶ 2. 終末期の療養者の家族の特徴を理解する 3. 終末期の療養者の在宅看護について学ぶ 食事と栄養① 1. 在宅療養者の食事と栄養の特徴について学ぶ 2. 嚥下障害のある療養者への食事の工夫を学ぶ 3. 胃ろう、経管・経腸栄養法を学ぶ 4. 口腔ケアの実際を学ぶ					事前：教本を読む 事後：在宅における終末期ケアについて学んだことをまとめる 事前：教本を読む 事後：課題プリントの学修		講義 演習	望月 高橋

13・14	食事と栄養②③ 1. 在宅療養者の食事と栄養の特徴について学ぶ 2. 嚥下障害のある療養者への食事の工夫を学ぶ 3. 胃ろう、経管・経腸栄養法を学ぶ 4. 口腔ケアの実際を学ぶ	事前：食事の看護技術 事後：在宅における食事支援のまとめ	演習	高橋
15・16	在宅における看護過程の展開②③	事前：課題学修 事後：課題学修	演習	望月 全員
17・18	在宅酸素療法（HOT）・在宅人工呼吸法療養者の看護 1. 在宅酸素療法や人工呼吸療法の管理方法を学ぶ 2. 在宅酸素や人工呼吸療法時の観察と生活指導を学ぶ 3. 療養者の心理を把握し、思いに添う支援について知る 4. 災害への備えと対応を学ぶ	事前：教本を読む 事後：配付資料の復習	講義 演習	村井
19・20	在宅輸液療法の療養者への看護（服薬管理含む）薬物療法 1. 栄養補給が必要な在宅療養者に対して行われる在宅輸液療法を学ぶ 2. 在宅輸液療法を行っている療養者への看護を学ぶ 3. 薬物療法管理（服薬管理）の実際を学ぶ 在宅における看護過程の展開④	事前：教本を読む 事後：配付資料の復習 事前：課題学修 事後：課題学修	講義 演習	高橋 望月 全員
21・22	排泄支援①② 1. 在宅における排泄支援の特徴を学ぶ 2. 排泄障害（尿失禁・便失禁等）のケア方法について学ぶ 3. 排泄補助用具の選択方法、ストーマケアについて学ぶ 4. 膀胱留置カテーテル法について学ぶ	事前：排泄の看護技術の復習 事後：在宅における排泄支援のまとめ	演習	高橋 全員
23・24	移動の援助①② 1. 在宅看護における移動援助の目的と療養者の特徴について学ぶ。 2. 在宅看護に必要な移動におけるヘルスアセスメントの方法について学ぶ。 3. 在宅看護に必要な移動の援助方法の実際を学ぶ	事前：体位と移動についての看護技術の復習。移動補助用具・転倒防止について調べる 事後：課題プリント提出	演習	村井 全員
25・26	在宅における看護過程の展開⑤ 清潔援助技術① 1. 清潔ケアの目的と療養者の特徴について学ぶ 2. 清潔ケアのアセスメントと評価について学ぶ 3. 清潔ケアの方法、他職種との連携について学ぶ	事前：課題学修 事後：課題学修 事前：教本を読む 事後：配付資料の復習	演習	望月 全員 高橋
27・28	清潔援助技術（洗髪）②③ 1. 在宅で簡便にできるケリーパッドを作成する 2. 在宅療養者の状態や家族の生活に合わせた洗髪用具の選択、工夫について学ぶ 3. 在宅における洗髪方法について学ぶ	事前：洗髪の看護技術の復習 事後：課題プリント学修	演習	高橋 全員
29・30	在宅における看護過程の展開⑥ 在宅看護の実際－訪問看護－ 訪問看護師の役割 訪問看護の魅力とやりがい	事前：課題学修 事後：課題レポート提出 事前：今までの学修の振り返り 事後：配付資料の復習	演習 講義	望月 全員 外部講師
教本： 地域・在宅看護論Ⅰ総論、 地域・在宅看護論Ⅱ支援論 南江堂		参考文献： 在宅看護実習ガイド（パーフェクト臨床実習ガイド） 山田雅子 照林社 他随時紹介する。		
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10%）レポート等（20%）定期試験（70%）等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。				
学生へのアドバイス： この授業は必修科目です。講義と演習が連動して構成された科目ですので、欠席は内容の理解に影響を及ぼします。 予習・復習、体調管理をしっかりとって欠席がないように臨んでください。				

VI シラバス(3年)

VI シラバス(3年)

文部科学省大学設置基準（令和4年9月30日一部改正）によると、「1単位にはおおむね45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする」とされており、授業時間以外に自己学修時間も含まれている。1又は2単位あたりに必要な学修時間は下表の通りである。

単位あたりの学修時間

授業形式	単位数 (学修時間数)	授業回数 (コマ数)	授業時間数	自己学習時間数	
				合計	1コマあたり (事前+事後)
講義	1単位 (45時間)	8	16(15)時間	30時間	4時間
	2単位 (90時間)	15	30時間	60時間	4時間
演習	1単位 (45時間)	15	30時間	15時間	1時間
	2単位 (90時間)	30	60時間	30時間	1時間

出典：大学設置基準第二十一条

Ⅵ シラバス(3年)

開 講 年 次	3 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	保健衛生統計 (Introduction to Health Statistics for nursing)					ナンバリング	N-ST15	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	大脇淳子・丸山昭子・松浦広明・渡部月子					1科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 物事を筋道立てて考え、様々な社会現象を適確に把握することができる基礎になるものがデータである。データには量的なものや質的なものがあるが、データの種類に応じた適切な分析を行い、その結果からどのような判断をするべきかの手法を学修する。本講義では、医療・看護に関わる疫学・保健統計の見方・考え方の基礎的な内容とその活用法について概説する。また、人間の反応や数量化しにくいデータの扱い、保健統計の基礎となる統計学の考え方および統計処理法についても解説する。									
授業目標： 1. 保健衛生統計の概要を理解する。 2. 統計の基礎（統計手法の基礎とデータの読み取り方、など）を理解する。 3. 母子保健・精神保健、公衆衛生、医療と看護における保健衛生統計の活用方法を理解する。 4. 課題を通して、計量的データ解析の方法と結果の数字の意味を読み取る。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	ガイダンス 保健衛生統計とは					事前：シラバス内容を確認する 事後：講義内容の復習		講義	大脇
2	統計の基礎①：概要・母集団と標本					事前：統計の概要について調べる 事後：授業内容の復習		講義	松浦広明
3	統計の基礎②：主要な統計量 代表値・バラツキの統計量・ 関連の統計量・主な図表の特徴					事前：主な統計量について調べる 事後：講義内容の復習		講義	松浦広明
4	統計の基礎③：確率分布 χ 二乗・T検定、オッズ比					事前：確率分布について調べる 事後：講義内容の復習		講義	松浦広明
5	公衆衛生における保健衛生統計					事前：公衆衛生の統計について調べる 事後：講義内容の復習		講義	渡部月子
6	精神保健における保健衛生統計					事前：精神保健の統計について調べる 事後：講義内容の復習		講義	丸山昭子
7	母子保健における保健衛生統計					事前：母子保健の統計について調べる 事後：講義内容の復習		講義	大脇淳子
8	医療・看護における保健衛生統計 課題レポートの提示、課題作成					事前：既習の学習内容を復習する 事後：課題の復習		講義	大脇 丸山 渡部
教本： なし					参考文献： 1. 系統看護学講座 統計学、医学書院 2. やさしい保健統計学 改訂第5版増補、南江堂 3. 国民衛生の動向、その他は随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 課題への取り組み状況（20%）、レポート等（80%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： この科目は、医療、保健に関するさまざまな計量的データから考えられる問題点、推移や予想される出来事、対処すべきことなどを読み解く科学的方法論のひとつです。看護実践や研究においても、人の健康に関する保健統計の計量的データを正しく理解し活用するためには、統計学の知識を持つことが重要であり、この計量的データを読み解くためにはどの統計手法を用い、得られた解析結果をどう読み解くか、これらの力を備えることで見えてくる事象があります。その楽しさを一緒に学びましょう。									

開講年次	3年次 前期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	中国語コミュニケーション (Chinese Communication)					ナンバリング	N-LG25	科目分類	基礎分野
担当教員	沈 瑛					1科目当たりの合計自己学習時間		60時間	
履修条件	前提科目	特にないが、受講者が日頃から中国語に親しむ環境を作っていること。							
	その他	本講義は少人数ですので毎回必ず予習・復習を行ってください。事前に課題を出しますので必ず持って来てください。課題にはかなり独習時間が必要で、その時間を確保して下さい。馴染みのある英語とは異なります。これが守れない学生は受講をしないでください。							
<p>授業概要：</p> <p>本講義では中国語の発音から始めて、正しい発音の仕方を身につけ、中国語の日常会話のごく簡単な挨拶ができることを目標とします。15回で挨拶まで進めることは大変難しい目標です。受講者はそれに耐える強い意志と相応の日常学習が必要です。地道な苦しい練習が続きます。小中学校から始める英語とは異なり、音が複雑で、日本人にとって学習の大変難しい中国語です。目標達成には簡単に挫折しない強さが必要です。指定された時間の長さで、講義外での毎日の独習は必ず行い、それを守って下さい。</p> <p>授業目標：</p> <p>1. 発音・文法の初歩から初めて、中国語の発音を理解します。 2. 簡単な挨拶を学びます。</p> <p>授業計画、事前学習・事後学習、形式</p>									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担当
1	オリエンテーション：講義の概要と中国語の学び方					事前：なし 事後：指定箇所の復習		講義	沈 瑛
2	発音					事前：教科書6～9ページの精読 事後：指定箇所の復習		講義	沈 瑛
3	教科書第1課					事前：指定課題の提出 事後：教科書第1課の精読		講義	沈 瑛
4	教科書第2課					事前：指定課題の提出 事後：教科書第2課の精読		講義	沈 瑛
5	教科書第3課					事前：指定課題の提出 事後：教科書第3課の精読		講義	沈 瑛
6	教科書第4課					事前：指定課題の提出 事後：教科書第4課の精読		講義	沈 瑛
7	教科書第5課					事前：指定課題の提出 事後：教科書第5課の精読		講義	沈 瑛
8	ミニテスト					事前：指定課題の提出 事後：指定箇所の復習		講義	沈 瑛
9	教科書第6課					事前：指定課題の提出 事後：教科書第6課の精読		講義	沈 瑛
10	教科書第7課					事前：指定課題の提出 事後：教科書第7課の精読		講義	沈 瑛
11	教科書第8課					事前：指定課題の提出 事後：教科書第8課の精読		講義	沈 瑛
12	教科書第9課					事前：指定課題の提出 事後：教科書第9課の精読		講義	沈 瑛
13	教科書第10課					事前：指定課題の提出 事後：教科書第10課の精読		講義	沈 瑛
14	教科書第11課					事前：指定課題の提出 事後：教科書第11課の精読		講義	沈 瑛
15	全体のまとめ					事前：指定課題の提出 事後：指定箇所の復習		講義	沈 瑛
<p>教本：</p> <p>『やってみよう！中国語』吉田泰謙・王峰著、白水社、本体¥2,200</p>					<p>参考文献：</p> <p>そのほかは随時提示する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等（40%）、定期試験（60%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>講義と並行してNHKの中国語講座の履修を4月から行ってください。外国語の学習には基本的な文法などを理解すること、基本的な語彙を覚えるという過程があります。予習・復習を必ず行ってください。語学は毎日です。これをしなければ、直ぐについていけなくなるので注意して下さい。皆さんが馴染んでいる英語とは異なります。</p>									

開講年次	3年次 前期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	医療安全管理・感染管理 (Patient Safety Management and Infection Control)					ナンバリング	N-AM25	科目分類	専門基礎分野
担当教員	牛島典子・奈良かな子					1科目当たりの合計自己学習時間		30時間	
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 対象者の安全を守るために、医療現場における感染管理及び機器の保守管理、機器の操作、安全教育、法規などについて学修を深める。また、生命維持管理装置や輸液ポンプなどについて例示し、事故防止のための安全行動について具体的にイメージでき実践できるようにする。さらに、過去の事故事例やインシデントについて、データをもとに概説し、個々の安全に対する確認行動や支援システムについても言及する。									
授業目標： 1. 医療事故の構造、医療安全の基本的な考え方について理解できる。 2. 組織的な安全管理体制について理解できる。 3. 看護学生として、事故防止対策や事故発生時の対応について理解できる。 4. 診療の補助における医療事故の要因や対策を、様々な観点から考え意見交換ができる。 5. 療養中のケアにおける医療事故の要因や対策を、様々な観点から考え意見交換ができる。 6. 感染の危険を伴う病原体への暴露と感染予防策について理解し、正しく実践することができる。 7. 医療機器や医療品での暴露とその予防策について理解できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担当
1・2	医療安全管理 1 組織的な医療安全管理対策 医療安全推進の背景 医療事故発生メカニズムと事故防止の考え方 組織的な安全管理体制 看護学生の実習中の事故防止と事故発生時の対応 看護ケアと看護記録					事前：シラバスを参照し、本科目の授業内容の確認をする。 教本③をiPadにダウンロードし、一読する。 事後：授業内容の復習をする。		講義	牛島
3・4	医療安全管理 2 診療の補助の事故防止 与薬管理や医療機器を扱う上で起こりうる事故の予測と対策					事前：既習の学習をもとに、与薬管理、医療機器使用時の注意点を考えてくる。 事後：授業内容の復習をする。事後課題を期日までに提出する。		講義	牛島
5・6	医療安全管理 3 療養上のケアの事故防止 日常生活の援助で起こり事故（転倒転落、食事援助）の予測と対策 小テスト：第1回から第6回の授業内容					事前：既習の学習をもとに、日常生活の援助時に起こる事故の要因や対策を考えてくる。 事後：授業内容の復習をする。 課題レポート（テーマは授業時に説明する）		講義	牛島
7	感染管理 1 感染の危険を伴う病原体への暴露と感染予防策 医療機器や医療品での暴露とその予防策 （職業感染、放射線被曝、ラテックスアレルギーの防止）					事前：感染成立の条件および院内感染防止の基本を理解したうえで授業に望む。 事後：授業内容の復習		講義	奈良
8	感染管理 2 感染管理認定看護師の役割 標準予防策（スタンダードプリコーション）の実践：ガウンを使用して 小テスト：第7回・第8回の授業内容					事前：スタンダードプリコーションを理解したうえで授業に望む。 事後：授業内容の復習		講義 演習	奈良
教本： ①系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護後術Ⅰ：医学書院（1年生で購入済） ②系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ：医学書院（1年生で購入済） ③「医療安全のための標準テキストー日本看護協会ー」 https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/anzen/pdf/text.pdf *日本看護協会のホームページより上記のテキスト（PDF）をiPadにダウンロードし保存してください。					参考文献： ①系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践② 川村 治子 医学書院 ②医療安全 看護の統合と実践② メディカ出版 ③医療安全とリスクマネジメント 嶋森好子他著 スーベルヒロカワ その他は随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 課題レポート・小テスト・グループワークの学習状況等（40%）、定期試験（60%）の総合評価とする。									
学生へのアドバイス： 医療事故の現状を理解し、事故はなぜ起きるのか、また再発を防止するためには、チームで対策を考えることが重要です。授業内でのグループワークを通して、様々な視点での気づきを大切にしてください。 また、近年の医療現場は、COVID-19の流行により、厳重な感染管理が求められています。感染経路に応じた感染対策を理解し、確実に実践できるようにしましょう。 臨地実習において、学生も医療チームの一員であり、安全で質の高いケアの提供に努めることが求められます。 そのため、本科目で得た知識を臨地実習で活用できるように事前学習をして授業に臨み、事後学習をして確実な知識として身につけてください。									
2020、2021年度入学者科目名称			医療安全管理論						

開 講 年 次	3 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	リプロダクティブ・ヘルス援助演習 (Reproductive health Nursing : Assessment & Skills)					ナンバリング	N-DN15	科目分類	専門分野
担 当 教 員	増山利華・和田佳子・木原博子・箭内彩也佳					1 科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履 修 条 件	前提科目	リプロダクティブ・ヘルス援助論							
	そ の 他	なし							
授業概要： 周産期にある対象（妊婦・産婦・褥婦・新生児）の看護を中心として、看護を実践するために必要な知識・技術を修得するとともに、生殖に伴う次世代につながる健康に目を向けた看護を学ぶ。									
授業目標： 1. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児の身体的・心理的・社会的特性を理解できる 2. 妊婦・産婦・褥婦のセルフケアを促す看護と新生児の成長発達を促す看護が説明できる。 3. 妊娠期・分娩期・産褥期及び新生児期の生理的变化について理解し、必要な看護技術を修得できる。 4. 母児の健康的な生活について理解し、それを支える産褥ケアや育児支援、母子保健のシステムについて理解できる。 5. 親子の愛着、絆の形成と役割等の発達課題と家族に及ぼす影響を理解し、家族の発達を支える看護を説明できる。 6. 家族の特徴を踏まえ、新しく形成される家族を支援するために必要な他職種との連携・協働を説明できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1～6	1. 妊娠に伴う身体的・心理的・社会的変化と看護 1) 母体と胎児の生理的な身体的変化 2) 妊婦とその家族の心理的・社会的変化 3) 母体と胎児の健康状態のアセスメントと看護 2. 妊娠中に起こりやすい健康問題 1) 健康問題のメカニズムと妊婦と胎児に及ぼす影響 2) 健康問題のアセスメントと看護 3. 妊娠期の看護を支える看護技術 1) アセスメントに必要な情報を収集するための看護技術 2) 保健指導に必要な看護技術					事前：既習の妊娠の成立・妊娠経過の予習 事後：妊娠中に起こりやすい健康問題の復習 妊娠期の看護に必要な技術の復習		講義 演習	増山
7～10	4. 正常な分娩経過と看護 1) 産婦と胎児の生理的な経過 2) 産婦と胎児のアセスメントと看護 5. 分娩中に起こりやすい健康問題と看護 1) 健康問題のメカニズムと産婦と胎児に及ぼす影響 2) 健康問題のアセスメントと看護 6. 分娩期の看護を支える看護技術 1) 安全を支援するために必要な看護技術 2) 安楽を支援するために必要な看護技術					事前：既習の正常な分娩経過の予習 事後：分娩時に起こりやすい健康問題の復習 分娩期の看護に必要な技術の復習		講義 演習	箭内
11～15	7. 出生直後の新生児の看護 1) 出生直後の観察とアセスメント 2) 出生直後の看護 8. 早期新生児期の胎外生活適応への看護 1) 早期新生児の特徴と生理的变化 2) 早期新生児の健康と発育のアセスメントと看護 3) 新生児と家族の看護 9. 新生児の健康問題と看護 1) 健康問題のアセスメントと看護 10. 新生児期の看護を支える看護技術 1) 新生児の観察のために必要な看護技術 2) 新生児期の看護に必要な看護技術					事前・事後：新生児の解剖生理の予習・復習 ・早期新生児期に起こりやすい健康問題の予習・復習 ・新生児援助技術の復習		講義 演習	増山
16～20	11. 産後の退行的・進行的変化を促すための看護 1) 退行性変化（身体と生殖器）のアセスメントと看護 2) 進行性変化（乳房）のアセスメントと看護 3) 産褥期の心理的变化（母親役割適応）のアセスメントと看護 12. 産褥期に起こりやすい身体的・心理的健康問題と看護 1) 健康問題のメカニズムと褥婦に及ぼす影響 2) 健康問題のアセスメントと看護 13. 育児支援とセルフケアへの看護 1) 母子関係の成立 2) 退院後の生活支援 3) 家族発達への看護					事前：生理的な産褥経過の予習 産褥期に起こりやすい健康問題の予習 育児支援の予習		講義	増山
21～23	14. 産褥期の看護を支える看護技術 1) 褥婦を観察するために必要な看護技術					事前：産褥期の観察に必要な看護技術の手順書を作成する 事後：事前に作成した看護技術の手順書を完成させる		演習	増山

	試験			
24～30	看護過程の展開 まとめ	事前：授業1回から24回までの内容を整理 リプロダクティブ・ヘルス援助論で学 んだウェルネスの看護過程を復習 事後：看護の思考過程を復習	演習	和田 増山 木原 箭内
<p>教本：</p> <ol style="list-style-type: none"> 森恵美、他編：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論(2)、医学書院 日本助産診断・実践研究会編：マタニティ診断ガイドブック第6版 医学書院 石村百合子編：根拠と事故防止からみた母性看護技術 第2版 医学書院 		<p>参考文献：</p> <ol style="list-style-type: none"> 平澤美恵子、村上睦子 監修：写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ 太田操編：ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程 第3版、医歯薬出版 新道幸恵、他編：新体系看護学全書 母性看護学② マタニティサイクルにおける母子の健康と看護、メヂカルフレンド社 大平光子、他編：母性看護学Ⅱ 母と子そして家族へのよりよい看護実践、南江堂 井上和美、他監修：病気がみえる、Vol.10、第2版、メディックメディア 前原澄子編：新看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅱ、中央法規 村本順子、他編：直前 母性看護実習 プレブック 看護過程の思考プロセス、医歯薬出版 		
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>定期試験：客観試験（70%）、看護過程レポート（10%）、講義・演習態度（20%）で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についても全て評価しない。</p>				
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>周産期にある母子及びその家族を対象にしたウェルネスの視点での看護を学びます。柔軟な思考で学修に臨んでください。</p>				

開 講 年 次	3年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	小児期の発達援助演習 (Pediatric Nursing : Assessment & Skills)					ナンバリング	N-DN25	科目分類	専門分野
担 当 教 員	大脇淳子・吉田裕子					1科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履 修 条 件	前提科目	健康障害C、小児発達援助論の単位を修得していること。							
	その他	なし							
授業概要： 健康障害や入院による子どもと家族への影響、様々な状況にある子どもと家族について学び、倫理に基づく援助、成長・発達に応じた援助の必要性を学修する。また、小児特有の健康障害を持つ小児と家族の健康レベルに応じた看護について学習し、技術演習や事例演習を通して小児特有の看護技術および看護過程の基本を修得する。									
授業目標： 1. 健康障害や入院による子どもと家族への影響について学び、倫理に基づいた援助の必要性を説明する。 2. 健康障害により様々な状況にある子どもと家族について学び、成長・発達に応じた小児看護の特徴を説明する。 3. 小児特有の健康障害を持つ小児と家族の健康レベルに応じた看護に必要な知識（社会資源等含む）を説明する。 4. 技術演習を通して、基本となる小児の看護技術および小児特有の看護技術の基本を修得する。 5. 事例を通して小児看護過程の基本を修得する。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1・2	ガイダンス 健康障害をもつ子どもと家族の看護、入院環境 ※演習オリエンテーション、演習ノート配付					事前：ガイダンスを読む 事後：講義内容の復習		講義 (T1)	大脇
	病気や入院に対する子どもと家族の理解と看護					事前：子どもの入院環境・認知的発達について調べる 事後：講義内容の復習		講義 (T1・2)	大脇
3～5	乳児期：急性症状のある小児と家族の看護 事例：【急性胃腸炎】 対象年齢：7か月 1. 急性胃腸炎（下痢・嘔吐症状）の病態、脱水のアセスメント 2. 小児特有の看護技術 ・フィジカルアセスメントⅠ：身体計測 ・発育評価 ・日常生活援助技術：清潔行動（臀部浴）					事前：演習ノートの事前課題を行う（第4、5回） 事後：講義内容の復習		講義 (T1・2) 技術	吉田
	演習場所：[看護実習室Ⅱ（母性・小児看護学実習室）] 小児特有の看護技術 ・清潔行動（沐浴（臀部の清潔）*下痢時の観察） ・オムツ交換、衣服の着脱 ・身体計測・成長・発達の評価（乳児期） ・授乳方法、離乳食					事前：演習ノートの事前課題を行う（第4、5回） 事後：事例の課題をまとめる ★演習ノート課題提出		演習 (T1・2) 技術	吉田 大脇
6・7	検査や処置による苦痛、痛みを伴う子どもの看護 手術を受ける子どもの看護 1. 子どもの痛みのアセスメント 2. 子どものコミュニケーションとインフォームドアセント・プレパレーション・遊びと学習					事前：検査や処置の子どもの看護、手術を受ける子どもの看護を一読 事後：講義内容の復習		講義 (T1・2) 技術	吉田
8・9	幼児前期：急性症状のある小児と家族 事例：【川崎病】 急性期 対象年齢：1歳4か月 1. 川崎病の病態、アセスメント、川崎病急性期にある子どもと家族の看護 2. 小児特有の看護技術 ・フィジカルアセスメントⅡ：バイタルサイン測定 ・基本技術：安全・安楽な環境の調整、点滴管理					事前：演習ノートの事前課題を行う（第10、11、12） 事後：講義内容の復習 ケア計画立案（バイタルサイン測定）		講義 (T1・2)	吉田
10～12	演習場所：[看護実習室Ⅱ（母性・小児看護学実習室）] 小児特有の看護技術演習 ・バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント ・バイタルサイン測定技術確認 ・安全・安楽な環境の調整（環境整備） ・点滴管理（観察、滴下数の計算、溶解方法）					事前：演習ノートの事前課題を行う（第10、11、12） 事後：事例の課題をまとめる ★演習ノート課題提出 ★ケア計画書提出		演習 (T1・2) 技術	吉田 大脇
	小児看護過程の展開 幼児後期：呼吸困難のある子どもと家族の看護 事例：【気管支喘息】 急性期 対象年齢：4歳 1. 基礎的知識の確認：成長・発達の特徴、病態（重症度）、検査・治療 2. 必要な情報の整理：情報収集（DVD活用）					事前：演習ノートの事前課題を行う（第19、20回） 事後：講義内容の復習 事例に必要な情報の整理、3側面をアセスメントする		講義 (T1・2) 技術	吉田
15・16	呼吸困難のある子どもと家族に必要な援助①（事例展開） 1. 患児の成長・発達の特徴をふまえた情報の分析・アセスメント、看護の方向性 ・3側面（身体的側・成長・発達・社会的側面（家族への影響）） 2. 看護問題の明確化 3. 看護計画立案 ・看護目標、問題点、期待される結果、援助項目					事前：情報収集・アセスメント 事後：3側面のアセスメント追加 事後：アセスメントの追加・修正、看護計画を立案		講義 (T1・2) GW	吉田

17・18	呼吸困難のある幼児期の子どもと家族に必要な援助③（事例展開） 1. ケア計画の立案 1) フィジカルアセスメント：事例をもとにしたバイタルサイン測定 2) 安楽に呼吸ができるための援助：吸入、酸素療法 *プレパレーション含む	事前：看護計画立案 事後：個々の学習をもとに、グループ間でケア計画を検討 GWの発表に向けた準備	GW (T1・2) 技術	吉田
19・20	演習場所：[看護実習室Ⅱ（母性・小児看護学実習室）] シミュレーション学習（ロールプレイ）発表 ①適切に状態を把握するための（フィジカルアセスメント：バイタルサイン測定） ②安楽に呼吸ができるための援助（吸入、酸素療法）	事前：看護計画立案 事後：演習の振り返り 演習ノートの事後課題まとめ ★演習ノート課題提出 ケア計画書提出	演習 (T1・2) 技術	吉田 大脇
21～23	学童期：慢性の経過をたどる子どもと家族の看護： 事例：【ネフローゼ症候群】回復期 対象年齢：8歳 1. 基礎的知識の確認；ネフローゼ症候群の病態、治療、患児の成長・発達の特徴 2. 成人期移行とアドヒアランス向上にむけた患者教育	事前：演習ノートの事前課題を行う（第24、25回） 事後：講義内容の復習 個々の学習をもとに、グループ間でケア計画を検討 GWの発表に向けた準備	講義 (T1・2)	吉田
	成人期移行とアドヒアランス向上にむけた患者教育 ・退院後の生活に向けた指導案の作成 *発表に向けての準備		GW (T1・2) 技術	吉田
24・25	演習場所：[看護実習室Ⅱ（母性・小児看護学実習室）] 成人期移行とアドヒアランス向上にむけた患者教育 ・事例の退院指導について指導案を発表 ・アドヒアランス向上にむけた患者教育についてディスカッション	事前：発表時の役割をグループ間で決めて、各自が責任をもって取り組む 事後：演習後の振り返り 演習ノートの事後課題まとめ ★演習ノート課題提出	演習 (T1・2) 技術	吉田 大脇
26・27	生命危機状態にある小児と看護	事前：小児のBLS・気道異物について調べる	講義 (T1・2) 技術	吉田
	小児のBLS・気道異物除去	事後：講義・演習内容の復習	演習 (T1・2) 技術	吉田 大脇
28～30	未熟な状態で誕生した子どもと家族の看護 【低出生体重児】	事前：NICU・ディベロップメンタルケアについて調べる 事後：講義内容の復習	講義 (T1・2)	大脇
	地域で生活する医療的ケアが必要な子どもと家族の看護 【障害児・医療的ケア児】	事前：障害児・医療的ケア児について調べる 事後：講義内容の復習	講義 (T1・2)	大脇
	成人移行期にある子どもと家族の看護	事前：慢性経過…看護を一読 事後：講義内容の復習	講義 (T1・2)	大脇
教本： 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院（T1） 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 医学書院（T2） 3. 根拠と事故防止からみた小児看護技術、浅野みどり編集 医学書院 ※授業形態の欄に、授業・演習で使用するテキストNoを、（T1、T2、技術）の様に示す		参考文献： 1. 病気の子どもへのプレパレーション、及川郁子・田代弘子編集、中央法規 2. 写真でわかる小児看護技術 改訂版第3版、山元恵子監修、インターメディアカ ※その他は随時提示する		
成績評価の方法、評価基準： 演習への取り組み状況（10%）、事前・事後、課題（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。				
学生へのアドバイス： 既習の知識を整理して主体的に学んでください。そのために、 事前学習の内容をよく読み早めに取り組みましょう 。この科目では、様々な状態にある子どもと家族の看護を、特に小児特有の症状や疾患の事例を通して講義、ロールプレイ、演習を取り入れながら学びます。段階を追って積み重ねる構成になっていますので、「健康障害C」の授業資料を活用して事前学習した上で同資料を常に持参してください。また「 小児期の発達援助演習ノート 」は 実習の準備学習ともなるものです。大切に学習を積み重ねていってください 。				
2020、2021年度入学者科目名称		小児発達援助演習		

開 講 年 次	3年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	成人期の発達援助演習Ⅱ (慢性期・終末期) (Adult Health Nursing : Assessment & Skills II)					ナンバリング	N-DN45	科目分類	専門分野
担 当 教 員	下村晃子・川原理香・佐藤京子・掛谷和美・山本貴子・川畑貴美子					1科目当たりの合計自己学習時間		30時間	
履 修 条 件	前提科目	2年次までの必修科目を修得していること。							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>成人期に起こりやすい健康問題、疾患や障害のうち、長期慢性的経過をたどり、さまざまな面で生活上のサポートや生涯にわたって生活のコントロールを必要とする対象への看護を学ぶ。国民の死因統計上の課題となる疾患、慢性難治性疾患、あるいは事故などにより身体機能を喪失した対象の個性に応じた援助方法(援助技術含む)、生活上の問題解決、病気の認知と受容過程、セルフケア能力を高める援助、家族へのサポート、社会的支援システムなどについて学修する。</p> <p>終末期についてはがんをとりあげ、積極的な医学的治療が難しいと考えられる時期にあっても、がんの疼痛緩和などケアによって、終末期の充実した生活のありかたについて学修する。人間の根源的苦悩と向き合い、自己の状況の受容過程、その状況の中で積極的に生きることに向き合うケアの方法と、援助する側の人間としてのあり方について学ぶ。</p>									
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患をもつ患者、がんの終末期にある患者、身体機能を喪失した患者とその家族の生活状況と心理状態を説明できる。 慢性疾患をもつ患者、がんの終末期にある患者、身体機能を喪失した患者とその家族に対する看護の必要性を説明できる。 慢性疾患をもつ患者、がんの終末期にある患者、身体機能を喪失した患者とその家族に対する看護ケアと社会支援システムを説明できる。 慢性疾患をもつ患者に必要な看護技術を習得する。 慢性疾患をもつ患者とその家族を対象にした看護過程を展開できる。 									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	担 当
1	導入：慢性期の概念と看護の特徴、慢性疾患をもちながらの生活と慢性期のケアとは					事前：慢性期看護と患者の特徴について、テキストを精読し、準備して臨む		講義	下村
2	1) 慢性期疾患と機能障害 2) セルフケアマネージメント能力を高める方法					事後：講義のまとめ			
3	呼吸器機能障害の看護ケア： 慢性閉塞性肺疾患(COPD)、肺炎、気管支喘息/呼吸方法、酸素療法、酸素化に必要なケア、日常生活・在宅療養への支援					事前：呼吸器の病態を理解して説明できるように準備する 事後：講義のまとめ		講義	佐藤
4	脳神経系 脳梗塞患者の看護ケア 脳神経系の観察、随伴症状を伴うケア、回復過程に向けた看護の方向性					脳神経系の病態を理解して説明できるように準備する 事後：講義のまとめ		講義	下村
5	事例演習1：看護過程の展開 (ミニ講座)事例①の説明 事例②の説明					事前：事例①②患者の理解に必要な知識を学習して臨む 事後：課題レポート提出		事例演習	全員
6	事例①COPDと②脳梗塞 グループワーク								
7	1. 情報の整理 2. アセスメント(分析・解釈・統合)								
8	腎・泌尿器機能障害の看護ケア： 腎不全/透析、シャントの管理、薬物療法、食事療法					事前：腎排泄機能の病態を理解して説明できるように準備 事後：講義のまとめ		講義	川原
9	感覚機能障害を有する人へのケア： 特発性難聴、メニエール病/ 感覚機能障害の種類、生活に及ぼす影響					事前：感覚器機能の病態を理解して説明できるように準備 事後：講義のまとめ		講義	川原
10	事例演習2：看護過程の展開 事例①COPDと②脳梗塞・グループワーク					事前：事例①②患者の理解に必要な知識を学習して臨む 事後：課題レポート提出		事例演習	全員
11	3. アセスメント(分析・解釈・統合) 4. 看護上の問題抽出(看護診断)								
12	循環器機能障害の看護ケア： 不整脈、冠状動脈疾患(狭心症)、心不全 高血圧/ペースメーカー、薬物療法、食事療法、心臓リハビリテーション					事前：循環器の病態を理解して説明できるように準備する 事後：講義のまとめ		講義	川原
13	代謝機能障害の看護ケア：糖尿病、脂質異常症 ・食事療法 ・運動療法 ・薬物療法					事前：代謝機能の病態を理解して説明できるように準備 事後：自己の食生活記録の実施		講義	山本
14	技術演習①： ・血糖測定					事前：糖尿病の看護のワークブックを学習する 事後：ワークブック追加修正		実技演習	全員
15	・インスリン自己注射 ・学生自身の食生活記録の解釈								

16	事例演習3：①COPDと②脳梗塞・グループワーク 5. 関連図作成 6. 看護計画の立案、発表準備	看護過程の展開が理解できるように準備する。グループワークを通して理解する。 事後：課題レポート提出	事例演習	全員
18	栄養摂取・消化器機能障害者の看護ケア： 消化管・肝臓疾患等/薬物療法、食事療法	事前：消化器の病態を理解して説明できるように準備する 事後：講義のまとめ	講義	川原
19				
20	技術演習②： ・輸液管理（輸液ポンプ、シリンジポンプ） ・ベッドサイドモニターの取り扱い	事前：輸液管理とモニターのワークブックを学習する 事後：ワークブック追加修正	実技演習	全員
21				
22	事例演習4：①COPDと②脳梗塞・グループワーク 7. 発表準備と発表（グループ毎） 8. まとめ	看護過程の展開が理解できるように準備する。グループワークを通して理解する。 事後：課題レポート提出	事例演習	全員
23				
24				
25	血液・免疫系機能障害の看護ケア： 白血病、膠原病/薬物療法、輸血療法、移植療法、放射線療法、感染症の予防	事前：造血機能の病態を理解して説明できるように準備 事後：講義のまとめ	講義	川畑
26				
27	脳神経機能障害と神経難病患者の看護ケア：脳梗塞 パーキンソン病 ALS、MG/薬物療法、在宅リハビリテーション、コミュニケーション方法の演習	事前：神経難病の病態を理解して参加する。 事後：課題レポート	実技演習	ゲストスピーカー
28				
29	がん患者のケア：身体的・心理的苦痛と苦痛緩和のための看護と治療に伴う看護、緩和ケアとリハビリテーション	事前：がん疾患や治療の知識を確認して、がん患者の特徴についてテキストを精読し説明できるように準備する。 事後：がんの病名告知を考える。	講義	川畑
30	終末期の看護ケア：補完代替療法、死後のケア、家族ケア *成人期の慢性期・終末期看護のまとめ			
教本： 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1～15] 医学書院 2. 経過別成人看護③ 慢性期看護 メヂカルフレンド社 3. NANDA-I看護診断 定義と分類 2018-2020 原書第11版 医学書院 4. 系統看護学講座 別巻 がん看護学（医学書院、東京）		参考文献： 1. 成人看護学 慢性期看護 南江堂 2. 実践に役立つ看護過程と看護診断—ヘンダーソン・ゴードンのデータベースに基づく事例展開— スーヴェルヒロカワ 3. 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 4. 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 5. 緩和・ターミナルケア看護論 スーヴェルヒロカワ その他は随時提示する。		
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（5%）、レポート・事例記録物等（15%）、定期試験（80%）等で総合的に評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。				
学生へのアドバイス： 予習復習を必ず行うことにより知識・技術の必要性を熟知でき、成人看護の演習で自らの進歩に結びつける。 講義と演習には積極的に参加すること。看護過程演習や技術演習は事前課題を準備し、終了後は課題レポートを整理する。				
2020、2021年度入学者科目名称		成人発達援助演習Ⅱ（慢性期・終末期）		

開 講 年 次	3年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	精神看護援助演習 (Mental Health Nursing : Assessment & Skills)					ナンバリング	N-CN15	科目分類	専門分野
担 当 教 員	小野坂益成・川下貴士・丸山昭子					1科目当たりの合計自己学習時間		30時間	
履 修 条 件	前提科目	精神看護援助論を修得していること							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>精神疾患を抱える対象者を、身体的および心理社会的側面を含めた全体的存在として捉えた上で、人権擁護の観点から、生活の質の向上と自己実現を促す精神看護援助過程を理解することを目的とする。精神疾患の特徴とその看護を知識として学んだ上で、セルフケア理論に基づいた看護過程を事例展開し、看護の方向性や看護計画を立案する。また、自らのコミュニケーションの傾向を把握し、対人関係について振り返ることで精神障害者と接する上での基盤とする。さらに、地域で生活する精神障害者の理解として、社会資源の活用や多職種の役割・連携について学ぶ。</p>									
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害をもつ人の身体・心理・社会的側面を述べることができる。 2. 精神疾患の特徴と治療および看護について説明できる。 3. 精神障害をもつ人の人権と安全を守るための看護について述べるができる。 4. 自分のコミュニケーションの傾向を把握し、振り返ることができる。 5. 精神看護の看護過程を理解し、事例を通してグループで看護の方向性をまとめることができる。 									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）					授業形態	担 当	
1	ガイダンス 脳の仕組みと精神機能	事前：脳の解剖生理を説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義	小野坂 川下 丸山	
2	精神疾患の基礎知識	事前：テキストの該当ページを精読し、精神疾患の原因と分類方法を説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
3	統合失調症	事前：テキストの該当ページを精読し、統合失調症の原因・症状を説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
4	統合失調症とその看護	事前：MSEについて復習し13項目を説明できるように準備する。 事後：復習課題の作成					講義		
5	気分障害	事前：テキストの該当ページを精読し、気分障害の原因・症状を説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
6	気分障害とその看護	事前：統合失調症の授業でのMSE実施を振り返り、気分障害患者の事例にも適合できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
7	神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害とその看護	事前：テキストの該当ページを精読し、神経症性障害の分類と症状、およびストレスについて説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
8	生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群	事前：テキストの該当ページを精読し、生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群の分類と症状が説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
9	成人のパーソナリティ・行動の障害とその看護	事前：既習の心理学で学習したパーソナリティとはどのようなものかを説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
10	器質性精神障害とその看護	事前：既習の病態学で学習した脳の機能・解剖生理について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
11	知的障害、心理的発達障害、児童期の行動・情緒の障害とその看護	事前：乳幼児期・学童期の発達段階について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
12	精神作用物質使用による精神・行動の障害とその看護	事前：精神作用物質について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
13	多職種によるチーム医療（リエゾン精神看護専門看護師）	事前：精神科におけるチーム医療について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
14	精神科における薬物療法	事前：精神科で使用される薬について、既習の薬理学をもとに説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		

15	精神療法・医学的検査と心理検査	事前：精神看護学概論で学習した意識・無意識についての復習と、人の性格パターンについて説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成	講義	小野坂 川下 丸山	
16	社会療法・精神科リハビリテーション	事前：精神科リハビリテーションについて説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成	演習		
17	地域精神保健活動における社会資源の活用	事前：精神科における地域医療・福祉について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成	講義		
18	精神科における安全管理と入院環境	事前：精神科におけるリスクマネジメントについて説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成	講義 演習		
19	援助関係の構築（患者－看護師関係）・プロセスレコード	事前：患者－看護師関係について、テキストの該当ページを精読し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成	講義 演習		
20	プロセスレコードの活用	事前：プロセスレコードの実施方法について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成	演習		
21	精神看護の看護過程(1) セルフケア理論の概要	事前：オレム・アンダーウッドのセルフケア理論について、テキストの該当ページを精読し、説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成	講義 演習		
22	精神看護の看護過程(2) 情報収集・アセスメント・関連図・ケアプラン立案・評価について	事前：看護過程の必要性と一連の流れを説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成	演習		
23	精神看護の看護過程(3) 統合失調症の事例を用いたグループ演習	事前：統合失調症の病態・治療、および看護について復習し、事例における看護過程が展開できるように準備して、グループワークに臨む。 事後：課題レポートの作成	演習		
24	精神看護の看護過程(4) 統合失調症の事例を用いたグループ演習	事前：グループワークで残った課題や疑問を調べて、グループワークがスムーズに進行するように準備して臨む。 事後：課題レポートの作成	演習		
25	精神看護の看護過程(5) 統合失調症の事例を用いたグループ演習	事前：グループワークで残った課題や疑問を調べて、グループワークがスムーズに進行するように準備して臨む。 事後：課題レポートの作成	演習		
26	精神看護の看護過程(6) 統合失調症の事例を用いたグループ演習	事前：グループワークで残った課題や疑問を調べて、グループワークがスムーズに進行するように準備して臨む。 事後：課題レポートの作成	演習		
27	精神看護の看護過程(7) 統合失調症の事例を用いたグループ演習	事前：グループワークで残った課題や疑問を調べて、グループワークがスムーズに進行するように準備して臨む。 事後：課題レポートの作成	演習		
28	精神看護の看護過程(8) 統合失調症の事例を用いたグループ演習	事前：グループワークで残った課題や疑問を調べて、グループワークがスムーズに進行するように準備して臨む。 事後：課題レポートの作成	演習		
29	グループ演習の発表	事前：グループワークの成果が他者に伝わるように準備して臨む。 事後：課題レポートの作成	演習		
30	グループ演習の発表 まとめ	事前：グループワークの成果が他者に伝わるように準備して臨む。 事後：これまでの講義資料を見直し、定期試験の準備をする。	演習		
教本：		参考文献：			
1. 系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院		参考文献は、随時提示する。			
2. 系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院					
成績評価の方法、評価基準：					
授業参加状況等（10%）、復習課題（10%）、看護過程に関するグループワークの発表および個人の課題レポート等（20%）、定期試験（60%）で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。					
学生へのアドバイス：					
精神看護援助論の講義内容を適宜用いますので、その時使用したテキストや講義プリントを復習時に連動させて見直す習慣をつけるようにしてください。					

開講年次	3年次 前期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	災害時精神的援助論 (Disaster mental helth and care)					ナンバリング	N-CN35	科目分類	専門分野
担当教員	丸山昭子・小野坂益成・川下貴士					1科目当たりの合計自己学習時間		30時間	
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>災害では、さまざまな原因によって多くの人の命や安全が脅かされ、災害に遭遇した人は身体的・精神的・社会的影響を受け、状況的危機に陥る。この授業では、それらの影響をふまえ、災害によって危機に直面した人への具体的な心のケアについて学ぶ。また、支援者側のメンタルヘルスについても検討する。</p>									
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時における心のケアの必要性を説明できる。 2. 災害がもたらす身体的・精神的・社会的影響について説明できる。 3. 災害派遣精神医療チームの活動について述べるができる。 4. 被災者を支援する側のメンタルヘルスについて検討できる。 									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態	担当	
1	オリエンテーション 災害時における心のケアの必要性			事前：災害時における心のケアの必要性について、自分の意見を述べるができるように準備する。 事後：復習課題の作成			講義 グループワーク	丸山 小野坂 川下	
2	災害時の心のケアにおける個人とコミュニティ			事前：災害時の心のケアとして、個人とコミュニティの視点で述べるができるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					
3	災害弱者と人権問題			事前：災害弱者について述べるができるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					
4	災害派遣精神医療チーム（DPAT）の活動			事前：DPATについて述べるができるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					
5	災害時の心理			事前：災害時の心理について、精神看護援助論（2年次）の授業資料を復習し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					
6	サイコロジカルファーストエイド			事前：サイコロジカルファーストエイドについて、精神看護援助論（2年次）の授業資料を復習し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					
7	支援者のメンタルヘルスとケア			事前：支援者のメンタルヘルスとケアについて自分の考えを述べるができるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					
8	まとめ			事前：これまでの授業資料を見直し、疑問点や不明な点を明確にして授業に臨む。 事後：定期試験に向けての準備をする					
<p>教本：</p> <p>プリントを配布する。</p>				<p>参考文献：</p> <p>精神看護の展開 精神看護学② 医学書院（2年次購入済み）</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等（10%）、復習課題等（20%）、定期試験（70%）で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>災害は、誰にでも突発的に起こりうるリスクがあります。災害は、人の心にどのような影響を及ぼすのか、どのような援助が必要なのか、また支援者の心のケアはどのようにすべきなのか、授業を通して受講者全員で考えてみましょう。</p>									

開講年次	3年次 前期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	健康教育論 (Introduction to Health Education)					ナンバリング	N-NI35	科目分類	専門分野
担当教員	渡部月子・望月麻衣					1科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>看護師の教育的役割機能には、一次予防、二次予防、三次予防のための教育がある。この講義では、わが国の衛生を取り巻く状況を理解したうえで、様々な対象の健康段階に応じて活用できるように、教育・学修の機能とプログラムについて、基本的な理論と実践について学修する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 健康教育の目的・内容・方法について述べることができる。 2. 健康教育の対象となる人たちの①知識の修得と理解 ②態度の変容 ③行動の変容を図る方法を関連づけて健康教育を実践できる。</p>									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担当
1	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション 健康教育の理念（患者教育の考え方） 					事前：シラバス内容の確認 事後：患者教育の考え方について復習		講義	渡部
2	<ul style="list-style-type: none"> 健康教育に関する諸理論 					事前：「保健行動と行動変容理論」を調査 事後：健康教育に関連する理論について復習		講義	渡部
3	<ul style="list-style-type: none"> 健康教育の方法と教材 					事前：健康教育の方法について調査 事後：健康教育の方法と媒体について復習		講義	渡部
4	<ul style="list-style-type: none"> 健康教育計画の企画、実施と評価 					事前：作成する企画書案の作成 事後：企画書の作成		講義 演習	渡部
5・6	<ul style="list-style-type: none"> 健康教育の企画書・指導案・教材の作成 健康教育の媒体作成 					事前：健康教育の教材の準備 事後：健康教育の教材作成 プレゼンテーションの準備		演習	渡部 望月
7・8	<ul style="list-style-type: none"> 健康教育の発表と評価 まとめ 					事前：プレゼンテーションの練習 事後：授業のまとめ		講義 演習	渡部 望月
<p>教本：</p> <p>プリントを配布する</p>					<p>参考文献：</p> <p>随時提示する</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等（10%）、企画書・教材・発表（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目についてもすべて評価しない。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>「健康教育論」は、健康の保持・増進、疾病の予防、早期発見・早期治療、治癒、社会生活の回復のすべて場面での健康教育について学ぶ授業です。看護師にとって必要なことは、保健・医療の専門家としての誇りと責任感をもち、患者の一番身近にいる相談相手であり健康教育者であるということを忘れずに進めることです。学ぶ内容は幅広くあるので、じっくりと学んでほしい。</p>									

開講年次	3年次 前期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	看護研究方法論 (Research Method for Contemporary Nursing)					ナンバリング	N-NI35	科目分類	専門分野
担当教員	大脇淳子・丸山昭子・川下貴士・勅使河原俊子					1科目当たりの合計自己学習時間			15時間
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 看護学研究の動向および研究方法～論文作成のプロセスを概説する。本授業の目的は看護研究の方法論の特徴を理解し、一つの研究的問いに対し関心を傾けて探求する基礎的能力を養い、研究方法の一連の過程を学ぶことである。また、内容と方法は、研究論文の種類と文献探索、研究計画書、研究手順、研究のまとめ方、研究発表等について演習を交えて学修する。									
授業目標： 1. 看護研究の特徴を説明する。 2. 看護研究における倫理について説明する。 3. 看護研究の進め方を説明できる。 4. 研究課題に関する文献検索・文献検討する。 5. 研究計画書を作成する。 6. 研究論文のまとめ方を説明する。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担当
1	ガイダンス 看護研究とは					事前：第1・2・終章の予習 事後：看護研究とは何かを復習		講義	大脇
2	研究デザイン、研究の倫理					事前：第4・5章の予習 事後：看護研究の倫理・デザインを復習		講義	
3	量的研究の特徴					事前：第5章（量的研究出デザイン）を予習 事後：量的研究の復習		講義	丸山
4	研究課題と文献検索(1)：量的研究					事前：第3・5章（量的研究出デザイン）を予習 事後：リサーチクエスチョン・文献検索の復習		講義 演習	
5	文献クリティーク(1)					事前：第3章の予習 事後：文献クリティークの復習		演習	
6	質的研究の特徴					事前：第5（質的研究デザイン）を予習 事後：質的研究の復習		講義	大脇
7	研究課題と文献検索(2)：質的研究					事前：第2・3・5章（質的研究デザイン）を予習 事後：リサーチクエスチョン・文献検索の復習		講義 演習	
8	文献クリティーク(2)					事前：第3章の予習 事後：文献クリティークの復習		演習	
9	研究計画書の作成(1)					事前：第8章の予習 事後：ワークの復習		講義 演習	大脇 丸山 川下 勅使河原
10	研究計画書の作成(2)					事前：ワークの予習 事後：ワークの復習		演習	
11	研究計画書の作成(3)					事前：ワークの予習 事後：ワークの復習		演習	
12	研究計画書の作成(4) ※終了時課題の提出					事前：ワークの継続 事後：課題：研究計画書の提出		演習	
13	研究論文のまとめ方(1)：研究背景と研究目的					事前：第9章の予習：背景と目的 事後：研究背景・目的の復習		講義	大脇
14	研究論文のまとめ方(2)：研究方法・結果・考察・結論・限界					事前：第9・12章の予習：研究方法～結論（まとめ） 事後：研究方法～まとめの復習		講義	
15	文献研究の進め方					事前：第9章の予習 事後：文献研究の復習		講義	
教本： 1. 坂下玲子他：看護研究 系統看護学講座 別巻 第1版（最新版を）、医学書院						参考文献： 随時提示する。			
成績評価の方法、評価基準： 演習への取り組み状況等（40%）、課題等（60%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 皆さんにとって初めての看護研究ですので、わかりやすい講義を心がけます。研究は自分でやってみないと学べない分野ですので、ワークなど演習形式により、学生間で学びを共有しながら最終的に自身の研究への関心と探求するための看護研究の基礎的能力を養います。保健統計学の知識も導入しますので関連させながら授業に臨みましょう。									

開 講 年 次	3 年次 後期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	90	授 業 形 態	実 習
授 業 科 目 (英 文)	生殖・周産期の看護ケア実践 (Reproductive and Perinatal Nursing : Practicum)					ナンバリング	N-DN16	科 目 分 類	専 門 分 野
担 当 教 員	和田佳子・増山利華・木原博子・箭内彩也佳								
履 修 条 件	前提科目	リプロダクティブ・ヘルス援助論、リプロダクティブ・ヘルス援助演習を修得していること。							
	そ の 他	ツベルクリン検査、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに、11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも実習条件として追加される。							
授業概要： 学んだ知識・技術を統合し、根拠に基づいた個別性のある看護実践を展開する。主な対象は、周産期にある妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族で、情報のアセスメント、看護計画を立案、看護援助の実践、評価の連続した過程を学ぶ。また、地域社会での母子支援を含めて次世代を育成するための看護や自らの性、家族の意義についても考える機会とする。									
授業目標： 1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の特性を理解する。 2. 妊娠・分娩・産褥期及び新生児期の母子と家族の健康状態に応じた看護を実践する。 3. 妊娠・分娩・産褥期及び新生児期の家族の機能を把握し、新しい家族成員を迎える家族への支援を学ぶ。 4. 母子及び家族を取り巻く環境を理解し、地域社会における母子支援の必要性を学ぶ。 5. 母子保健医療チームの一員としての自覚を持ち、責任ある行動を身につける。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習 （学 習 課 題）			担 当
1 週目 5 日間	初日：学内オリエンテーション、看護技術演習 助産院 環境整備、妊婦健康診査、分娩・産後ケア、母乳外来、育児支援等の見学 学内 妊娠期の看護診断、妊婦健康診査の実施、妊娠期の看護実践計画、保健指導案作成／実施					「生殖・周産期看護ケア実践実習手引き」参照			和田 増山 木原 箭内 ※実習施設ごとに分け指導する。
2 週目 5 日間	母児の看護実践 周産期にある母児を受け持ち、看護過程の展開をする 看護計画に基づき、看護を実践する *一部実践もしくは見学の場合もある その他 機会を得ることができれば、妊娠期の看護、分娩期の看護、帝王切開時の看護を実践する 最終日：実習のまとめ、報告会								
教 本： リプロダクティブ・ヘルス援助論、リプロダクティブ・ヘルス援助演習等で使用したテキスト					参 考 文 献： 随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 実習評価表の評価基準に基づき、看護援助の実際、実習態度、実習課題レポートおよび記録物により、総合的に評価する。 *実習オリエンテーションや学内学習も評価対象とする。 *実習の準備・学習課題は、臨地実習ガイダンスにて配布する資料を参照する。実習初日のオリエンテーションで生殖・周産期ケアに関する基礎知識の確認テストを行う。									
学生へのアドバイス： 生殖・周産期看護ケア実践の実習では看護過程の展開が速いため、事前学習、準備を十分にして実習に臨んでください。欠席のないように健康管理に気をつけましょう。									
2020、2021年度入学者科目名称			生殖・周産期看護ケア実践						

開講年次	3年次 後期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	90	授業形態	実習
授業科目(英文)	小児期の看護ケア実践 (Introduction to Pediatric Nursing : Practicum)					ナンバリング	N-NP36	科目分類	専門分野
担当教員	大脇淳子・吉田裕子								
履修条件	前提科目	健康障害C、小児発達援助論、小児期の発達援助演習、基礎看護ケア実践Ⅰ・Ⅱの単位を取得していること。							
	その他	IGRA検査陰性、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で抗体がある、または陰性で予防接種が完了している者。COVID-19、インフルエンザの予防接種を完了していることが望ましい。							
<p>授業概要：</p> <p>本科目は、子どもと家族の倫理に基づく看護を学ぶために、健康な子どもの発達支援実習と健康障害のある小児と家族の看護ケア実践実習の2単位で構成する。まず、1単位は、幼稚園での実習を通して、健康な子どもの成長・発達過程の実際と健やかな成長・発達の促進に向けた発達支援の実際を学修する。次の1単位は、健康障害により療養生活を送る小児と家族を受け持ち、成育看護の観点から対象の成長・発達段階と身体的・心理・社会的な健康レベルに応じた看護に必要な基礎的能力を学修し、自己の小児看護観を育む。</p>									
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児各期の成長・発達と生活行動の特徴を理解し、健やかな成長・発達を促進する看護を実践する。 2. 健康障害や療養生活が小児と家族（きょうだいを含む）に及ぼす影響を分析する。 3. 健康障害のある小児と家族を看護の対象と捉え、小児の健康回復と成長・発達を促進する看護を実践する。 4. 子どもの権利擁護と小児看護の倫理に基づく看護を学ぶ学生として責任ある行動をとる。 5. 成育看護を見据えた多職種との連携、協働における看護の役割について考える。 6. 成長・発達や健康レベルに応じた子どもと家族（きょうだいを含む）との関わりを通して対象理解を深め、倫理に基づく小児看護観を育む。 									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			担当
5日間	<p>健康な子どもの発達支援実習：1単位</p> <p>【実習施設】・松蔭幼稚園</p> <p>【実習方法】初日ガイダンス。2～4日目は幼稚園で年齢の異なるクラスで実習する。5日目は学内で実習報告会を行う。</p> <p>【実習内容】・幼稚園では、成長・発達段階の異なる幼児クラスで集団生活を送る健康な幼児の成長・発達の特徴と基本的養護の実際を学ぶ。</p> <p>※詳細は「小児看護ケア実践要領」参照</p>					<p>【事前】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①小児各期（特に幼児期）の成長・発達の特徴 ②発育・発達評価および生活行動を促進する看護（発育支援）方法 <p>【事後】</p> <p>健康な子どもの発達支援実習の学びのレポート</p>			大脇 吉田
5日間	<p>健康障害のある小児と家族の看護実習：1単位</p> <p>【実習施設】・厚木市立病院・伊勢原協同病院・平塚市民病院・海老名総合病院・東海大学医学部附属病院・藤沢市民病院</p> <p>【実習方法】実習1日目～4日目は病棟実習、5日目は学内で小児病棟実習のまとめを行う。</p> <p>【実習内容】健康障害のある小児と家族1名受け持ち、健康レベルや発達段階に応じた看護を実践する。</p> <p>※詳細は「小児期の看護ケア実践要領」参照</p>					<p>【事前】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①小児各期の成長・発達の特徴 ②健康な子どもの発達支援実習②と同様 ③小児に特有な疾患の病態生理・検査・治療・処置・看護 ④小児期の予防接種、事故防止 ⑤他職種との連携と協働、看護の役割 <p>【事後】</p> <p>健康障害のある小児と家族の看護ケア実践後レポート</p>			
<p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1グループ3～5名程度で2週間実習する。(別紙「2024年度看護ケア実践計画学生配置」参照) 2) 実習開始直前に実習施設別オリエンテーションおよび看護過程の復習と事例に基づく小児看護技術演習を実施する。 									
<p>教本：</p> <p>小児発達援助論、小児期の発達援助演習、健康障害Cで使用したテキスト</p>					<p>参考文献：</p> <p>小児期の看護関連科目の講義レジュメ、その他、随時提示する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>実習態度（30%）、援助の実際（40%）、実習課題レポート・記録物（30%）等、別途定める小児期の看護ケア実践評価基準に準ずる。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康障害C、小児発達援助論、小児期の発達援助演習で学修した知識・技術を活用した実習になります。まずは、対象となる子どもと接して関係性を築くことから始めましょう。 2) 感染症に罹患した（疑い含む）場合は実習を中断する場合がありますので、実習前2週間、実習中の自己の健康管理には十分注意しましょう。また、実習後2週間も健康管理を記録し、異常があれば必ず報告しましょう。 									
2020、2021年度入学者科目名称			小児看護ケア実践						

開講年次	3年次 後期	選択・必修	必修	単位数	3	時間数	135	授業形態	実習	
授業科目(英文)	急性期・回復期の看護ケア実践 (Adult Health Nursing : Practicum I)					ナンバリング	N-NP46	科目分類	専門分野	
担当教員	川畑貴美子・佐藤京子・下村晃子・掛谷和美・川原理香・山本貴子									
履修条件	前提科目	3年次前期までの必修科目を修得していること								
	その他	IGRA検査、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性であること、または予防接種が完了していること。予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。11月以降の実習においては、インフルエンザの予防接種を受けていることも実習条件として追加される。								
<p>授業概要：</p> <p>成人期や老年期の急性期・回復期、特に周手術期にある対象と援助的人間関係を形成する。</p> <p>対象の疾病の成り立ちと回復を促進する根拠となる知識と技術を身につけ、健康レベルの改善、QOLの向上を目指す看護を実践する。看護過程の展開に沿って対象者のニーズに合わせた看護計画を立案し実践・評価できる能力を養う。実習を通して自己の看護観について考える機会とする。</p>										
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期および老年期の対象の特徴とそれぞれの健康特性を、身体・心理・社会・スピリチュアルの各側面から理解できる。 2. 根拠に基づいて健康上の諸問題を統合的に把握し、看護問題を見いだすことができる。 3. 周手術期にある対象および家族に必要な看護が計画できる。 4. 計画にそって、療養生活を支援できる。 5. 自己の看護実践を客観的に評価することができる。 6. 保健医療福祉チームにおける、看護師の役割および多職種連携が理解できる。 7. 看護学生としてふさわしい態度を身につけることができる。 8. 看護に対する自己の考えを振り返ることができる。 										
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担当	
5日間	第1日目：学内にて実習オリエンテーションと自己学習 第2日目を以降：病棟実習 受け持ち患者の看護計画の立案と看護ケアの実施 病棟カンファレンス					実習事前演習 (基礎看護技術確認)		学内演習	川畑貴美子 佐藤京子 下村晃子 掛谷和美 川原理香 山本貴子	
5日間	病棟実習 看護過程に基づいた受け持ち患者への看護ケアの実施 病棟カンファレンス・中間カンファレンス（関連図発表） 第2週目水曜日：学内において個別指導と個人面談（中間） 木・金曜日病棟実習					詳細は「急性期・回復期の看護ケア実践要領」参照。 成人発達援助論、看護過程および成人期の発達援助演習Ⅰの復習。				臨地実習と見学
5日間	第13日目まで：病棟実習 受け持ち患者の看護過程の展開と看護ケアの実施 病棟カンファレンス 最終カンファレンス：看護要約と自己の看護観のまとめ 第14・15日目：学内でのまとめと最終個人面談、課題レポート作成									
<p>教本：</p> <p>成人発達援助論、成人発達援助演習Ⅰ・Ⅱ、健康障害A・B・C等で使用したテキスト</p>					<p>参考文献：</p> <p>実習病棟での対象把握に必要な文献は、随時提示する。</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>実習への態度・参加状況、実習課題レポート・記録物を評価する。 実習への参加状況には実習オリエンテーションへの出席を含む。</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>積極的に真摯な姿勢で実習に取り組むこと。報告・連絡・相談を徹底すること。 言葉遣いや身だしなみ等マナーを守ること。個人情報の順守と守秘義務の徹底 成人発達援助論、成人期の発達援助演習Ⅰ、健康障害A・B・Cで学習した知識を元に実習を行う。</p>										
2020、2021年度入学者科目名称			急性期・回復期看護ケア実践							

開講年次	3年次 後期	選択・必修	必修	単位数	3	時間数	135	授業形態	実習
授業科目(英文)	慢性期・終末期の看護ケア実践 (Adult Health Nursing : Practicum II)					ナンバリング	N-NP46	科目分類	専門分野
担当教員	川畑貴美子・下村晃子・佐藤京子・掛谷和美・川原理香・山本貴子								
履修条件	前提科目	3年次前期までの必修科目を修得していること。							
	その他	IGRA検査、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性であること、または予防接種が完了していること。予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。11月以降の実習においては、インフルエンザの予防接種を受けていることも実習条件として追加される。							
<p>授業概要：</p> <p>成人期や老年期の慢性期・終末期にある対象と、援助の人間関係を形成する。</p> <p>対象の疾病の成り立ちと回復を促進する根拠となる知識や技術を身につけ、健康レベルの改善、QOLの向上を目指す看護を実践する。慢性疾患を持ち疾病のコントロールを必要とする患者および家族の特徴を理解し、看護過程の展開に沿って対象者のニーズに合わせた看護計画を立案し実践・評価できる能力を養う。実習を通して自己の看護観について考える機会とする。</p>									
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期および老年期の対象の特徴とそれぞれの健康特性を、身体・心理・社会・スピリチュアルの各側面から理解できる。 2. 根拠に基づいて健康上の諸問題を統合的に把握し、看護問題を見いだすことができる。 3. 対象および家族に必要な看護が計画できる。 4. 計画にそって、療養生活を支援できる。 5. 自己の看護実践を客観的に評価することができる。 6. 保健医療福祉チームにおける、看護師の役割および多職種連携が理解できる。 7. 看護学生としてふさわしい態度を身につけることができる。 8. 看護に対する自己の考えを振り返ることができる。 									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担当
5日間	第1日目：学内にて実習オリエンテーションと自己学習 第2日目を以降：病棟実習 受け持ち患者の看護計画の立案と看護ケアの実施 病棟カンファレンス					実習事前演習 (基礎看護技術確認)		学内演習	川畑貴美子 下村 晃子 佐藤 京子 掛谷 和美 川原 理香 山本 貴子
5日間	病棟実習 看護過程に基づいた受け持ち患者への看護ケアの実施 病棟カンファレンス・中間カンファレンス（関連図発表） 第2週目水曜日：学内において個別指導と個人面談（中間） 木・金曜日病棟実習					詳細は「慢性期・終末期の看護ケア実践要領」参照。 成人発達援助論、看護過程および成人期の発達援助演習Ⅱの復習。		臨地実習と見学	
5日間	第13日目まで：病棟実習 受け持ち患者の看護過程の展開と看護ケアの実施 病棟カンファレンス 最終カンファレンス：看護要約と自己の看護観のまとめ 第14・15日目：学内でのまとめと最終個人面談、課題レポート作成								
<p>教本：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1~11] 医学書院 2. 経過別成人看護学 慢性期看護 メヂカルフレンド社 3. NANDA-I 看護診断 定義と分類 2015-2017 原書第10版 医学書院 					<p>参考文献：</p> <p>実習病棟での対象把握に必要な文献は、随時提示する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>実習への態度・参加状況、実習課題レポート・記録物で評価する。 実習への参加状況には実習オリエンテーションへの出席を含む。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>積極的に真摯な姿勢で実習に取り組むこと。報告・連絡・相談を徹底すること。 言葉遣いや身だしなみ等マナーを守ること。個人情報の順守と守秘義務の徹底 成人発達援助論、成人期の発達援助演習Ⅱ、健康障害A・B・Cで学習した知識を元に実習を行う。</p>									
2020、2021年度入学者科目名称			慢性期・終末期看護ケア実践						

開講年次	3年次 後期	選択・必修	必修	単位数	3	時間数	135	授業形態	実習
授業科目(英文)	老年期の看護ケア実践 I (Gerontological Nursing Care : Practicum I)					ナンバリング	N-NP56	科目分類	専門分野
担当教員	草地潤子 他								
履修条件	前提科目	老年発達援助論、老年期の発達援助演習もしくは老年発達援助演習を修得していること							
	その他	IGRA検査、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎の各抗体検査陰性で予防接種が完了していること、冬季実習においてはインフルエンザの予防接種を受けていること							
授業概要 亜急性期病棟・リハビリテーション病棟・地域包括ケア病棟に入院している高齢者が、早急にその方の望む場における生活を実現するための基礎的看護実践能力を涵養する。高齢者が身体的・精神的・社会的に健全な発達・成熟を継続できるように、日常生活行動ならびにヘルスプロモーションに向けた援助方法について学ぶ。またこれらに関わる関連職種への役割について理解を深め、かつ連携の仕方とケア・コーディネーションができる方法について学ぶ。									
授業目標 1. 病院・施設における高齢者の個別的な環境や成長発達について説明できる。 2. 健康障害を持つ高齢者の病態生理・症状・治療・二次障害・健康段階を説明できる。 3. 高齢者の疾病に伴う心理状態や入院についての適応状態を説明できる。 4. 高齢者が生活しやすく安全性に配慮した援助ができる。 5. 高齢者の闘病意欲の向上につながる適切な援助ができる。 6. 高齢者の可能な身体機能を活用し、日常生活能力を維持、向上するための援助ができる。 7. 介護老人保健施設の理念および機能ならびに役割が理解できる。 8. 介護老人保健施設における看護の特徴や、専門職チームの中での看護の役割について、考えを深めることができる。 9. 外来に通院しながら療養する高齢者の地域における療養生活について説明できる。 10. 実習を通して自己の高齢者看護観について、考えを形成することができる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担当
3週間	【病院実習】 1. 各実習病院のオリエンテーションを受ける。 2. 学生は高齢患者1名を受け持ち、看護過程を展開する。 • 患者の情報を収集し、アセスメントする。 • 患者の看護問題について看護計画を立案し実施する。 • 実習指導者とともに患者への看護実践を行う。 • 行った看護援助を評価修正し、患者に適した援助を検討していく。 【介護老人保健施設】 1. 各実習施設のオリエンテーションを受ける。 2. 入所高齢者とのコミュニケーションを通じ、施設での日常生活について理解を深めるとともに看護師のケア実践を見学し、看護職の役割を知る。 【外来・退院支援】 1. 各実習病院のオリエンテーションを受ける。 2. 高齢者の地域における療養生活および支援の実際を学ぶ。					実習事前学習 • 加齢に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化 • 老年期の発達援助演習、看護過程の復習 詳細は、「老年看護ケア実践 I 要領」参照		実習	草地潤子 他
教本： 随時提示する					参考文献： 随時提示する				
実習評価の方法、評価基準 実習への参加状況・実習態度、課題レポート・記録物等、別途定める実習評価基準に順ずる。 実習への参加状況には実習オリエンテーションへの出席も含む。									
学生へのアドバイス 高齢者のこれまでの生活をふまえ、その方の個性をも含めた支援を考えよう。									
2020、2021年度入学者科目名称			老年看護ケア実践 I						

開 講 年 次	3 年次 後期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	90	授 業 形 態	実 習
授 業 科 目 (英 文)	精神看護ケア実践 (Mental Health Nursing : Practicum)					ナンバリング	N-NP66	科 目 分 類	専 門 分 野
担 当 教 員	丸山昭子・小野坂益成・川下貴士								
履 修 条 件	前提科目	精神看護援助論、精神看護援助演習の単位を取得していること							
	そ の 他	IGRA検査、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。冬季実習においてはインフルエンザワクチンの接種が条件となる。							
<p>授業概要：</p> <p>精神疾患を持つ人の入院中から退院支援までの回復の段階に応じた看護を理解し、指導の下に実践する。また、精神障害者の地域生活支援について、多職種と協働する必要性と方法を精神科デイケアや精神科訪問看護、精神科グループホーム等の実習を通して体験的に学ぶ。</p>									
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者との接し方を理解し、対話の実際を通して、治療的な人間関係を保つことができる。 2. 薬物、作業、レクリエーション療法を通して患者に接することができる。 3. 人権の尊重と行動の制限について述べることができる。 4. 院内・院外における生活場面で、患者の安全と事故防止について述べることができる。 5. 障害者理解を通して、自己の考え方を振り返ることができる。 6. 地域で生活する精神障害者を支援する多職種の活動を記述できる。 7. 看護理論の枠組みに沿って、系統的に対象者の情報を整理し、看護の方向性を記述できる。 									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			担 当
10日間	<p>詳細は、「精神看護ケア実践要領」参照</p> <p>実習期間中、4日間は病棟、2日間はデイケア、1日はグループホームまたは精神科訪問看護等で実習する。初日にガイダンスを行い、それぞれの実習の最終日にはまとめ及び個別面接を学内にて行う。</p>					「精神看護ケア実践要領」参照			丸山 小野坂 川下
<p>教本：</p> <p>精神看護援助論、精神看護援助演習で使用したテキスト</p>					<p>参考文献：</p> <p>随時提示する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>実習への参加状況 (40%)、実習課題レポート・記録物 (60%) 等、別途定める実習評価表で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>精神看護援助論、精神看護援助演習で学習した内容を、事前に復習しておいてください。</p>									

Ⅶ シラバス(4年)

Ⅶ シラバス(4年)

文部科学省大学設置基準（令和4年9月30日一部改正）によると、「1単位にはおおむね45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする」とされており、授業時間以外に自己学修時間も含まれている。1又は2単位あたりに必要な学修時間は下表の通りである。

単位あたりの学修時間

授業形式	単位数 (学修時間数)	授業回数 (コマ数)	授業時間数	自己学習時間数	
				合計	1コマあたり (事前+事後)
講義	1単位 (45時間)	8	16(15)時間	30時間	4時間
	2単位 (90時間)	15	30時間	60時間	4時間
演習	1単位 (45時間)	15	30時間	15時間	1時間
	2単位 (90時間)	30	60時間	30時間	1時間

出典：大学設置基準第二十一条

Ⅶ シラバス(4年)

開 講 年 次	4 年 次 前 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	災 害 ・ 救 急 時 医 療 と 看 護 (Disaster and Emergency Nursing Management)							科 目 分 類	専 門 分 野
担 当 教 員	吉 井 信 哉 ・ 奈 良 かな 子 ・ 佐 藤 京 子					1 科 目 当 た り の 合 計 自 己 学 習 時 間		60 時 間	
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>生命が危機に直面する三次救命救急を必要とする状況は、疾患から引き起こされるのみならず、事故や災害によっても起こり得る。ここでは、救命救急処置および看護に必要な基礎知識として、心肺蘇生法とそれらを必要とする病態や救命救急医療システムについて学習する。また、保健医療従事者に必要とされる一次および二次救命救急の技法を、演習を通して習得する。さらに、災害や緊急事態発生時の危機管理と対処方法、トリアージについて実際的に学ぶ。</p>									
授 業 目 標 :									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害医療と救急医療の違いを理解しつつ、災害時、急変時など看護師として実際に自ら考え行動が出来るような思考を養う。 2. 災害時（小規模から大規模災害時）に国、県、市町村長がどのように行動をして災害の対応を行うかを知り、その際にはどのような医療・看護が必要となるのかを理解する。 3. 災害の際の指揮・命令系統、情報伝達を理解し、国県が指導して行っている災害救助チーム（DMAT¹⁾、DPAT²⁾、JMAT³⁾、DMORT⁴⁾）の機能・機構を理解する。 4. 災害時における外傷を理解する。 5. 災害サイクルの理解と生活支援や災害からの復興や、被災災害地域の保健衛生・健康管理、看護の知識を理解する。 6. 災害時における看護の避難所サポートについて学ぶ。 7. 救急医療において基本的な医療現場で用いる意識レベルの評価、熱傷の理解、包帯法やBLS（Basic Life Support：一次救命処置）による演習を行い、実際に評価・実行できるようにする。BLSにおいては事前学習、座学、演習、筆記試験、実技試験を行い、合格者には日本救急医学会認定BLS修了認定証が授与される。 <ol style="list-style-type: none"> 1) Disaster Medical Assistance Team、 2) Disaster Psychiatric Assistance Team、 3) Japan Medical Association Team、 4) Disaster Mortuary Operational Response Team 									
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	担 当
1	災害について、災害医療の概要と災害への準備 (災害についての理解と災害医療の原則を理解、災害サイクルと災害の準備と看護の役割、災害時の対応について) (吉井①)					事前：なし 事後：授業内容の復習		講義	吉井、奈良 佐藤
2	災害看護・救急看護について 看護からみた救急看護と災害看護の違いと災害看護・救急看護の診るべき点をあげ、災害時であればどうするのか、病院での急変時はどうするのか学ぶ。(佐藤①)。					事前：なし 事後：授業内容の復習		講義	佐藤、奈良、 吉井
3	急性期医療について(仮) 大規模感染症流行に対して(仮)					事前：なし 事後：授業内容の復習		講義	ゲストスピーカー 奈良、吉井、 佐藤
4	災害サイクルに応じた看護のあり方、災害の法制度 災害サイクル各期に応じた看護師の役割について学ぶ。(奈良①)					事前：なし 事後：授業内容の復習		講義・演習	奈良、吉井、 佐藤
5	災害時の指揮命令系統・情報伝達について 医療従事者によるトリアージ・救出について、災害時の指揮命令系統の理解と統制を理解、情報伝達のシステムと情報伝達方法を知ることにより急性期の災害サイクルの理解を知る。 災害時のトリアージ（一次トリアージ、二次トリアージ）につて学ぶとともに、災害現場の救出の基本について、災害時の外傷時の評価について学ぶ。(吉井②)					事前：なし 事後：授業内容の復習		講義・演習	吉井、奈良 佐藤
6	看護だからできる災害者の避難所におけるサポート（その1） 看護としての災害者の災害時における生活環境改善やサポートについて学ぶ。(奈良②)					事前：なし 事後：授業内容の復習		講義	奈良、 吉井、佐藤
7	看護だからできる災害者の避難所におけるサポート（その2） 看護としての災害者の災害時における生活環境改善やサポートについて学ぶ。(奈良③)					事前：なし 事後：授業内容の復習		講義	奈良、吉井、 佐藤
8	病院における災害時の看護師としての役割 発災直後の病院での看護師の役割と具体的な対応について学ぶ。(奈良④)					事前：なし 事後：授業内容の復習		講義	ゲストスピーカー、 奈良、吉井、 佐藤
9	病院における災害時の看護師としての役割 発災直後の病院での看護師の役割と具体的な対応について学ぶ。(奈良④)					事前：なし 事後：授業内容の復習		講義	吉井、 奈良、佐藤
10	Covid-19（新型コロナウイルス感染症）と災害時・被災下における疾病 感染症、Covid-19(新型コロナウイルス感染症)と災害時の疾患や被災下における慢性疾患の対処方法などについて (奈良②)					事前：なし 事後：授業内容の復習		講義	奈良、吉井、 佐藤

11	<p>災害について、災害医療と災害への準備 (治療面からみた、災害についての理解と災害医療の原則を理解、災害サイクルと災害の準備と看護の役割、災害時の対応について)。(奈良④)</p>	<p>事前：なし 事後：授業内容の復習：授業内容の復習</p>	演習	吉井、奈良、佐藤
12	<p>熱傷、意識レベルの評価、BLS演習前授業ならびテスト 熱傷について学び、成人・小児の熱傷算定方法を学ぶ。 意識レベルの評価：JCS、GCSを中心とした意識レベルの評価。BLS演習前試験を行う。(吉井⑤)</p>	<p>事前：テキストの自己学習 事後：授業内容の復習</p>	演習	吉井、奈良、佐藤
13	<p>DPAT・心のケア・DMORTについて 災害時には急性疾患が目されるものの、心身的ストレスが災害後に大きな問題になっていることが分かってきた。心的ストレスに対し災害派遣精神医療チーム(DPAT)による患者への対応や、被災者のPost Traumatic Stress Disorder(PTSD)を初めとする精神疾患発症の予防などを支援する専門チームの災害時の働きなどを理解するとともに、DMORT(災害遺族・遺体対応)についても理解をする。(奈良⑤)</p>	<p>事前：なし 事後：授業内容の復習</p>	演習	奈良、吉井、佐藤
14	<p>BLS(Basic Life Support：一次救命処置) vol. 1 1ブース3～4名の受講生(学生)とインストラクター1名に対し1体の蘇生人形を用いて演習を行う。発見から意識の確認、胸骨圧迫、ポケットマスクやバグバルブマスクを用いた人工呼吸法と、AEDを用いた蘇生を座学、実地を用いて学び、実際に急変時に行えるようインストラクターの指導の下、実練習を行う。</p>	<p>事前：テキスト内容の予習 事後：授業内容の復習</p>	演習	ゲストスピーカー、吉井、奈良、佐藤
15	<p>BLS(Basic Life Support：一次救命処置) vol. 2 前演習学んだ蘇生方法を引き続き学びつつ、実際に急変時に行えるようにメガコードを用いた合否試験を行う。筆記試験・実技試験合格者には日本救急医学会認定BLS修了認定証が授与される。</p>	<p>事前： 事後：授業内容の復習</p>	演習	ゲストスピーカー、吉井、奈良、佐藤
<p>教本： 災害看護学(新体系看護学全書)：辺見 弘(編集)、山西文子(編集) 松蔭大学BSLコース・コンセンサス：吉井信哉(編集)⇒授業の際配布</p> <p>参考教本： ・災害看護(ナーシング・グラフィカー看護の統合と実践(3))：酒井明子(編集) ・災害看護一看護の専門知識を統合して実践につなげる(看護学テキストNiCE)：酒井明子(著)、 ・MCLS-CBRNEテキスト-CBRNE現場初期対応の考え方：日本集団災害医学会(監修)、大友康裕(編集) ・JRC蘇生ガイドライン2022： ・DMAT標準テキスト第2版 ・改訂第5版日本救急医学会ICLSコースガイドブック：山畑佳篤(著)、小倉真治(監修) その他、随時提示する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準： ・授業評価：定期試験(BLS内容も含む)、授業参加など総合評価する。なお、授業参加(出席)は最低条件である。・一次救命処置の演習として日本救急医学会認定のBLSコースを開催する。本コースにおいては座学、事前試験、演習/実地試験を行い合格者に認定証を発行する。本コースの不合格者であっても、他の評価にて総合的に単位認定を行うため、BLSコース不合格であっても単位は不合格とは限らない。BLSコース修了(不合格であっても)他の蘇生シミュレーションコースの受講は可能となる。なお、2年以内に他施設で日本救急医学会BLSコースを受講し認定(プロバイダー)されている場合には本コース受講にて更新とする。しかし、他AHA BLSコース、消防所や運転免許証でBLSコースなどの受講・認定をしても、本コースの更新とは認められない。本コースを受講・認定試験合格にて初めて認定される。本BLSコースにおいて不合格者は再試験・再実地試験は行わない。なお、学期末試験においてはBLSコースの内容も含めて筆記ないし選択肢による試験を行う。本BLSコース修了認定後2年以内に日本救急医学会認定BLSコースを受講しアシスタントインストラクターとして指導することが望ましい。</p>				
<p>学生へのアドバイス： ・病院実習にて臨床経験し、実際の医療現場は体験したと思いますが、周知のごとく人の急変は日頃あまり多くはありません。BLSはその遭遇が少ない急変時の対応の1つです。しかし、せっかく修得した知識も半年もすれば低下します。知識の持続はヒトに教えたり、振り返ることにより持続します。これを機に看護師になっても継続してBLSなどのセミナーに参加し知識を継続してください。 ・災害については本授業では概要を中心に話します。これから学生の皆さんが就職する各医療機関・教育機関における災害対策には多くの違いがあります。また、災害は規模や周囲の環境によっても対応が様々です。BLS同様に継続して意識し学ぶよう心掛けてください。</p>				

開 講 年 次	4 年次 前期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	看護理論と実践 (Nursing Theory and Practice)							科目分類	専門分野
担 当 教 員	富田 幸江					1 科目当たりの合計自己学習時間		30時間	
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 看護理論は看護の見方・考え方の方向性を示し、看護実践の理論的思考に活用されることについて学ぶこととする。また、本科目では、理論についての一般的な概念を学んだあとに、看護理論家による代表的な看護理論を取りあげて学修する。さらに、看護理論における中範囲理論を含め、理論構築の過程など理論学修に必要な概念や、それぞれの看護のメタパラダイムや理論内容について、実習でかかわった事例を通して学修する。									
授業目標： 1. 理論についての一般的な考え方と看護理論家による代表的な看護理論について説明することができる。 2. 看護理論における中範囲理論を含め、理論構築の過程について説明することができる。 3. 看護の見方・考え方が、看護実践で看護師の理論的思考に活用されていることを説明することができる。 4. 実習でかかわった事例を看護理論で意味づけることによって、自己の看護観を明確化することができる。 5. 看護学生アイデンティティの確立が看護専門職の成長につながっていくことの意味を説明することができる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	<ul style="list-style-type: none"> 理論の一般的な考え方を基本とした看護理論の考え方 看護理論家による代表的な看護理論とその特徴 看護の哲学：ナイチンゲール 近代看護の創始者：ヘンダーソン、ウィーデンバック 					事前：看護理論の考え方、看護理論家の看護の考え方の特徴を、教本を参考に学習し授業に臨むこと 事後：課題レポートの提出		講義	富田
2	<ul style="list-style-type: none"> 看護理論家による代表的な看護理論とその特徴 ヒューマンケアリングの看護理論： トラベルビ、ペブロー、オレム、ワトソン、ペナー 					事前：看護理論家の看護の考え方の特徴を、教本を参考に学習し授業に臨むこと 事後：課題レポートの提出		講義	富田
3	<ul style="list-style-type: none"> 看護理論家による代表的な看護理論とその特徴 セルフケア理論：オレム、適応システム理論：ロイ 					事前：看護理論家の看護の考え方の特徴を、教本を参考に学習し授業に臨むこと 事後：課題レポートの提出		講義	富田
4	<ul style="list-style-type: none"> 看護理論における中範囲理論と理論構築の考え方 ケアリング、アイデンティティ、ストレス対処など 					事前：中範囲理論の特徴を、教本を参考に学習し授業に臨むこと 事後：課題レポートの提出		講義	富田
5	<ul style="list-style-type: none"> 看護理論が及ぼす看護実践での理論的思考への活用 事例検討：実習でかかわった事例を看護理論で意味づけことにより、自己の看護観の明確化を図る。 					事前：実習での事例を看護理論で意味づけられるよう、本授業の内容を復習し、授業に臨むこと 事後：課題レポートの提出		講義	富田
6	事例検討 実習でかかわった事例を看護理論で意味づけることにより、自己の看護観の明確化を図る。					事前：実習での事例を看護理論で意味づけられるよう、本授業の内容を復習し、授業に臨むこと 事後：課題レポートの提出		講義 演習	富田
7	事例検討 実習でかかわった事例を看護理論で意味づけることにより、自己の看護観の明確化を図る。					事前：実習での事例を看護理論で意味づけられるよう、本授業の内容を復習し、授業に臨むこと 事後：課題レポートの提出		講義 演習	富田
8	<ul style="list-style-type: none"> 看護学生としてのアイデンティティの確立と看護専門職としての成長 自己の看護観を明確にすることの意味 					事前：本授業で学習した内容を復習し、看護理論の適応と看護の専門性について考え、授業に臨むこと 事後：定期試験に向けての復習		講義	富田
教本： 看護理論 筒井真優美編集 南江堂 ¥2,530					参考文献： 「看護覚え書」 F. ナイチンゲール（日本語訳本） その他 随時提示する				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加態度（欠席、遅刻等含む）、小テスト、課題レポート（30%）、筆記試験（70%） なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
学生へのアドバイス： 本授業を通して、4年間で学習した看護の考え方を看護理論の学習を通して深め、看護専門職として誇りが持てるよう授業に取り組んで下さい。事例検討では、積極的な討議となるよう期待します。また、授業の始め、または、終了時に復習テストを実施します。復習、予習をして授業に臨んで下さい。課題の提出は、提出期限を守ること、提出が遅れた場合は減点対象とします。									

開講年次	4年次 前期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	45	授業形態	実習
授業科目(英文)	老年看護ケア実践Ⅱ (Gerontological Nursing Care : PracticumⅡ)							科目分類	専門分野
担当教員	草地潤子 他								
履修条件	前提科目	老年発達援助論 (もしくは老年看護学概論)、老年期の発達援助演習、老年看護ケア実践Ⅰを修得していること							
	その他	IGRA検査、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎の各抗体検査陰性で予防接種が完了していること							
<p>授業概要：</p> <p>地域で生活している高齢者が健康づくりに取り組むためのさまざまな援助方法の中から、プログラムの企画、実施を通して、高齢者のヘルスプロモーションの必要性が理解できる。そして地域包括ケアシステムにおける「高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続ける」ことを実現する方法について学ぶ。</p>									
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活している高齢者の「生活」や「健康」のとらえ方について知る。 2. 地域で生活している高齢者が抱える健康課題に対するヘルスプロモーションプログラムの企画、実施を通し、高齢者に対するヘルスプロモーションの在り方について考察する。 3. ヘルスプロモーションに関連する施設における実際の体験を通し、地域で生活している高齢者の健康課題とニーズについて理解を深める。 4. 地域で実施されているヘルスプロモーションの実際から支援環境や介入方法について看護の視点で考えることができる。 5. 実習を通して自己の高齢者看護観について考えを形成することができる。 									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	担当
1週間	第1日目	学内オリエンテーション インタビューの練習 厚木市保健福祉				<p>実習事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスプロモーションの概念 ・高齢期の健康課題 <p>詳細は、「老年看護ケア実践Ⅱ要領」参照</p>	実習	草地潤子 他	
	第2日目	地域で生活している高齢者のインタビュー 地域で生活している高齢者の健康課題のアセスメント							
	第3日目	厚木市寿荘における高齢者の趣味活動の参加観察 健康あつぎ推進リーダーの見学							
	第4日目	地域で生活している高齢者へのヘルスプロモーションプログラムの作成							
	第5日目	地域で生活している高齢者へのヘルスプロモーションプログラムの実践 面接							
<p>教本：</p> <p>随時提示する</p>					<p>参考文献：</p> <p>随時提示する</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>実習への参加状況・実習態度、課題レポート・記録物等、別途定める実習評価基準に順ずる。 実習への参加状況には実習オリエンテーションへの出席も含む。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>高齢者のこれまでの生活をふまえ、その方の個性性をも含めた支援を考えましょう。</p>									
2019年度入学者科目名称			老年看護学実習Ⅱ						

開講年次	4年次 前期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	90	授業形態	実習
授業科目(英文)	在宅看護ケア実践 (Home Care Nursing: Practicum)							科目分類	専門分野
担当教員	渡部月子・望月麻衣・高橋真由美・村井恵子								
履修条件	前提科目	在宅看護ケア実践、老年看護ケア実践Ⅱ実習以外の各看護学領域の実習を修得していること。							
	その他	IGRA検査が陰性であること、また麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎の予防接種が完了していること。							
授業概要： 在宅療養者が生活する地域の訪問看護ステーション等において、少人数のグループで臨地実習を行う。訪問看護師とともに療養者の自宅に同行訪問を行い、療養者宅における看護ケアの実践を学ぶ。療養者や家族の健康課題や生活課題を把握し、在宅看護による健康の維持・増進について学ぶとともに地域包括ケアシステムに基づく多職種との連携や継続看護の重要性について深く理解する。また、地域で訪問診療を実施する病院・診療所において臨地実習を行い、在宅療養生活を支える医療と看護の実践について学ぶ。									
授業目標： 1. 訪問看護活動を通して、在宅療養者とその家族への理解を深めるとともに、生活の場に応じた看護技術の提供を学ぶ。 2. 在宅療養者が生活する地域のケアシステムや介護保険制度、保健・医療・福祉領域の社会資源について理解を深め、関係機関・関連職種との連携の実践を学ぶ。 3. 在宅における看護実践と領域別実習で実施した看護実践を統合し、継続看護の視点から看護の機能と役割について学ぶ。 4. 地域で訪問診療を実施している病院・診療所の医師・看護師が実際に行っている活動とその必要性について学ぶ。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		担当	
2週間 (10日間)	1週目 初日：学内オリエンテーション 2～5日目：訪問看護ステーションでの臨地実習 訪問看護師とともに同行訪問を行う 2週目 6日目：記録の整理、事例のまとめ 7～9日目：在宅診療病院・診療所での臨地実習 在宅診療医及び看護師等と同行訪問を行う 地域包括支援センターでの臨地実習 地域包括支援センターの概要を理解し、センターの事業等に参加する 10日目：最終カンファレンス・まとめ					「在宅看護ケア実践」要領参照		渡部 望月 高橋 村井	
教本： 在宅看護概論・在宅看護援助演習で使用したテキスト、資料 参考文献： 随時提示する。									
成績評価の方法、評価基準： 実習への参加状況、実習目標の達成度、記録物、実習態度等、別途定める実習評価基準に準じて評価する。									
学生へのアドバイス： 地域で生活する療養者の自宅に訪問するので、訪問マナーや倫理的配慮にはとくに留意し、積極的な姿勢で実習すること。各自健康管理に十分注意すること。									
2019年入学者科目名称			在宅看護実習						

開 講 年 次	4 年 次 前 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	看護マネジメント論 (Introduction to Nursing Management)							科 目 分 類	専 門 分 野
担 当 教 員	佐藤京子・川畑貴美子					1 科目当たりの合計自己学習時間		15時間	
履 修 条 件	前 提 科 目	3 年までの必修科目を修得していること。							
	そ の 他	なし							
授業概要： 看護マネジメントとは、看護の目的を効率的、効果的、そして創造的に果たすための機能です。看護職が、高齢化や重症化によるケアニーズの増大、生き残りをかけたヘルスケア組織の経営圧力の中で、人々の尊厳をまもり、ケア専門職としての責任を果たしていくためには、看護管理がこれまで以上に重要になります。看護職自身の自律を支え促進し、多様性を踏まえた協働の仕組みをつくり、市民とともにケアを創造していく看護管理を学びます。									
授業目標： 1. これからの看護には、すべての看護職に看護管理能力が求められることを理解する。 2. 看護マネジメントは、看護・ケアの価値を基盤とした管理を理解する。 3. 看護マネジメントには組織への視点とともに、組織を取り巻く社会への視点も必要であることを理解する。 4. 看護マネジメントの重要な要素として、看護師自身の専門職としての成長が不可欠であることを理解する。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	担 当
1	人々の生活と看護のかかわり ・看護職の多様な活動の場とマネジメント ・看護職の活動の変遷					事前：多様な看護職の活動の場とは何かテキストを精読し理解して授業に臨む。 事後：授業内容の復習		講義	川畑
2	看護管理の基本となるもの ・看護管理の定義 ・看護管理の基盤となる知識					事前：看護職と管理について、病院機能とは何かを、テキストを精読し理解できるように準備する。 事後：授業内容の復習		講義	川畑
3	看護管理の組織と方法論 ・看護管理の組織と方法論 ・専門職とは								
4	看護師の仕事とその管理 ・看護管理の目的 ・看護管理で重要なこと					事前：看護管理とは何か、テキストを精読し理解できるように準備する。 事後：授業内容の復習		講義	川畑
5	看護の質向上 ・看護管理と倫理					事前：看護の質、倫理とは何か、テキストを精読し理解ができるように準備する。 事後：授業内容の復習		講義	佐藤
6	医療安全の概念とシステム思考と方法 ・医療・看護の質の評価								
7	看護師の仕事とその管理 ・病院機能とモノ・情報・コスト管理 ・看護管理提供システム					事前：モノの管理、ケアシステムについてテキストを精読し理解ができるように準備。 事後：授業内容の復習		講義	川畑
8	看護管理に求められる能力 ・セルフマネジメントのスキル					事前：看護管理に必要な能力について、テキストを精読し、実践場面での理解ができるように準備する。 事後：授業内容の復習		講義	佐藤
9	コミュニケーションスキル ・看護管理能力の基盤となる理論								
10	看護学活動ととりまく法律・制度 ・看護管理に関連する法律 ・医療・福祉・看護政策の動向					事前：医療・看護に関係する法律、医療制度と経済について理解できるように準備。 事後：授業内容の復習		講義	川畑
11	看護職とキャリア学 ・社会人と専門職					事前：看護職のキャリア、医療・看護の質保障とはどのようなことか理解できるようにテキストを精読し準備する。 事後：授業内容の復習		講義	佐藤
12	看護と経営：医療と経済 ・看護にかかる医療・介護制度								
13	看護政策の動向、看護の専門機関・職能団体 看護マネジメントのまとめ					事前：看護政策とは何か、テキストを精読し理解ができるように準備する。 事後：授業内容の復習		講義	川畑
14	看護管理と病院経営					事前：病院組織と看護職との関連等、理解できるように準備する。 事後：講演内容の復習とまとめ		講演	ゲスト スピーカー
15	看護のトップマネジメントの実際を学び、組織理念・看護提供システム・人的資源活用の機能など								
教本： 1. ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 吉田千文・志田京子・武村雪絵・手島 恵編 (MCメディカ出版)					参考文献： 1. 看護管理学習テキスト 第3版 第1巻 ヘルスケアシステム論 井部 俊子監修 日本看護協会出版会 2021年度版 2. 看護管理学習テキスト 第3版 第2巻・第3巻・第4巻・第5巻 増野 園恵他著 日本看護協会出版会 2021年度版 その他は随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (10%)、定期試験 (90%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日々の看護を提供する看護職の実践を支えているのは看護管理です。それぞれの単元の内容をテキストで予習し、毎回の授業を復習し、自分の考えを深めましょう。									

開 講 年 次	4 年 次 前 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	90	授 業 形 態	実 習
授 業 科 目 (英 文)	看護マネジメント実践 (統合実習) (Nursing Management Practicum)							科 目 分 類	専 門 分 野
担 当 教 員	◎ 冨田幸江・川畑貴美子・丸山昭子・大脇淳子・藤井智恵子・渡部月子・草田潤子・和田佳子・下村晃子・増山利華・佐藤京子・牛島典子・掛谷和美・奈良かな子・吉田裕子・小野坂益成・望月麻衣・川原理香・阿部ケエ子・木原博子・川下貴士・山本貴子・勅使河原俊子・高橋真由美・西 法子・深田雅美・箭内彩也佳・村井恵子								
履 修 条 件	前 提 科 目	看護科学領域における看護の基礎、リプロダクティブ・ヘルスの看護、小児期の看護、成人期の看護、老年期の看護、精神の看護、在宅の看護の実習を、すべて修得していること。							
	そ の 他	IGRA検査で陰性の者、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で抗体がある者または陰性で予防接種が完了している者。							
<p>授業概要：</p> <p>看護マネジメント実践は、各専門領域での実習を踏まえ、既修の看護に関する知識・技術・態度を統合し、病院・施設または地域の場で看護マネジメントが実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>そのため、本看護実践の経験を通して、集団および個人へのヘルスニーズに焦点を当て、看護マネジメントなどの実際について学修する。</p>									
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護チームにおける看護マネジメントの視点を学び、組織の方針に基づいた役割を理解し、看護実践に活かすことのできる能力を養う。 2. 複数の対象がもつニーズを理解し、科学的根拠に基づいた看護を実践するための問題解決能力を養う。 3. 看護専門職者としての保健医療福祉の関連職種間の連携・調整に必要な協働能力を養う。 4. 看護専門職者としての倫理観と責任感を養う。 5. 実践の中で自己の課題に気づき、解決に向けて主体的な学習ができる。 <p>なお、授業目標の学習の視点は、別冊「看護マネジメント実践 実習要領」を参照のこと。</p>									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			担 当
1 週 目 5 日 間	<ul style="list-style-type: none"> ・実習 1 日目は学内ガイダンス、実習に関する事前学習等を行う。 ・実習 2・3・4・5 日目は臨地での実習を行う。 実習 2 日目には実習施設でのオリエンテーションを受ける。 ・日程及び実習の展開は、学生が実習する看護学領域や実習施設毎の実習計画により実施する。 					<p>詳細は、看護マネジメント実践 (統合実習) の実習要項および、「各領域看護マネジメント実践 実習要領」を参照のこと</p>			上部に記載
2 週 目 5 日 間	<ul style="list-style-type: none"> ・実習 6・7・8・9 日目は臨地で実習を行う。 ・9 日目は臨地で、病棟実習指導者を交えたまとめのカンファレンスを行う。 ・10 日目の最終日は学内にて、実習に関するまとめや報告会、実習評価等を行う。 								
<p>実習の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学領域ごとに、看護マネジメント実践 (統合実習) の目的・目標を達成するための実習を開講する。 2. 個々の学生が、実習への興味、関心、将来の計画に沿って、一看護学領域を選んで履修する。 3. 看護マネジメント実践 (統合実習) の全体オリエンテーションの他に、実習領域別で事前オリエンテーションを実施する。 4. 各看護学領域別に、担当教員、実習指導者の指導の下に実習を行う。 5. 実習領域における看護実践の場の特性を生かし、対象に必要な看護をマネジメントする能力を習得するため、いずれかの看護実践を体験する。 <ul style="list-style-type: none"> ・看護師と共に看護チームの一員として行動し、複数患者への看護を体験する。 ・病院・病棟の看護体制の特性を生かした看護のあり方を学習する。 ・実習施設の理念に基づく看護管理、特に、看護管理者、リーダー看護師の役割と機能を、シャドーイングを通して学習する。 ・退院後の在宅・外来看護に向けた継続看護の実際を見学する。 ・チーム医療・他職種との協働による、患者の健康回復を促進するための看護のあり方を学習する。 ・訪問看護ステーションの看護について学習する。 ・療養環境の整備・医療安全の視点での看護について、実習を通して学習する。 6. 学生は助言を受けながら看護チームの一員として看護実践をした後、自己の看護マネジメント実践 (統合実習) のあり方について振り返り (評価)、その学びを深める。 7. 看護学の実習領域は以下の 7 領域とする。 <p>看護の基礎、リプロダクティブヘルスの看護、小児看護学、成人期の看護、老年期の看護、精神の看護、在宅の看護</p> 8. 各領域の学生人数は 4～14 名程度に配置する。(別紙実習配置表参照) 9. 実習終了後に「将来の看護職者として私が目指すこと」というレポートを作成し提出する。 <p>実習の日程：</p> <p>実習を行う時期は 7 月中旬から 8 月上旬であるが、各看護学領域によって異なる。</p>									
<p>教本：</p> <p>4 年次までの学習で使用したテキストおよび資料</p>					<p>参考文献：</p> <p>実習施設での対象把握に必要な文献は、随時提示する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>実習の出席状況、態度、課題提出状況など、実習課題レポート・記録物等、別途定める実習評価基準に準じて評価する。実習での態度は学内実習オリエンテーションへの出席も含む。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>看護マネジメント実践 (統合実習) の実施までに修得した、すべての知識・技術・態度を統合し、卒業後、看護専門職として、看護に従事するための基盤を作る重要な実習です。各自看護への情熱をもって真摯に取り組むことを期待します。</p>									

開 講 年 次	4 年 次 前 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	15	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国 際 医 療 と 看 護 (Global Health and Nursing Practice)							科 目 分 類	専 門 分 野
担 当 教 員	三 浦 左 千 夫 ・ 増 山 利 華					1 科 目 当 た り の 合 計 自 己 学 習 時 間		30 時 間	
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>国内外を対象とした日常生活レベルでの基本的な健康管理システムとそれをサポートする国際協力について学ぶ。特に、プライマリヘルスケアシステムとその国の教育システム、国民の意識、経済力、気候風土と文化の関連性について考察し、地域差についてどのようなバランスをとるべきかを考える。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 寄生虫感染症を通じ輸入感染症の危険性、感染予防の知識を向上する。 2. 寄生虫感染症の流行地の公衆衛生学的背景と我が国の差異について理解を深める。 3. 国際看護の基盤となるに多文化理解の必要性を理解できる。</p>									
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	担 当	
1 (4/9)	輸入感染症とは？ 寄生虫感染症蠕虫総論				事前：輸入感染症とは？ 事後：講義の復習		視聴覚優先の講義	三浦左千夫	
2 (4/9)	寄生虫感染症（線虫感染症～ノーベル医学賞まで）				事前： 事後：講義の復習		視聴覚優先の講義	三浦左千夫	
3 (4/16)	寄生虫感染症（吸虫感染）国際協力ー住血吸虫対策				事前： 事後：講義の復習		視聴覚優先の講義	三浦左千夫	
4 (4/16)	寄生虫感染症（条虫感染）				事前： 事後：講義の復習		視聴覚優先の講義	三浦左千夫	
5 (4/23)	寄生虫感染症（原虫総論）病原体媒介節足動物				事前： 事後：講義の復習		視聴覚優先の講義	三浦左千夫	
6 (4/23)	原虫感染症 I アメーバ感染症～マラリア感染症				事前： 事後：講義の復習		視聴覚優先の講義	三浦左千夫	
7 (5/7)	原虫感染症 II 先天性感染（国際協力母子保健）				事前：母子感染とは？ 事後：講義の復習		視聴覚優先の講義	三浦左千夫	
8 (5/7)	我が国におけるシャーガス病の現況（しのびよるシャーガス病）				事前： 事後：忍び寄るシャーガス病と言われる理由は？		視聴覚優先の講義	三浦左千夫	
9 (4/30)	1. 国際看護 1) 海外で展開される国際看護 ・国際協力の現状 2) 国内における国際看護 2. 看護と多文化理解 1) 多文化理解が看護に及ぼす影響				事前： 事後：身の回りにおける多文化について考える		講義	増山 利華	
教 本 :					参 考 文 献 :				
1. 医動物学 有蘭直樹・吉田幸雄 著 南山堂					1. 顧みられない熱帯病 北 潔 2. 実践グローバルヘルス 日本国際保健医療学会編 杏林書院 3. その他は随時提示する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等、定 期 試 験 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
寄 生 虫 疾 患 を 通 じ て 世 界 巡 り を 楽 し み な が ら 輸 入 感 染 症 を 理 解 す る と 同 時 に 国 際 医 療 協 力 へ の 道 を 探 る。									
2019年度入学者科目名称				国 際 医 療 と 看 護 協 力					

開講年次	4年次 通年	選択・必修	必修	単位数	4	時間数	120	授業形態	演習
授業科目(英文)	看護研究 (Nursing Research)							科目分類	専門分野
担当教員	丸山昭子・大脇淳子・川畑貴美子・藤井智恵子・冨田幸江・渡部月子・草地潤子・和田佳子・下村晃子・増山利華・佐藤京子・牛島典子・掛谷和美・奈良かな子・吉田裕子・小野坂益成・望月麻衣・阿部ケエ子・川原理香・木原博子・山本貴子・川下貴士・高橋真由美・勅使河原俊子・西 法子・深田雅美・村井恵子・箭内彩也佳								
履修条件	前提科目	3年次までの必修科目の単位修得済であること				1科目当たりの合計自己学習時間		60時間	
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>学生のこれまでの学習の集大成として、個々の看護現象に対する関心や問題提起について、テーマを設定し研究過程を踏まえることにより、研究能力を涵養する授業科目である。</p> <p>領域別臨地実習や看護マネジメント実習（統合実習）において疑問に感じたり深めたい事柄を科学的に考察し、まとめることにより、看護の意図的な取り組みの論理性、実践の正確な記述、結果の適切な分析や評価のあり方など、看護研究の基礎的方法の習得を図りながら、研究計画に基づき実践し、論文としてまとめ発表する。</p>									
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護に対する研究的関心を書き表すことができる。 2. 関心のある課題について文献検討をし、テーマを焦点化できる。 3. 適切な研究方法を選択し、看護研究計画を立てることができる。 4. 看護研究計画に基づき、研究データの収集ができる。 5. 収集されたデータを客観的に整理・分析できる。 6. 研究結果に基づいた考察ができる。 7. 行われた研究を執筆要領に従って論文としてまとめることができる。 8. 研究着手から論文発表までの過程を倫理的に遂行できる。 									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画				事前・事後学習（学習課題）			担当	
前期	<p>ガイダンス 担当教員の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集を行い、研究テーマを設定することができる ・文献検索を行い、研究目的を明確にすることができる ・研究目的にそった研究方法を選択することができる ・研究計画書を作成できる（人を対象とした研究では倫理委員会審査を受ける） ・研究計画に基づき調査（データ収集）を実行できる ・収集された情報（データ）を整理し、分析できる 				事前・事後の課題は個人の進捗状況に合わせ、指導教員が個別に指示する。 事前・事後学習として各15分の自己学習をする。			上記科目担当者から個別に選任される	
後期	<ul style="list-style-type: none"> ・分析したデータをまとめ、結果として表すことができる ・研究結果を読みこみ考察することができる ・研究プロセスと結果・考察を研究論文としてまとめることができる ・まとめた研究論文を他者にわかるように発表できる 				事前・事後の課題は個人の進捗状況に合わせ、指導教員が個別に指示する。 事前・事後学習として各15分の自己学習をする。			上記科目担当者から個別に選任される	
<p>教本：</p> <p>教本は定めない。必要に応じて担当教員が資料を紹介する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>3年次の看護研究方法論での資料 各学生の研究テーマに合った文献を指導教員が紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>看護学科共通の看護研究評価表をもとに授業目標の達成度を指導教員が評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>看護における自分の関心事や疑問を、研究という形で探求してみましょう。仕上げるまでに、思ったよりも時間がかかります。タイム管理をしっかりと行いましょう。</p>									

開 講 年 次	4 年 次 後 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	15	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	先 端 医 療 (Introduction to Advanced Medical Technologies)							科 目 分 類	専 門 基 礎 分 野
担 当 教 員	垣 内 史 堂 ・ 吉 井 信 哉					1 科 目 当 た り の 合 計 自 己 学 習 時 間		30 時 間	
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>最先端かつ高度な医療技術が臨床の場で数多く利用されている。これらの医療を理解することは、看護実践をする上で重要な課題となっている。この講義では、特に診断・治療に利用される先端医療技術、診断機器の実際を学習し、それぞれの原理、機能、成果、問題点等について理解を深める。具体的には、先端画像診断、遺伝子診断と治療、遠隔医療、カテーテル治療、内視鏡下治療、臓器移植、人工臓器、人工材料、再生医療、医療ロボット、アンチエイジング等について学習する。</p>									
授 業 目 標 :									
<ul style="list-style-type: none"> ・最先端の医療について専門医師からのレクチャーを受ける 									
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	担 当	
1	先 進 医 療 (1) 頭 痛 に つ い て 概 論				事前： 事後：授業内容の復習		講 義	吉 井	
2	先 進 医 療 (2) 頭 痛 に つ い て 各 論				事前： 事後：授業内容の復習		講 義	吉 井	
3	先 進 医 療 (3) 脳 血 管 障 害 の 最 先 端 治 療				事前： 事後：授業内容の復習		講 義	ゲ ス ト ス ピ ー カ ー、 (吉 井)	
4	先 進 医 療 (4) 3 次 救 急 医 療 に お け る 治 療 と 死 に つ い て				事前： 事後：授業内容の復習		講 義	ゲ ス ト ス ピ ー カ ー、 (吉 井)	
5	先 進 医 療 (5) 末 梢 血 管 の 外 科 的 治 療				事前： 事後：授業内容の復習		講 義	ゲ ス ト ス ピ ー カ ー、 (吉 井)	
6	先 進 医 療 (6) 患 者 ・ 家 族 と 共 に よ い 終 末 を				事前： 事後：授業内容の復習		講 義	ゲ ス ト ス ピ ー カ ー、 (吉 井)	
7	先 進 医 療 (7) 頭 痛 に つ い て 各 論				事前： 事後：授業内容の復習		講 義	ゲ ス ト ス ピ ー カ ー、 吉 井	
8	先 進 医 療 (8) 免 疫 治 療 に つ い て				事前： 事後：授業内容の復習		講 義	垣 内 (吉 井)	
教 本 : 参 考 文 献 :									
配布資料、プリント等									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
<ul style="list-style-type: none"> ・授業参加状況 (リアクションペーパーの返答等) 授業の際に提出する。レポート等で総合評価する場合は、レポートは講義内容と自ら調べた内容を総合して提出すること (自ら調べた内容については参考文献ないし参考図書は必ず記載すること)。試験を行う場合は授業内容より出題する。 ・授業中の私語、スマートフォン (私用での使用)、授業中の無断退出は禁止とする。 									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
<p>周知のごとく医療は日進月歩であり、最先端の医療の治療にて今まで克服できなかった病気が克服できるようになったり、侵襲が強かった治療も侵襲が軽減され多くの苦痛を受けなくなってなったりとしている。また、先進の治療ばかりに注目されるが、人としてどのような終末を迎え、どのような終末が人にとってよいか、治療ばかりに目が向いてしまうが、よりよい人生の最後を迎えるのが良いのか、今回の授業を受け、違う視点から医療を学んでほしい。また、新しいことや人の終末をふまえ 興味を持ち、常に学ぶ姿勢も養ってほしい。</p>									
2019年入学者科目名称				先 端 医 療 概 論					

開 講 年 次	4 年次 後期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	卒業演習 (Nursing Professional Development : Seminar)							科 目 分 類	専 門 分 野
担 当 教 員	和田佳子・大脇淳子・川畑貴美子・丸山昭子・藤井智恵子・富田幸江・渡部月子・草地潤子・下村晃子・増山利華・佐藤京子・掛谷和美・牛島典子・奈良かな子・小野坂益成・望月麻衣・川原理香・吉田裕子・阿部ケエ子・木原博子・山本貴子・川下貴士・勅使河原俊子・高橋真由美・西 法子・深田雅美・箭内彩也佳・村井恵子								
履 修 条 件	前提科目	4 年次前期までの専門分野の領域別科目の単位を全て修得していること (実習を含む)。							
	そ の 他	なし				1 科目当たりの合計自己学習時間		15時間	
授業概要： 本学の定めた卒業時の到達目標に照らし、学生自身が客観的振り返り、自らの到達度を評価し、その評価結果をもとにすでに学んだ専門科目（看護の基礎、発達と看護、女性と看護、地域社会と看護、看護の統合など）の不足している知識、技術、情意を主体的にオムニバス形式で学習し、正確に、内容を補充するとともに、自らの能動的学習能力（読解力、理解力、判断力、文章力など）を獲得できるように学習する。									
授業目標： 1. 専門分野における講義・演習・実習を踏まえて、卒業するにふさわしい知識・技術を持っているかを総合的に確認できる。 2. 卒業時の到達目標を見据えて、試験方式で知識・技術のエビデンスを自己評価できる。 3. 学生自身が、自分の課題を探索でき、それを修復する努力ができる。 4. これを機会に、学習する能動的な能力などを修正できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	担 当	
1	看護の基礎 1 (看護学原論)				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		試験・講義	富田、藤井 他	
2	看護の基礎 2 (日常生活援助演習 I・II、看護方法論演習を一部含む)				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		試験・講義	藤井、富田 他	
3	看護の基礎 3 (医療支援技術、フィジカルアセスメント演習)				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		試験・講義	藤井、富田 他	
4	小児期の看護 1 (小児発達援助論、小児発達援助演習)				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		試験・講義	大脇	
5	小児期の看護 2 (小児発達援助演習)				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		試験・講義	大脇、吉田 他	
6	小児期の看護 3 (小児発達援助演習)				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		試験・講義	大脇、吉田 他	
7	成人期の看護 1 (成人発達援助論)				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		試験・講義	佐藤、川畑	
8	成人期の看護 2 (成人発達援助演習 I 急性期・回復期)				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		試験・講義	川原、川畑 他	
9	成人期の看護 3 (成人発達援助演習 II 慢性期・終末期)				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		試験・講義	下村、川畑 他	
10	老年期の看護 1 (老年発達援助論)				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		試験・講義	草地	
11	老年期の看護 2 (老年発達援助演習)				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		試験・講義	草地 他	
12	老年期の看護 3 (老年発達援助演習)				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		試験・講義	草地 他	
13	リプロダクティブ・ヘルスの看護 1 (リプロダクティブ・ヘルス援助論)				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		試験・講義	和田	
14	リプロダクティブ・ヘルスの看護 2 (リプロダクティブ・ヘルス援助演習)				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		試験・講義	増山、和田 他	
15	リプロダクティブ・ヘルスの看護 3 (リプロダクティブ・ヘルス援助演習)				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		試験・講義	増山、和田 他	
16	精神の看護 1 (精神看護援助論)				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		試験・講義	丸山	
17	精神の看護 2 (精神看護援助演習)				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		試験・講義	丸山、小野坂 川下	
18	精神の看護 3 (精神看護援助演習)				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		試験・講義	丸山、小野坂 川下	
19	在宅の看護 1 (在宅看護援助論、関連する法規)				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		試験・講義	渡部	
20	在宅の看護 2 (在宅看護援助演習)				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		試験・講義	望月、渡部 他	

21	在宅の看護 3 (在宅看護援助演習)	事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習	試験・講義	渡部、望月 他
22	最終試験		試験	和田 他
<p>教本： 1. 各授業で使用したもの全ての教本 レジюме 資料等</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準： * 最終試験で総合的に評価する。 最終試験は看護科学領域7つを総合し、100点満点とする。(基礎、成人期は各15%。小児期、老年期、リプロダクティブ・ヘルス、精神、在宅は各14%) * この科目の単位取得には、7領域ごとの時間の2/3以上の出席が絶対条件です。</p>				
<p>学生へのアドバイス： 国家試験の過去問題及び各領域の定期試験、小テストの試験問題を全て復習し、最後のまとめとしての自己の知識力を振り返り、国家試験受験への準備とすることが出来ます。</p>				

開講年次	4年次 後期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	医療系アドバンスセミナー (Advanced Medical Seminar)							科目分類	専門基礎分野
担当教員	垣内史堂・吉井信哉					1科目当たりの合計自己学習時間		15時間	
履修条件	前提科目	身体の構造・機能A, B, 病態学総論、健康障害A, Bを修得していること							
	その他	なし							
授業概要： 本学の定めた卒業時の到達目標に照らし、学生自身が客観的に振り返り、自らの到達度を評価し、その評価基準結果をもとにすでに学んだ小児、成人。老人に慢性期・急性期に発達する諸疾病の各種病態に焦点をあて学習した知識を確認し、その後新しく採用された検査、治療などについて追加講義し4年間の知識を総合的に問う学習とする。専門基礎科目（解剖整理、病理学、微生物学、薬理学、栄養学、公衆衛生など）の不足している知識・技術・情意を主体的に学習し、正確に、内容を補充するとともに、自らの能動的学習能力（読解力、理解力、判断力、文章力など）を獲得できるように学習する。									
授業目標： 1. 各臓器についてそれぞれの構造と機能、およびその異常と疾患との関連を確認し、説明できる。 2. それらの疾患が他の臓器の形態・機能の異常とどう関連するかを確認し、説明できる。 3. 個別の臓器によらない疾患について、病態を確認し、説明できる。 4. それぞれの疾患について、症例もみながら、治療の流れを知り、治療について概略を説明できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担当
1	呼吸器系臓器の構造・機能と主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	垣内
2	生体の化学と酸塩基平衡、ホメオスタシスについてについて					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
3	循環器系臓器の構造・機能と主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	垣内
4	消化器系臓器の構造・機能と主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
5	血液・造血器の構造・機能と主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	垣内
6	脳・神経系の構造・機能と主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
7	膠原病に関わる主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	垣内
8	内分泌臓器の構造・機能と主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
9	アレルギーに関わる主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	垣内
10	代謝系臓器の構造・機能と主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
11	感染症および皮膚に関わる主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	垣内
12	腎・泌尿器系臓器の構造・機能と主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
13	感覚器（眼科領域）の構造と機能・主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	垣内
14	感覚器（耳鼻科領域）の構造と機能・主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
15	模擬試験（到達度判定）							演習	垣内・吉井
注① 当該分野のこれまでの教科書を復習してくること。									
注② 当日よく確認できなかったことを、これまでの教科書・プリントを参照して解決しておく。									
教本： 特になし。随時プリントを配布する。					参考文献： 1. 「身体の構造と機能A, B」および「健康障害A～C」で使用した教科書 2. https://nurseful.jp/nursefulshikkanbetsu/ 「ナースフル疾患別シリーズ」など、WEB上に無料で閲覧できるサイトも多い。 その他は随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業への出席は単位認定の前提条件とし、授業参加状況等（15%）、小テスト・レポート等（15%）、定期試験（75%）等で総合評価する。 課題等が出された場合には、次の講義でそれを基に討論を行う予定である。必ず準備してくること。									
学生へのアドバイス：									

開 講 年 次	4 年 次 後 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	15	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	産 業 保 健 (Introduction to Occupational Health and Safety)							科 目 分 類	専 門 分 野
担 当 教 員	藤 井 智 恵 子 ・ 望 月 麻 衣					1 科 目 当 た り の 合 計 自 己 学 習 時 間		30 時 間	
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
産 業 の 場 で 働 く 人 々 の 健 康 に 関 す る 様 々 な 問 題 を 理 解 し、作 業 や 職 場 環 境 が 健 康 に 及 ぼ す 影 響 に つ い て 学 ぶ。既 存 の 資 料 を 使 用 し た 地 区 診 断 の 実 際、関 係 機 関 と の 連 絡 調 整、行 政 施 策 を 理 解 し、産 業 保 健 に お け る 看 護 職 の 役 割 に つ い て 学 ぶ。									
授 業 目 標 :									
1. 労 働 者 の 健 康 を 守 る 法 規、衛 生 行 政 管 理 体 制、事 業 場 の 安 全 衛 生 組 織 を 説 明 で き る。 2. 産 業 構 造 の 変 化 に 伴 い、労 働 者 の 健 康 障 害 の 推 移、業 務 上 疾 病 の 統 計 的 デ ー タ から 労 働 者 の 健 康 状 態 を 述 べ る こ と が で き る。 3. 事 業 場 に お け る 健 康 診 断 と 事 後 指 導、健 康 相 談、健 康 づ く り、メ ン タ ル ヘ ル ス 不 調 者 へ の 対 応 に お け る 産 業 看 護 職 の 役 割 を 述 べ る こ と が で き る。									
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	担 当	
1	産 業 保 健 の 概 要 - 産 業 保 健 の 歴 史、産 業 に お け る 看 護 職 の 役 割 - 産 業 看 護 の 新 定 義				事 前 : シ ラ バ ス の 内 容 の 確 認 事 後 : 産 業 保 健 の 目 的 と 定 義 に つ い て ま と め る		講 義	藤 井 智 恵 子	
2	産 業 保 健 を 取 り 巻 く 現 状 - 業 務 上 疾 病 の 統 計 デ ー タ から 労 働 者 の 健 康 状 態 を 分 析 す る。労 働 者 を 取 り 巻 く 法 律、第 14 次 労 働 災 害 防 止 計 画				事 前 : 「業 務 上 疾 病」に つ い て 熟 読 事 後 : 労 働 者 を 取 り 巻 く 法 律 に つ い て ま と め る		講 義	藤 井 智 恵 子	
3	個 人 へ の ア プ ロ ー チ - 人 と 仕 事 と の 調 和 へ の 支 援 -				事 前 : 「人 と 仕 事 と の 調 和 へ の 支 援」を 熟 読 事 後 : 人 と 仕 事 と の 調 和 へ の 支 援 に つ い て ま と め る		講 義	藤 井 智 恵 子	
4	職 業 性 疾 病 と そ の 予 防				事 前 : 「職 業 性 疾 病」を 熟 読 事 後 : 職 業 性 疾 病 に つ い て ま と め る		講 義	藤 井 智 恵 子	
5	作 業 関 連 疾 患 と そ の 予 防				事 前 : 「作 業 関 連 疾 患」に つ い て 熟 読 事 後 : 作 業 関 連 疾 患 と そ の 予 防 に つ い て ま と め る		講 義	藤 井 智 恵 子	
6	働 く 人 の メ ン タ ル ヘ ル ス と そ の 予 防 策				事 前 : 「働 く 人 の メ ン タ ル ヘ ル ス」に つ い て 熟 読 事 後 : 働 く 人 の メ ン タ ル ヘ ル ス と そ の 予 防 策 に つ い て ま と め る		講 義	望 月 麻 衣	
7	表 層 的 ダイ バ ー シ テ ィ (性 別 や 年 齢、障 が い な ど) に 対 す る ア プ ロ ー チ				事 前 : 「表 層 的 ダイ バ ー シ テ ィ」に つ い て 熟 読 事 後 : 表 層 的 ダイ バ ー シ テ ィ に 対 す る ア プ ロ ー チ に つ い て ま と め る		演 習	藤 井 智 恵 子	
8	産 業 保 健 の 専 門 性 - 産 業 保 健 に 求 め ら れ る コ ン ピ テ ン シ -、産 業 保 健 の 役 割 を 果 た す た め の 心 構 え - に つ い て グ ル ー プ ワ ー ク で デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を し て 学 び を 深 め る				事 前 : 「産 業 保 健 の 専 門 性」に つ い て ま と め る 事 後 : 「産 業 看 護 職 の 専 門 性 の 役 割」に つ い て ま と め る		講 義 グ ル ー プ ワ ー ク	藤 井 智 恵 子 望 月 麻 衣	
教 本 :					参 考 文 献 :				
1. 国 民 衛 生 の 動 向 2024/2025 厚 生 労 働 統 計 局 2. 労 働 衛 生 の し お り 令 和 6 年 度 版 中 央 労 働 災 害 防 止 協 会 そ の 他 は 随 時 提 示 す る。					随 時 提 示 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (10%)、レ ポ ー ト 等 (30%)、最 終 レ ポ ー ト (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。 な お、定 期 試 験 を 受 験 で き な か っ た 場 合 は、定 期 試 験 以 外 の 項 目 (レ ポ ー ト 等) に つ い て も す べ て 評 価 し な い。 ま と め ノ ー ト を 使 用 し て、予 習、復 習 を 行 い 授 業 に 臨 む こ と。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
産 業 保 健 は 労 働 者 を 対 象 と し ま す。労 働 者 人 口 は、6,400 万 人、年 齢 層 は 18 歳 ~ 60 歳 代 が 中 心 で す。働 く 人 の 健 康 問 題 に 関 心 を 持 ち、新 聞 に も 目 を 通 し ま しょう。									

開 講 年 次	4 年 次 前 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	15	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	先 端 医 療 と 看 護 (Advanced medicine and Nursing)							科 目 分 類	専 門 分 野
担 当 教 員	大 脇 淳 子 ・ 川 畑 貴 美 子 ・ 丸 山 昭 子 ・ 和 田 佳 子					1 科 目 当 た り の 合 計 自 己 学 習 時 間		30 時 間	
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他	※ 5 名 以 下 の 履 修 の 場 合 は 開 講 し ない							
授 業 概 要 :									
<p>最先端で高度な医療技術が臨床の場では数多く利用されている。これらの医療を受けている患者を理解するためには、まず、診断治療に利用されている医療を理解することが必要である。具体的には、遺伝子診断、臓器移植、人工臓器や再生医療、低侵襲治療を受けている患者の倫理的配慮も踏まえた援助について考える。</p>									
授 業 目 標 :									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の歴史の変遷及び先端医療の定義・法的基盤を説明できる。 2. ライフステージ（周産期・小児期・成人期）に特徴的な先端医療と看護を説明できる。 3. 精神医療の先端医療と看護を説明できる 4. 先端医療における看護の役割を説明できる。 5. 生命倫理を基盤に先端医療を受ける対象に対する倫理的態度と取り巻く環境に関心をもつ。 									
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画			事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	担 当	
1	ガイダンス 現代医療の歴史と変遷、先端医療の定義・法的基盤			事前：医療の歴史、先端医療について調べる 事後：講義内容の復習			講義	大脇	
2	妊娠・周産期の先端医療と看護：生殖医療			事前：母性看護学各論第2章出生前からのリプロダクティブヘルスケアを熟読する 事後：講義内容の復習			講義	和田	
3	小児期の先端医療と看護：新生児医療			事前：新生児医療について調べる 事後：講義内容の復習			講義	大脇	
4	成人期の先端医療と看護(1)：神経難病医療			事前：一般的な神経難病の検査・治療・福祉について調べる 事後：講義内容の復習			講義	下村	
5	成人期の先端医療と看護(2)：臓器移植と再生医療			事前：臓器移植について基礎知識を準備する 事後：講義内容の復習			講義	川畑	
6	精神医療における先端医療と看護：精神医療の変遷と地域移行			事前：精神医療の地域包括ケアシステムについて調べる 事後：講義内容の復習			講義	丸山	
7	先端医療における生命倫理と倫理的課題 (GW)			事前：生命倫理と医の倫理について調べる 事後：講義内容の復習			講義	大脇	
8	先端医療と看護倫理、看護の役割 (レポート課題について)			事前：看護倫理について調べる 事後：講義内容の復習			講義	大脇	
教 本 :				参 考 文 献 :					
なし				<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命倫理と医療倫理 (第4版)、伏木信次/櫻則章、金芳堂 (2020) 2. シリーズ生命倫理学、先端医療、シリーズ生命倫理学編集委員会【編】/霜田 求/虫明 茂【責任編集】、丸善出版 (2012) その他は随時提示する。					
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
課題 (GW) への取り組み (30%)、レポート課題 (70%) 等で総合評価する。 レポート課題については、別途提示する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
<p>先端医療の発展は、これまで治療困難な病を抱える人々を病から解放することで生活の質を向上させている。一方で、法的整備や倫理的問題など、常に人々の健康観や生命の尊厳を基盤とした倫理観を基盤とした多様な議論を必要とする。</p> <p>この授業をきっかけに、先端医療への興味・関心を持ち、先端医療に携わる医療者としての看護の役割と、自身の倫理観の構築に役立てることを期待する。</p>									

VIII 進 度 表

カリキュラムに準じた進度表です
年度により、開講期が異なる場合があります

2022年度以降入学者
2020年度・2021年度入学者

1. 進捗表(2022年度以降入学者)

分野	科目名	学年	単 位		授業形態	配当年次・時間数																							
			必修	選択		1年		2年		3年		4年																	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																
人間・社会科 学領域	心の理解と共有	1前	2		講義	30																							
	ストレスマネジメント	1前	2		講義	30																							
	看護のための倫理学	1前	1		講義	15																							
	コミュニケーション理論と実際	2後	2		講義				30																				
	感情と行動	2後	2		講義				30																				
	看護のための経済学	2前	2		講義			30																					
	看護のための哲学	1後	2		講義		30																						
	看護のための教育学	2後	1		講義				15																				
	吉田松陰論	1後	1		講義		15																						
	人間と環境	2前	2		講義			30																					
	体育実技	2後	1		演習				30																				
	情報技術	情報基礎	1前	2		講義	30																						
		保健衛生統計	3前	1		講義					15																		
		マルチメディア表現	2後	2		講義				30																			
	自然言語	英語コミュニケーション	1前	2		講義	30																						
		看護英語A(病院内会話)	1後	2		講義		30																					
		看護英語B(看護原書講読)	2前	2		講義			30																				
		中国語コミュニケーション	3前	2		講義					30																		
		*日本語表現法(現代文長文読解)	1前	2		講義	30																						
	社会の理解	保健医療福祉行政と政策	2前	1		講義			15																				
		医療と経済	2前	1		講義			15																				
		看護関係法令	2後	1		講義				15																			
		看護のための社会学	1後	2		講義		30																					
		世界の医療保健制度	2後	1		講義			15																				
	健康科学 と 病態 学 領域	身体の構造と機能A:総論、構造 (消化器、呼吸器、血液・造血器、循環器、腎・泌尿器、骨格・筋肉、皮膚、生体防御系、男性生殖器、女性生殖器、受精と発生、成長と加齢)	1前	2		演習	60																						
		身体の構造と機能B:機能 (脳・神経系、消化器、呼吸器、内分泌、循環器、腎・泌尿器、男性生殖器、女性生殖器、眼・耳・鼻、皮膚)	1前	2		演習	60																						
	病態学総論 (細胞障害・変性と壊死、修復と再生、遺伝疾患、栄養・代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍、感染、病と人間の反応など)	1後	1		演習		30																						
	健康障害A (脳・神経系、消化器系、内分泌・栄養・代謝系、泌尿器系、水電解質・酸塩基平衡系、物理・化学的因子による健康障害、感覚器系)	1後	2		演習		60																						
	健康障害B (呼吸器系、循環系、血液・造血系、生殖器系、免疫系、感染防御系、女性生殖器の健康障害)	1後	2		演習		60																						
	健康障害C (運動器系の障害、小児期の障害、精神の健康障害)	2前	1		演習			30																					
	薬物や放射線による人間の反応	2前	1		講義			15																					
	看護のための栄養学(治療食を含む)	1後	1		講義		15																						
	公衆衛生	2後	2		講義				30																				
	看護のための生化学B	1前	2		講義	30																							
	看護のための生化学A	1前	2		講義	30																							
予防救急医療と先進医療	医療安全管理・感染管理	3前	1		講義					15																			
	災害・救急時医療と看護(BLSを含む)	4前	2		講義																				30				
	医療系アドバンスセミナー	4後	2		講義																						30		
	先端医療・新興再興感染症	4後	1		講義																						15		

分野	科 目 名	学年	単 位		授 業 形 態	配当年次・時間数								
			必修	選択		1年		2年		3年		4年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
看護の基礎	ライフステージと発達看護論	1前	1		講義	15								
	看護学原論	1前	2		講義	30								
	フィジカルアセスメント演習	1後	1		演習		30							
	生活援助技術演習Ⅰ	1前	2		演習	60								
	生活援助技術演習Ⅱ	1後	2		演習		60							
	医療支援技術	2前	2		演習			60						
	看護方法論（看護過程）演習	1後	1		演習	30								
	基礎看護ケア実践Ⅰ（看護活動の実際）	1後	1		実習	45								
	基礎看護ケア実践Ⅱ（生活の援助）	2前	2		実習			90						
	看護と倫理	2前	1		講義			15						
	看護理論の理解	4前		1	講義								15	
	看護科	リプロダクティブ・ヘルズ援助論	2前	2		講義			30					
リプロダクティブ・ヘルズ援助演習		3前	2		演習					60				
生殖・周産期の看護ケア実践		3後	2		実習						90			
小児期の看護	小児発達援助論	2後	2		講義			30						
	小児期の発達援助演習	3前	2		演習					60				
	小児期の看護ケア実践	3後	2		実習						90			
成人期の看護	成人発達援助論	1後	2		講義	30								
	成人期の発達援助演習Ⅰ（急性期・回復期）	2後	2		演習			60						
	成人期の発達援助演習Ⅱ（慢性期・終末期）	3前	2		演習				90					
	急性期・回復期の看護ケア実践	3後	3		実習						135			
	慢性期・終末期の看護ケア実践	3後	3		実習						135			
老年期の看護	老年発達援助論	1後	2		講義	30								
	老年期の発達援助演習	2前	2		演習		60							
	老年期の看護ケア実践Ⅰ（高齢者の地域包括ケア）	3後	3		実習						135			
	老年期の看護ケア実践Ⅱ（地域老年の健康指導・支援の実際）	4前	1		実習							45		
精神の看護	精神看護援助論	2後	2		講義			30						
	精神看護援助演習	3前	2		演習				60					
	精神看護ケア実践	3後	2		実習					90				
	災害時精神的援助論	3前		1	講義					15				
	アディクション看護論	2後		1	講義			15						
	地域・在宅の看護	2前	1		講義		15							
地域・在宅の看護	地域看護論	2後・3前	1		講義			15						
	在宅看護援助論	2前	2		講義		30							
	地域・在宅の看護援助演習	2後	2		演習			60						
	地域・在宅の看護ケア実践	4前	2		実習							90		
	健康教育論	3前	1		講義					15				
統合看護の統合領域	看護研究方法論	3前	1		演習					30				
	看護研究	4通	4		演習							120		
	看護マネジメント論	4前	1		演習						30			
	看護マネジメント実践（統合実習）	4前	2		実習						90			
	国際医療と看護	4前	1		講義							15		
	卒業演習	4後	1		演習								30	
	産業保健	4前		1	講義							15		

2. 進捗表(2020年度・2021年度入学者)

科目区分	科 目 名	単 位		授業 形態	配当年次・時間数																							
		必修	選択		1年		2年		3年		4年																	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																
基礎 野	人間・ 社会 科学 領域	心の理解と共有	2		講義		30																					
		ストレスマネジメント	2		講義	30																						
		生命倫理	1		講義	15																						
		吉田松陰論		2	講義	30																						
		経済学		2	講義			30																				
		哲学		1	講義		15																					
		コミュニケーション理論と実際	2		講義		30																					
		教育学		1	講義					15																		
		感情と行動	2		講義					30																		
		人間と環境		2	講義			30																				
		体育実技		1	演習				30																			
		情報技術	情報基礎	1		演習	30																					
	看護情報		1		演習		30																					
	保健衛生統計		1		講義					15																		
	マルチメディア表現			2	講義					30																		
	英語コミュニケーション		1		演習	30																						
	看護英語A(看護原書講読)		1		演習			30																				
	自然言語	看護英語B(病院内会話)	1		演習		30																					
		中国語コミュニケーション		1	演習				30																			
		*日本語表現法		2	講義	30																						
		保健医療福祉行政と政策	1		講義			15																				
	社会の理解	医療と経済	1		講義			15																				
		看護関係法規	1		講義				15																			
		社会学		2	講義		30																					
		世界の医療保健制度		1	講義			15																				
	専門 基礎 野	健康 科学 と 病 態 学 領域	身体の構造と機能A (総論、消化器、呼吸器、血液・造血器、循環器、腎・泌尿器、骨格・筋肉、皮膚、生体防御系、男性生殖器、女性生殖器、受精と発生、成長と加齢)	2		演習	60																					
身体の構造と機能B (脳・神経系、消化器、呼吸器、内分泌、循環器、腎・泌尿器、男性生殖器、女性生殖器、眼・耳・鼻、皮膚)			2		演習	60																						
病態学総論 (細胞障害・変性と壊死、修復と再生、遺伝疾患、栄養・代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍、感染、病と人間の反応など)			1		演習		30																					
健康障害A (脳・神経系、消化器系、内分泌・栄養・代謝系、泌尿器系、水電解質・酸塩基平衡形、物理・化学的因子による健康障害、感覚器系)			2		演習		60																					
健康障害B (呼吸器系、循環系、血液・造血系、免疫系、感染防御系)			2		演習		60																					
薬物や放射線による人間の反応			1		講義			15																				
運動器系の健康障害			1		講義			15																				
小児の健康障害			1		講義			15																				
精神・心理の健康障害			1		講義				15																			
看護のための栄養学			1		講義		15																					
公衆衛生			2		講義				30																			
看護のための生化学			2		講義	30																						
*化学の基礎				2	講義	30																						
*生物の基礎				2	講義	30																						
先進医療			災害・救急時医療と看護	2		講義																		30				
			医療安全管理	1		講義					15																	
			先端医療	1		講義																					15	

科目区分	科 目 名	単 位		授業形態	配当年次・時間数										
		必修	選択		1年		2年		3年		4年				
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専 門 分 野	看護の基礎	ライフステージと発達看護論	1		講義	15									
		看護学原論	2		講義	30									
		看護理論と実践		1	講義								15		
		フィジカルアセスメント演習	1		演習		30								
		生活援助技術演習Ⅰ	2		演習	60									
		生活援助技術演習Ⅱ	2		演習		60								
		医療支援技術	2		演習			60							
		看護方法論(看護過程)演習	1		演習		30								
		基礎看護ケア実践Ⅰ(看護活動の実際)	1		実習		45								
		基礎看護ケア実践Ⅱ(生活の援助)	2		実習			90							
	リプロダクティブ・ヘルスの看護	リプロダクティブ・ヘルス援助論	2		講義			30							
		リプロダクティブ・ヘルス援助演習	2		演習				60						
		生殖・周産期看護ケア実践	2		実習						90				
	小児期の看護	小児発達援助論	2		講義			30							
		小児発達援助演習	2		演習				60						
		小児看護ケア実践	2		実習						90				
	成人期の看護	成人発達援助論	2		講義		30								
		成人発達援助演習Ⅰ(急性期・回復期)	2		演習			60							
		成人発達援助演習Ⅱ(慢性期・終末期)	2		演習				60						
	急性期・回復期看護ケア実践	急性期・回復期看護ケア実践	3		実習							135			
		慢性期・終末期看護ケア実践	3		実習							135			
		老年発達援助論	2		講義		30								
	老年期の看護	老年発達援助演習	2		演習			60							
		老年看護ケア実践Ⅰ(施設内の高齢者ケア)	3		実習							135			
		老年看護ケア実践Ⅱ(地域老年の健康指導・支援の実際)	1		実習								45		
	精神の看護	精神看護援助論	2		講義			30							
		精神看護援助演習	2		演習				60						
		精神看護ケア実践	2		実習						90				
	在宅の看護	災害時精神的援助論		1	講義					15					
		アディクション看護論		1	講義				15						
地域看護論		1		講義				15							
在宅看護学	在宅看護援助論(地域包括ケアを踏まえた看護)	2		講義			30								
	在宅看護援助演習	2		演習				60							
	在宅看護ケア実践	2		実習							90				
家族看護学	家族看護学	1		講義				15							
	看護と倫理	1		講義			15								
	看護マネジメント論	1		演習							30				
医療・看護の統合	看護マネジメント実践(統合実習)	2		実習							90				
	看護研究方法論	1		演習				30							
	看護研究	4		演習							120				
領域の統合	国際医療と看護	1		講義							15				
	卒業演習	1		演習									30		
	医療系アドバンスセミナー	1		演習									30		
健康・産業保健	健康教育論	1		講義					15						
	産業保健		1	講義								15			
	先端医療と看護		1	講義									15		

IX 科目ナンバリング

Ⅸ 科目ナンバリング

科目ナンバリング

科目のナンバリングは、教育課程（カリキュラム）の体系が容易に理解できるように、科目間の連携や科目内容を表す記号をつけ、教育課程の構造をわかりやすく明示する仕組みです。

1. 科目ナンバリングの意義

1) 学生の主体的な学習の支援

学生が、学習すべき授業科目の履修を検討する際、授業科目の分類、標準的な学習の段階や順序を理解したうえで選択することができます。

また、コードの構成は全学科で統一されているため、他学科の教育課程の体系を理解することが容易となり、学生が主体的な学習を行うための助けとなります。

2) 学外に対する教育課程の体系の理解促進

科目ナンバリングを公開することによって、学外に対する本学の教育課程の体系の理解の促進や、それによる国外大学との連携や単位互換等の円滑化に役立ちます。

2. 科目ナンバリングの構成

1) 主催区分コード＝科目を開講する学科、研究科をアルファベット1文字で示します。

2) 大区分コード＝学問領域を大きく区分し、アルファベット2文字で示します。

3) 小区分コード＝大区分の学問領域をさらに細かく分類し、数字1文字で示します。

4) レベルコード＝科目の配当年次をセメスタにして4学年をそれぞれ前期・後期にして、数字1文字で示します。

1 = 1年次前期 2 = 1年次後期 3 = 2年次前期 4 = 2年次後期
5 = 3年次前期 6 = 3年次後期 7 = 4年次前期 8 = 4年次後期

ナンバリングは以上のように構成され、授業科目毎にコードが付されます。

科目ナンバリングを令和4(2022)年度の教育課程から、文系3学部9学科は大学ホームページに記載し、看護学部看護学科はシラバスに記載し、大学院は履修要項に明示します。

なお、看護学部看護学科の科目ナンバリングの見方については下記に示すとおりです。

例 身体の構造と機能A N-MS11

主催区分	N	看護学部看護学科は「N」と表示
大区分	MS	「医学領域」を示す⇒疾病の科学
小区分	1	解剖学・生理学
レベル	1	配当年次をセメスタで示す⇒1年前期

※科目ナンバリングは、年度毎に付番するのではなく、原則として授業科目に固定したものです。この点で履修登録の際に使用する「時間割コード」とは役割が異なりますのでご注意ください。

看護学部2022年度カリキュラム：大区分・小区分コード

大区分		小区分	
哲学 Philosophy	PH	1	思想(建学の精神)
		2	哲学・倫理学
社会学 Sociology	SO	1	社会学
基礎教養 liberal arts	LI	9	その他
スポーツ科学 Sports science	SS	2	スポーツ実技
経済学 Economics	EC	2	理論経済学
		5	財政・公共経済
法学 Law	LA	6	医事法
コミュニケーション学 Communication science	CO	9	その他
語学 Language study	LG	1	英語
		2	中国語
		6	日本語
心理学 Psychology	PS	3	知覚, 認知
		4	発達, 教育
		9	その他
教育学 Education	ED	1	教育基礎
情報学 Informatics	IN	1	情報システム
		2	メディア・教養
統計学 Statistics	ST	1	データサイエンス
疾病の科学 Medical Sciences	MS	1	解剖学・生理学
		2	病態学
		3	薬理学の基礎・放射線医学の基礎
		4	栄養学
		5	生化学
		6	公衆衛生学
先進医療 Advanced Medical technology	AM	1	救急・災害医療
		2	医療安全管理
		3	先端医療
		9	その他

大区分		小区分	
看護の基礎 Basic Nursing	BN	1	看護の原理と理論
		2	生涯発達看護論
		3	看護倫理
		4	看護の基礎技術
ライフステージの看護 Developmental stages Nursing	DN	1	リプロダクティブ・ヘルス看護
		2	小児期の看護
		3	成人期の看護
		4	老年期の看護
地域の看護 Community Nursing	CN	1	精神の看護
		2	在宅の看護
		3	心理的危機の看護
看護の実践 Nursing Practice	NP	1	看護実践の基礎
		2	生殖・周産期の看護実践
		3	小児期の看護実践
		4	成人期の看護実践
		5	老年期の看護実践
		6	精神の看護実践
		7	在宅の看護実践
		8	看護マネジメント実践
看護の統合 Nursing Integration	NI	1	看護マネジメント
		2	看護研究
		3	公衆衛生看護
		4	国際看護
		9	その他

X 教員名簿

専任

氏 名	職 位	領 域	研究室
阿 部 ケエ子 (アベケエコ)	講 師	老年期の看護	1410
牛 島 典 子 (ウシジマノリコ)	准教授	看護の基礎	1414
大 橋 優美子 (オオハシユミコ)	学部長	成人期の看護	1313
大 脇 淳 子 (オオワキジュンコ)	教 授	小児期の看護	1307
小野坂 益 成 (オノサカマスナリ)	講 師	精神の看護	1406
垣 内 史 堂 (カキウチテルタカ)	教 授	専門基礎	1302
掛 谷 和 美 (カケヤカズミ)	准教授	成人期の看護	1410
川 下 貴 士 (カワシモタカシ)	助 教	精神の看護	2307
川 畑 貴美子 (カワバタキミコ)	教 授	成人期の看護	1408
川 原 理 香 (カワハラリカ)	講 師	成人期の看護	1411
木 原 博 子 (キハラヒロコ)	講 師	リプロダクティブ・ヘルスの看護	1411
草 地 潤 子 (クサチジュンコ)	教 授	老年期の看護	1315
佐 藤 京 子 (サトウキョウコ)	准教授	成人期の看護	1417
下 村 晃 子 (シモムラアキコ)	准教授	成人期の看護	1413
高 橋 真由美 (タカハシマユミ)	助 教	地域・在宅の看護	2307
勅使河原 俊子 (テシガワラトシコ)	助 教	看護の基礎	2307
富 田 幸 江 (トミタサチエ)	教 授	看護の基礎	1303
奈 良 かな子 (ナラカナコ)	講 師	看護の基礎	1415
西 法 子 (ニシノリコ)	助 教	看護の基礎	2307
深 田 雅 美 (フカダマサミ)	助 教	老年期の看護	2307
藤 井 智恵子 (フジイチエコ)	教 授	看護の基礎	1407
増 山 利 華 (マシヤマリカ)	准教授	リプロダクティブ・ヘルスの看護	1414
丸 山 昭 子 (マルヤマアキコ)	教 授	精神の看護	1316
村 井 恵 子 (ムライケイコ)	助 教	地域・在宅の看護	2307
望 月 麻 衣 (モチヅキマイ)	講 師	地域・在宅の看護	1415
箭 内 彩也佳 (ヤナイサヤカ)	助 教	リプロダクティブ・ヘルスの看護	2307
山 本 貴 子 (ヤマモトタカコ)	助 教	成人期の看護	2307
吉 井 信 哉 (ヨシイシンヤ)	教 授	専門基礎	1314
吉 田 裕 子 (ヨシダユウコ)	講 師	小児期の看護	1416
渡 部 月 子 (ワタナベツキコ)	教 授	地域・在宅の看護	1305
和 田 佳 子 (ワダケイコ)	教 授	リプロダクティブ・ヘルスの看護	1412

兼担

氏 名	職 位	研究室
大 沢 裕 (オオサワヒロシ)	コミュニケーション文化学部 教授	3611
岡 部 佑 人 (オカベユウト)	コミュニケーション文化学部 准教授	3603
金 澤 秀 嗣 (カナザワシュウジ)	経営文化学部 講師	3603
菅 沼 憲 治 (スガヌマケンジ)	コミュニケーション文化学部 教授	3804
鈴 木 秀 顕 (スズキヒデアキ)	観光メディア文化学部 准教授	1304
中 村 龍 一 (ナカムラリュウイチ)	コミュニケーション文化学部 教授	3803
深 谷 野 亜 (フカヤノア)	コミュニケーション文化学部 教授	3807
増 田 裕 彦 (マスタヒロヒコ)	経営文化学部 准教授	3813
松 浦 広 明 (マツウラヒロアキ)	観光メディア文化学部 教授	1204
宮 崎 隆 (ミヤザキタカシ)	コミュニケーション文化学部 教授	3711

非常勤

氏 名
内 田 哲 也 (ウチダテツヤ)
関 口 剛 (セキグチゴウ)
中 正 剛 (ナカセイゴウ)
成 尾 宗 浩 (ナルオムネヒロ)
福 田 良 夫 (フクダヨシオ)
別 所 文 雄 (ベッショフミオ)
山 口 恭 子 (ヤマグチキョウコ)
三 浦 左 千 夫 (ミウラサチオ)
渡 邊 良 久 (ワタナベヨシヒサ)

科目別索引

2022年度以降入学者

アディクション看護論	100
医療安全管理・感染管理	109
医療と経済	79
医療支援技術	82
英語コミュニケーション	41
家族看護学	89
看護と倫理	85
看護のための栄養学（治療食を含む）	62
看護のための教育学	92
看護のための経済学	74
看護のための社会学	56
看護のための生化学A	48
看護のための生化学B	47
看護のための哲学	53
看護のための倫理学	39
看護英語A（病院内会話）	55
看護英語B（看護原書購読）	77
看護学原論	50
看護関係法令	93
看護研究方法論	120
看護方法論（看護過程）演習	65
感情と行動	91
基礎看護ケア実践Ⅰ（看護活動の実際）	66
基礎看護ケア実践Ⅱ（生活の援助）	84
急性期・回復期の看護ケア実践	123
健康教育論	119
健康障害A	58
健康障害B	60
健康障害C	80
公衆衛生	95
心の理解と共有	37
コミュニケーション理論と実際	73
災害時精神的援助論	118
在宅看護援助論	90
小児発達援助論	96
小児期の発達援助演習	112
小児期の看護ケア実践	122
情報基礎	40

身体の構造・機能A（総論・構造）	43
身体の構造と機能B	45
ストレスマネジメント	38
生活援助技術演習Ⅰ	51
生活援助技術演習Ⅱ	64
生殖・周産期の看護ケア実践	121
精神看護援助論	99
精神看護援助演習	116
精神看護ケア実践	126
成人期の発達援助演習Ⅰ（急性期・回復期）	97
成人期の発達援助演習Ⅱ（慢性期・終末期）	114
成人発達援助論	67
世界の医療保健制度	94
地域・在宅の看護援助演習	102
地域看護論	101
日本語表現法（現代文長文読解）	42
人間と環境	75
病態学総論	57
フィジカルアセスメント演習	63
保健医療福祉行政と政策	78
保健衛生統計	107
マルチメディア表現	76
慢性期・終末期の看護ケア実践	124
薬物や放射線による人間の反応	81
吉田松陰論	54
ライフステージと発達看護論	49
リプロダクティブ・ヘルス援助論	86
リプロダクティブ・ヘルス援助演習	110
老年期の発達援助演習	87
老年発達援助論	68
老年期の看護ケア実践Ⅰ	125

2020年度・2021年度入学者

アディクション看護論	100
医療と経済	79
医療安全管理	109
医療系アドバンスセミナー	141
医療支援技術	82
運動器系の健康障害	80
家族看護学	89
看護と倫理	85
看護マネジメント実践	135
看護マネジメント論	134
看護英語A（看護原書購読）	77
看護関係法規	93
看護研究	137
看護研究方法論	120
看護理論と実践	131
感情と行動	91
基礎看護ケア実践Ⅱ（生活の援助）	84
急性期・回復期看護ケア実践	123
教育学	92
経済学	74
健康教育論	119
公衆衛生	95
国際医療と看護	136
災害・救急時医療と看護	129
災害時精神的援助論	118
在宅看護ケア実践	133
在宅看護援助演習	102
在宅看護援助論	90
産業保健	142
小児の健康障害	80
小児看護ケア実践	122
小児発達援助演習	112
小児発達援助論	96
生殖・周産期看護ケア実践	121
精神看護ケア実践	126
精神看護援助演習	116
精神看護援助論	99
精神・心理の健康障害	80
成人発達援助演習Ⅰ（急性期・回復期）	97
成人発達援助演習Ⅱ（慢性期・終末期）	114
世界の医療保健制度	94
先端医療	138

先端医療と看護	143
卒業演習	139
地域看護論	101
人間と環境	75
保健医療福祉行政と政策	78
保健衛生統計	107
マルチメディア表現	76
慢性期・終末期看護ケア実践	124
薬物や放射線による人間の反応	81
リプロダクティブ・ヘルス援助演習	110
リプロダクティブ・ヘルス援助論	86
老年看護ケア実践Ⅰ（施設内の高齢者ケア）	125
老年看護ケア実践Ⅱ	132
老年発達援助演習	87

2019年度以前入学者

医療系アドバンスセミナー	141
看護マネジメント	134
看護研究	137
国際医療と看護協力	136
災害・救急看護	129
在宅看護実習	133
産業保健	142
先端医療概論	138
卒業演習	139
統合看護実習	135

MEMO
